
平成10年度 自然・人・地域に学ぶ

—南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—



兵庫県立
南但馬自然学校
HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

はじめに

制度疲労

大蔵省のエリート候補は若い頃地方の税務署長を勤め、経済の「現場」を肌で感じる仕組みです。このすばらしい制度、何十年かたつと汚職日本の象徴みたいな機能しか果たせなくなってしまいました。この「制度疲労」が日本の社会に大きく広がっています。経済の混乱、その典型的な例です。もうひとつが教育でしょう。山があって、川があっておとながいてこどもがいる、それでこどもは育つはずです。社会が悪くなって学校が必要になりました。学校まで含めて社会がもっと悪くなってそれだけではこどもは育たなくなってしまった日本、兵庫県には全国に先駆けて「自然学校」制度ができました。

物事がすべて整い、方法が確立すると、それが制度疲労の始まりでしょう。自然学校制度、ハードもソフトもまだまだこれからです。おじさんみたいな素人が見てきたみたいな発言ができる、それを聞いてもらえる、まだ制度疲労が始まっていない証拠です。会議で黙っている人はいない、相互批判が活発、日本の教育現場にはめずらしいそんな環境が自然学校現場には存在しています。

何も知らずに校長になってしまって1ケ年、自然学校は素人のおじさんの感想です。発言があり批判があるこの現場で、何かやれそう、なんて感じています。

プログラム研究委員会の指導助言のもと、全委員班に分れての執筆でこのプログラム集が出来上がりました。皆様方の活発な討論、教育委員会の支援協力のたまものです。いろいろの現場で、かならず役に立つと考えています。ご協力に感謝し、子どもたちが楽しんでくれることを願いながら「制度疲労、跳んでけえ〜」

平成11月3月

兵庫県立南但馬自然学校

校長 森本雅樹

自然学校は、現在の学校制度の中では補完的なものにとらえがちですが、この事業に関わっている者としては、この自然学校が教育の最も重要な部分を担いかつ成果の上がるものであると考えています。

現在の学校教育のカリキュラムは、私たちが生活している世界に存在しているものや現象などについて理解を深め、知識を集積するために様々な事柄を学ぶようにできているのですが、どちらかというとそれぞれの科目が細分化しているために、頭の中だけの知識に終わりがちです。そして学んだことを実際の生活にどう結びつけ、生かしていけばよいかの分かりにくいというのが正直なところではないでしょうか。このところ現状の反省にたって総合学習の必要性がさげばれていますが、制約はあるもののむしろそちらが中心となるべきであって、総合学習でわき起こった疑問や気づきなどから改めて詳細を学ぶという順序のほうが生きた学習となるのではないのでしょうか。つまり総合学習の最たるものである自然学校で行うようなことが、普段の学校教育の中にどんどん取り入れられるようにすべきだと考えるのです。自然学校で行われることは教育の補完的なものというのではなく、柱になるものだといえますし、これからの教育の方法として大いなる可能性をもっているものだと思います。

今年度のプログラム研究委員会の主たるテーマは「どの様にプログラムを組立てるか」というプログラミングの例示にあります。このテーマ設定の理由は、活動プログラムの内容や配置されたタイミングが体系的でない場合、5泊6日が単なる活動プログラムの羅列で終わってしまい、成果が十分に発揮されないことが考えられるからです。自然学校実施にあたって、各校が掲げている〈ねらい〉が十分達成されるためには、まずどの様な活動プログラムを選び、5泊6日の中でそれらの個々の活動プログラムをどの様に配置し、全体の流れの中でどの様にそのプログラムを位置づけるのかなどについて、十分検討される必要があります。ここではそのための参考となるような例を掲げました。また、プログラムをその様にした理由や意味を示してありますが、そのあたりもよく読み取っていただきたいと思います。本冊子に著されているものは、それぞれ各委員の豊富な実体験を示されたもので、机上論ではなく生きた具体例として参考にしていただけるのではないのでしょうか。もちろん実際のプログラムの組み立てにあたっては、現場の指導に携わられる諸先生の明確な考え方をもち、各校の諸条件にあったものを作っていたいただかなければなりません。そうすればきっと楽しく有意義な自然学校が実施されることでしょう。

兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会

委員長 山田 誠

も く じ

○はじめに

I 兵庫の自然学校	
1 自然学校成立の背景	1
2 自然学校の現状	1
3 自然学校のねらい	2
4 プログラム作成の考え方	
(1) 作成の視点	3
(2) 作成の手順	3
II 活用にあたって	4
III 生きる力を育てる5泊6日のプログラム —平成10年度南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—	
1 本年度の取り組み	
(1) 研究開発の考え方	5
(2) 研究開発の方法	5
2 5泊6日のプログラム作成例	
(1) 豊かな感性を育むプログラム	
・はじめに	6
・プログラム作成の基本について	7
① つくるよぼくらの自然園!	8
② 丸太まるごと思いを込めて	10
③ 化石発掘大作戦	12
④ パンパー大作戦	14
⑤ 友だち最高!そして、わたしも	16
⑥ ここでくらすんだ! ワンダーランドわれらの基地	18
⑦ 自然と友だちになろう(山編)	20
⑧ 自然と友だちになろう(海編)	22
⑨ 自然大好き	24
⑩ 自然は生きた教科書	26
⑪ 友だちとくらそう	28
(2) 成就感・達成感を育むプログラム	
・はじめに	30
・プログラム作成の基本について	31
① 自然学校絵巻	32
② ぼくらの自然公園	34
③ 5年B組、旅ガラス	36
④ 友だち100人できるかな	38
⑤ 基地づくり	40
⑥ この火はぼくらの火だ	42
(3) 自主・自立を育むプログラム	
・はじめに	44
・プログラム作成の基本について	45
① ザ・サバイバルステージ	46
② 誰でもできる「ちょっと過酷で、後楽しい」	48
③ 竹1本で何ができるかな?	50
④ ネバーランドをつくろう	52
⑤ 私のお家は最高だ	54
⑥ 個性が輝く自然学校	56
⑦ ぼくたちは名コック	58
⑧ 自然まるかじり	60
※ 活動集	62
※ 参考	
1 自然学校の円滑な実施のために	
(1) 自然学校専門指導員等の配置及びその活動	131
(2) 指導員等の確保方法	132
(3) 事業費の補助について	132
・自然学校推進事業補助金交付要綱	133
2 自然学校に活用されている主な宿泊施設	137
3 自然学校で活用されている主な県立施設	138

I 兵庫の自然学校

1 自然学校成立の背景

兵庫県では、21世紀を「調和ある共生の世紀」とするため、「こころ豊かな人づくり」を重要施策の一つとしてかけ、さまざまな施策を実施している。この施策の推進にあたり、教育専門家や各界の有識者25名による「こころ豊かな人づくり懇話会」が昭和62年度に設置され、広く県民が参加する「こころ豊かな人づくり全県フォーラム」が開催された。その中で、物質的な豊かさと便利で快適な生活を享受できるようになった現代社会にあって、知育優先、学歴偏重の風潮も手伝い、子どもたちが人工的なものに心を奪われ、人間としての基本を教える自然との関わりや直接体験の機会が著しく減少していることに危機感を抱き、「児童生徒の自然とのふれあい、家族や友達、地域の人々との心のふれあいが、人間形成に大きな意義がある」という基本的な考え方が提起された。

幸い兵庫県は、山、海、川等変化に富んだ自然環境に恵まれており、この自然環境の中でさまざまな体験活動を行い、協力性や連帯感などの仲間意識を育み、深める機会を実現する意義は大きい。

こうした提言を受けて兵庫県教育委員会では、5泊6日の期間、学習の場を教室から豊かな自然の中に移す「自然学校推進事業」を実施してきた。

昭和63年度からの実施状況は、次の通りである。

年 度	昭和63年度	平成元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10年度
実施校数 (小学校)	113	321	535	787	836	841	824	839	836	832	837
参加人数	7,989	22,389	39,079	62,578	65,509	66,686	65,471	63,896	61,622	59,746	57,798

(平成11年2月22日現在)

* 平成3年度から公立小学校全校を対象に実施

* 平成6年度は、兵庫県南部地震の影響を受け、12校が中止

2 自然学校の現状

自然学校は、子どもが自然、人、地域社会とのふれあいの中で、思いやりの心やたくましい生命力を培い、学校生活では得られない体験を通して学習することをめざしている。自然学校の実施以来、自然にふれ、友だちや先生、さらには地域の人々とのふれあいを通して、自立する心、人を思いやる豊かな心が培われ、皆と力を合わせてなした時の満足感が味わえ、さまざまな体験活動が実施できたと児童・保護者・学校関係者から多くの成果が報告されている。

さらに、平成6年5月に自然学校の受入れ専用施設として県立南但馬自然学校が、山東町の広大な自然の中に開校された。

ここでは、自然学校としての場の提供はもちろん、自然学校で学習する先導的なプログラム開発調査研究、自然学校指導者養成としての各種研修及び県下各地の自然学校に関する情報の提供など自然学校の中核的な役割を果たしている。開校以来360校が利用しており、自然学校専用施設としての利点を生かして、ゆとりある活動を展開している。

平成6年度以降、南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめとして、冊子「自然・人・地域に学ぶ」を作成し、各学校に配布して、「ゆとりある活動」を中心に、数々の先導的なプログラムを紹介してきた。各学校においては、この冊子を参考にして、子どもの側に立った独自のプログラムを工夫したり、テーマを設定し、各活動内容に一貫性をもたせたりしている。

自然学校実施以来、10年が経過した。この間情報化社会は一層進み、人間関係の希薄化や直接体験の不足を招き、深刻な問題を生み出している。このなかにあつて、子どもたちのみずみずしい感性や豊かな人間性を育むためには、自然・人とのふれあいを深めることが不可欠になっている。

また、震災を経験し、自然への畏敬の念とともに、生命の尊さ、困難にくじけない強い心、思いやりや助け合いの心の大切さ等を痛感した。

この体験を生かして、自然学校プログラムを工夫改善し、人間としてのあり方や生き方を学んでいくことが大切になっている。

3 自然学校のねらい

自然学校は、学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、子どもたちが人とのふれあいや自然とのふれあい、地域社会への理解を深めるなど、さまざまな活動を年間指導計画に位置づけ実施することにより、心身ともに調和のとれた健全な子どもたちの育成を目的としている。

豊かな自然を利用し、教科という枠を超えて行う合科的あるいは総合的な学習が期待されているが、「豊かな自然」という言葉には二つの意味がある。その一つは、自然が豊富で、変化に富み、その偉大さや恩恵や厳しさにふれることができる場所としての豊かさであり、二つ目は、5泊6日の期間による自然とのふれあいの時間としての豊かさである。ゆとりある期間の中で思いっきり自然にひたることが大切である。

このゆとりの中で実施される自然学校のねらいは、次の三つに要約される。

ア 自然とのふれあいや地域社会への理解を通して、学校では得がたい体験学習をする。

- ・ 学校や日常の生活ではできないような学習を展開し、その後の学習に生かす。
- ・ 全身と全ての感覚を使ってさまざまな体験活動を行い、体験の幅を広げる。
- ・ 自然環境によくふれあうことによって、自然に対する興味や関心を育て、学習意欲を高める。

イ 集団宿泊生活を通じて、人間的なふれあいを強め、お互いの信頼関係を深める。

- ・ 家庭を離れた生活を通して、自主・自立、自律心や社会性等を養う。
- ・ 生活全般にわたる共同生活を通じて、他を思いやるやさしさや協力する心、友達どうしの連帯感を養う。
- ・ 仕事の分担を通して、自分の役割と責任の大切さを学ぶ。

ウ 自然の中での活発な活動を通じて、健康増進を図る。

- ・ 自然の中で活発に活動することによって、身体の諸機能を発達させ体力を養う。
- ・ 健康や安全確保に心がける注意力や関心を育てる。
- ・ 規則正しい生活を通じて、健やかな体と豊かな心を育てる。

これらのねらいは、各学校の教育目標や実状と関連づけて具体化され、年間指導計画に位置づけ実施されることが必要である。

また、これらのねらいを実現させるためには、自然、人、地域そのものを教材とした具体的で総合的な学習を進めることが望まれる。

II 活用にあたって

より一層生きる力を育むためには、指導者の意図を明確にした5泊6日のプログラムの作成が求められる。

今年度示した各プログラム例は、各観点のねらいを見通し、そのねらいの実現のために切り口を明確にしなが、プログラムの組み立ての中で、特に5泊6日の流れが分かることが特徴である。

従って、5泊6日の流れをイメージしやすくするため、記述方法も各例によって特色がある。

なお、安全面は、特に留意することのみ趣旨でふれる程度であり、実施段階においては補足が必要である。

以下、開発した活動例の見方及び活用の仕方について説明する。

活 動 名

イ メ ー ジ 図

○設定の趣旨

- ねらいをイメージしたネーミング。
- ねらいをイメージした図または写真。
- 作成者の意図を全般的に示しながら、プログラムの読み取り方（5泊6日の流れ）を記入してある。

	活 動	活動設定の意図	指導上の留意点
一 日 目			
二 日 目			

- 主な活動名
必要であれば午前、午後、夜の区分を、また日にち毎の区分も必要であれば記入してある。
- 活動を設定した理由
この日に位置づけた意味
工夫した活動形態や取り組み方法等
(なぜこの活動を、このように設定したか分かるように表記してある)
- 一般的な留意事項ではなく、指導上に必要な事項を記入してある。

Ⅲ 生きる力を育てる5泊6日のプログラム

—平成10年度南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—

1 本年度の取り組み

(1) 研究開発の考え方

自然学校が10年を経過し新たな一步を踏み出す時、より一層子どもたちの生きる力を育む自然学校の実施が求められている。

当プログラム研究委員会では、平成6年度には小学校のプログラムとして、「ゆとり」「環境教育」「段階的な指導」等の観点での開発を、また平成7年度には、中学校のプログラムとして「自主性」「自立心や自律の精神」「自治能力を養う」等の観点から開発してきた。さらに、平成8年度には「児童の参画を促す活動の開発」、平成9年度には「感動を得る活動の開発」を行ってきた。

各学校は、これら開発した数々の先導的なプログラムを基に、テーマを設定し、子どもの側に立った独自のプログラムを工夫したり、活動内容に一貫性をもたせたりして、子どもが成長（変容）したと思われる手応えを多様な観点に渡って報告している。

そこで本年度は、先に示された自然学校推進事業検討委員会の課題を念頭に置きながら自然学校を体験している子どもたちの様々な力や心を、指導者がどの視点でどの様に受け止めていくのかの、指導者の意図を明確にした5泊6日のプログラム例を開発することとした。

平成9年度に開催された自然学校推進事業検討委員会では、次の課題が指摘された。

自然学校の果たす役割として

- ・ 自然学校で体験したことがふだんの生活の中で実践できる場の配慮等、生涯にわたって生きてはたらく体験活動にすることの大切さ。
- ・ 自然学校を通じて一層子ども理解を図るとともに、教師と子どもが自立するための一つの場とする。

プログラム開発の視点として

- ・ 自然とふれあう機会が著しく減少している状況に危機感を持ってスタートした自然学校の原点に戻り、自然と豊かにふれあう活動を通して、自然に対する認識を広げ、深めさせるプログラムの開発。
- ・ 震災体験を通して生命を尊重するところを醸成することや、限られた物の中で生活する等震災から学んだことを生かしたプログラムの開発。
- ・ 子どもたちが自ら進んで行う活動の一層の促進として、選択型等多様なプログラムの開発

(2) 研究開発の方法

指導者の指導の意図を明確にし、ねらい達成のためにいかに5泊6日のプログラムを組み立てるかに焦点を当てることを研究開発の主眼として、その具体化として「豊かな感性」「達成感・成就感」「自主・自立」の三つの観点に区分して研究を進めた。

各観点の部会では、その観点の定義付け及びプログラム作成の基本、プログラム例については活動内容の整理を行いながら、ねらい達成の過程がより分かりやすい5泊6日のプログラム例の研究開発に努めた。

当然ここで開発したプログラム例は、実施校にとっての参考例であり、強いて言えば各実施校が子どもの実態や教育方針に沿って、より特徴的なプログラムの組み立てを行い、生きる力を育む自然学校の実施につながることを願っている。

2 5泊6日のプログラム作成例

(1) 豊かな感性を育むプログラム

・はじめに

子どもたちが成長するうえで豊かな感性を身につけることが大切であることは衆知の事実である。しかし、感性とは何かと突っ込んで考えていくと、感性についての理解が個々で微妙に違っている。そこで、感性を教育事典で調べると以下のとおりである。「外界の刺激に応じてなんらかの印象を感じ取る、その人の直観的な心の働きである。意志・知性などの理性的認識とは区別させる。感性は生まれつきそなわっている生理的感情を基礎として成長とともに育てられ、豊かな感性となっていく。」

つまり、感性は人間に生まれつきそなわっているもので、いろいろなことを体験しながら成長とともに育てられて豊かなものになるという点に注目した。

しかし、一方今子どもを取り巻く状況は、子どもが本来もっているはずのさまざまな感性を大人が開花させず、子どもの発想やつぶやきを閉じこめてしまっている。

だから、自然学校の中でのさまざまな体験を通して、子どもたちが感性を磨くことが一層大切になってきていると考える。

さて、感性の入り口として、感性をことばとして表現するとどうなるかを検討し、以下に整理した。

感性の入り口としてのことば	それを実現するために考えられる自然学校での状況
うつくしい	・雲海 ・早朝登山のご来光 ・里芋の葉にたまった露 ・魚の鱗 ・一生懸命に工作する友達の顔
すばらしい	・竹から竹トンボを作った。それが飛んだ。
きれいな	・紅葉した木の葉 ・苦勞して登った山の頂上から見た風景
びっくり	・クモの巣にかかった獲物をクモが食べる時
うれしい	・自分のやったことを先生が誉めてくれた時
かなしい	・風景を見ていて思わずさびしくなった時
やさしい	・困っているときの友達の優しい一言
心が痛い	・軽い気持ちで言ったことが、思わず人を傷つけてしまったこと
いいなあ	・他人がなかよくしている様子を見た時
ゆっくりするなあ	・せかせかせずのんびりと活動することでみえてくること
またやるぞ	・試行錯誤しながら、くりかえし取り組むことでできるようになる

つまり感性というものは人間が本来身につけているものではあるが、いろいろな体験をすることでさらに磨きがかかり、一層深くしかもひろがりのあるものになると考えた。

※ 新教育学大事典第2巻 第1法規出版株式会社 1987年発行

・プログラム作成の基本について

当部会では前に述べたように基本的な考えとして、感性は本来人間が持ち合わせているものであると考えた。そしてさらに、本来持っている感性というものは体験によって磨くことが可能であると考えた。ところが、現在の子どもたちの生活をみると、自然体験や社会体験が不足するなかで、感性が曇っているととらえた。その曇りを取るため、まず感性の入り口としての五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）があり、その五感を通して自然の美しさや厳しさ、人間のすばらしさ等を体験することで、心がしなやかに動き、やわらかな心になって感性が磨かれていると考えた。

感性を磨く時に重要な視点として、子どもの心の解放がある。現代の子どもたちは素直に思いっきり笑ったり、悲しんだりするという心のたけを表現することが苦手になっている。そこで、感性を磨くということを考えるとき、自分の言葉で自分の気持ちを表現したり、相手の気持ちになったりすることも大切な視点であると考えた。

次に感性を磨く視点として、日頃体験できないことを細切れの時間でなく、1週間じっくり時間をかけて、一つの活動をやり遂げさせることを取り上げた。この際に大切なことは、失敗を失敗に終らせず、試行錯誤を繰り返しながら乗り越えていくという成功感を感じさせることであろう。そしてその活動の中で起こる悔しいとかうまくできたといった心の動きを大切にすることが必要であろう。さらに子どもの心に食い入るためには、日頃の体験と異なる活動や日頃体験していても意識してなかったことにあえて挑戦することである。子どもたちが目から鱗が落ちるといった経験をするのではないかと考えた。

さらに、自然物で工作をしたりする創造や体験を記録に書き留めたり、詩や作文といった文字で体験を綴ったり、スケッチを描いたりすることも感性を磨くことにつながる。

最後に、遊びは感性を磨くこととも密接につながっている。つまり、活動そのものに全身全霊で打ち込むという体験の積み重ねで感性が育つと考えた。

今まで述べたことを感性を磨く視点ということでもまとめると以下のようなだろう。

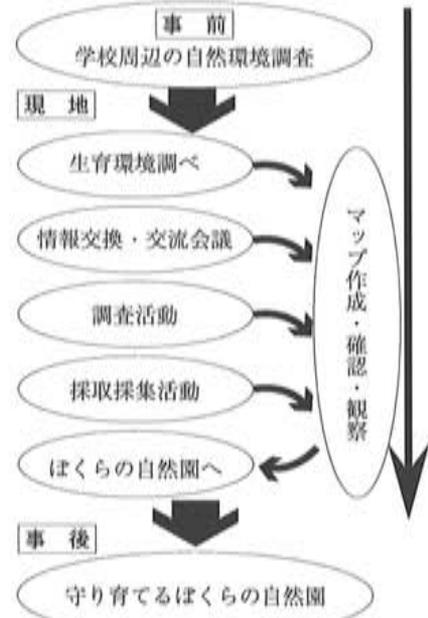
- …… 感性を磨く視点 ……
- 五感を通した活動
 - 自然のもつ多様性や人間のすばらしさにふれる体験
 - 思いっきり心のたけを表現する
 - 日頃できないことをじっくりと取り組む
 - 失敗をのりこえて成功する
 - ものを創造する
 - 遊びを取り入れる
 - 教えてもらうのではなく自分から取り組む

以上の視点で、感性を磨くための5泊6日のプログラム例を作ることにした。

つくるよぼくらの自然園！



「6日間通しての活動」



○設定の趣旨

1 豊かな感性を育てる5泊6日にするために大切にしたい項目として

- (1) 明確な最終の目標を持って。
- (2) 数年先を見据えて学校に自然環境を創りあげる。
- (3) 毎日行う定点観測。(日々変化する自然の表情等)
- (4) 長時間没頭できる活動。
- (5) 6日間通しての活動。

① 6日間続ける毎日ステップアップ方式でのプログラムをねらいたい。

② 児童は日々考え、様々なものを見聞きし学び取る。

③ 感じ取ったものを毎日の作業工程を通し表現する。

④ ここでの活動例としては、学校のピオトープ計画を想定している。

ア 事前学習を含め、十分な生育環境調査をする必要がある。これによって無意味な採取・採集にならぬよう生態系維持をも考えた計画を立てさせる。

イ 各自が感じた自然をマップに表現する。(毎日発見があり変化する。)

ウ 交流によるふれあいを大切にし、現地の人々から情報を得る。

エ 標本づくりに終わらぬよう、学校への移植、移送を行い設置して育てる。

(6) 学校全体へ活動の意図を示し、委員会活動や次学年へ引き継いでいくことで完結。

2 児童へのはたらきかけについて

- (1) 直感的な心の働き、やりたいこと、ほしいものにはこだわる。
- (2) 望むこと・やりたいことは早朝から日暮れまで没頭する。
- (3) 施設はベース、そこから出て活動範囲を広くとる。
- (4) 手作り・手作業・自力で。
- (5) 人と話し、情報を得、知恵をしぼる。
- (6) 生命を感じ、大切に育む。
- (7) 自然学校で終わらず、自然学校から始まる活動として、事後の自然園維持が大切。

	活 午 前	動 午 後	夜	活動設定の意図	指導上の留意点
一 日 目	生育環境調べ ・事前学習の学校での環境と比較し調査マップを作り、採取、採集の計画	動植物マップ作成	現地の人を招いて情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・自然学校への参加が自身のみでなく大きな目標を持って有意義なものとなるようにしたい。 ・年間カリキュラムに位置づけた学習の一貫としてステップアップさせたい。 ・指示を受けてでなく自発的に行動させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から6年生までのカリキュラム進行に沿ってテーマ・内容を整理し、指導を積み重ねる。 ・情報提供、アドバイザーは前年度実施生（6年生）。次年度への情報提供が使命であることも伝えておき、継続性を持たせる。
二 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・山、森、草むら、川、水辺等へ出かけ生育環境を記録し、学校自然園への移植等が可能かどうか作戦会議 		作戦会議 トラップ作成		
三 日 目	情報交換・交流会議 <ul style="list-style-type: none"> ・現地地域の小学生と情報交換会、地域ごとの自然環境について交流会議 ・生育環境、採取方法等情報収集 ・記念植樹等交流活動 	マップによる情報確認	環境の変化について長老の話をおこう	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の比較から未知なるものへの興味・発見によってさらに詳しくその生態系を追求し、「自分たちにできること」を考えさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地校との連携を図り、情報交換や環境会議、樹木交流等を通して子どもたちどうしがふれあい学びあえるよう支援する。 ・地域の大人の協力を得る。
四 日 目	採取・採集活動（環境） <ul style="list-style-type: none"> ・石や土等、調査、採取、採集行動 ・栽培、飼育環境に適應できるように準備 ・輸送計画 		調査活動 夜行性の生き物等	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を育むためには、環境を整えることが第一であり、購入してペット化するような方法ではいけないことを実体験させるよう設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は標本づくりではなく飼育・栽培であることを重要視させ、さらに、無理な移送にならぬよう判断材料をそろえ、気づかせておく。
五 日 目	採取・採集活動（生物） <ul style="list-style-type: none"> ・生物、植物、飼育条件に必要な飼料入手 ・観察記録・飼育計画 	観察活動	採取・採集活動	<ul style="list-style-type: none"> ・感動・感激を持ち帰り、育み、大切に守り育てる意欲を持って行動させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の飼育計画を立てるうえで、現地環境下での様子をしっかりとまとめさせる。
六 日 目	環境クリーンアップ行動 輸送準備	学校へ		<ul style="list-style-type: none"> ・命あるものを移送するので帰校後すぐに移植・放流させたい。 ・後日マップと共に成果を他の学年に発表させることで自然学校を終えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー（6年生）を中心とした受け入れ側の体制づくりを全校規模で計画しておく。

丸太まるごと思いを込めて



「6日間かけての活動」

見つけたもの感じたことを表現しよう

周辺の探索で

森で感じて

川で見つけて

町を歩いて

私だけの僕だけの

6日間の自然学校での体験を表現して

丸太まるごと思いを込めて

○設定の趣旨

1 豊かな感性を育てる5泊6日で大切にしたい項目

- (1) 「出会い」・「別れ」の演出。
- (2) 集団目標・個人目標「やりたいことへの意欲・やったことへの満足」
- (3) 毎日行う定点観察。(日々変化する自然の表情等)
- (4) 長時間没頭できる活動。
- (5) 6日間かけて創りあげる活動。

① 6日間続ける毎日ステップアップ方式でのプログラムをねらいたい。

② 児童は日々考え、様々なものを見聞きし学び取る。

③ 感じ取ったものを毎日の作業工程を通し表現する。

④ ここでの活動例としては、ミニトーテンポール(杭)を想定している。

ア ミニトーテンポールは立て札・案内標示物として活用できるものに計画する。

イ ポール本体に各自が感じた自然を表現する。(毎日発見があり変化する。)

ウ 皮つきの丸太と6日間かけて対話しながら制作活動を続ける。

エ 暮らしに役立つ情報案内を表示し、設置して完結する。

2 児童へのはたらきかけについて

- (1) 直感的な心の働き、やりたいこと、ほしいものにはこだわる。
- (2) 望むこと・やりたいことは早朝からじっくり時間をかけて。
- (3) 活動範囲を広くとり、情報を集めて。
- (4) 手作り・手作業・自力で・協力して。
- (5) 人と話し、情報を得、知恵をしぼる。
- (6) 1本の丸太が6日間の体験の思い出であり、やり遂げた証明となる。

	活動		夜	活動設定の意図	指導上の留意点	
	午前	午後				
一日目	利用施設へ 現地集合	周辺探検 (立地条件 その他設備 用具等情報 収集)	丸太を使って ビッグな 思い出づくり	<ul style="list-style-type: none"> 活動地域全体との出会いを演出し、自分たちの暮らし方の情報を得ることからはじめさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用施設周辺を探りながら施設へたどり着けるよう支援する。 役場等との連携により、情報提供を依頼しておく必要がある。 	
二日目	森の暮らしを訪ねてみよう 森で働く 森で暮らす (林業体験)	森で食う 森に遊ぶ 冒険隊!		<ul style="list-style-type: none"> 森での人間の暮らしから、夜の森に活動する動物たちまでその暮らしの背景をそれぞれの発見によってつかませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 林業体験中に危険動物について触れておく。 林業に従事している人の暮らしや知恵を見聞きするよう援助する。 	
三日目	川へ出かけてみよう 川に生きる もの達は? (生物調査)	川で感じて		夜の河原で (蛭狩り)	<ul style="list-style-type: none"> 水に入って調査し体験することで自然が育む生命と自然の持つ力を感じられるよう設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 流水の危険性について肌で感じさせてから午後のチャレンジへと進ませる。 天候により毎日違った状況になる川の様子に気づく機会(現地の人の話等)を用意しておく。
四日目	ふれあいの旅に出かけよう (ウォークラリー)				<ul style="list-style-type: none"> 施設を中心とした町を歩き、地元の人に訪ねることでふれあい、情報収集しながら目的を達成することができるよう行動させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題以外に制約をつけないよう計画し、歩くだけでなく情報を得なければ達成できないように仕組む。 下見が重要であり、役場等との事前打ち合わせが必要である。
五日目	自然の中で創りだそう (天然素材クラフト) ・材料調達(山・川・森) ・自然物を表現				<ul style="list-style-type: none"> たっぷりと時間をかけ好きなもので好きなだけ創作活動に取り組みせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 野外で、できるだけ道具の使用を少なくし、素朴なクラフトの温かさを大切にさせる。 制作キットのような材料は与えないようにする。
六日目	感謝の気持ちを込めて (まとめ) ・丸太の 制作物設置 (別れ)			<ul style="list-style-type: none"> 6日間の暮らしをふりかえり、感謝の意を表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅してからの生活に向けて、自然学校の余韻を残すまとめになるようお世話になった人との別れを演出する。 	

化石発掘大作戦



○ 設定の趣旨

「これは、貝の化石」「木の葉の化石」「三葉虫の化石」「そして、これがアンモナイトの化石」とくると、子どもたちの瞳は好奇心でキラキラと輝く。そして、子どもたちの思い（興味、関心）は、何千万年前へそして何億年前へと飛び立つのである。

最近の子どもたちは、時間的制約等のために自然とふれ合う機会が極めて少ない。そこで、自然の中で自分の体を動かし汗を流し、頭を使い創意工夫をするなかで本物の化石と出会う体験活動を通して、豊かな感性を磨かせたいと思う。

ハンマーを振るとパカッと石が割れる。「あっ!」「化石だ!」この感動を子どもたちに味わせたいと願いこの活動を設定した。

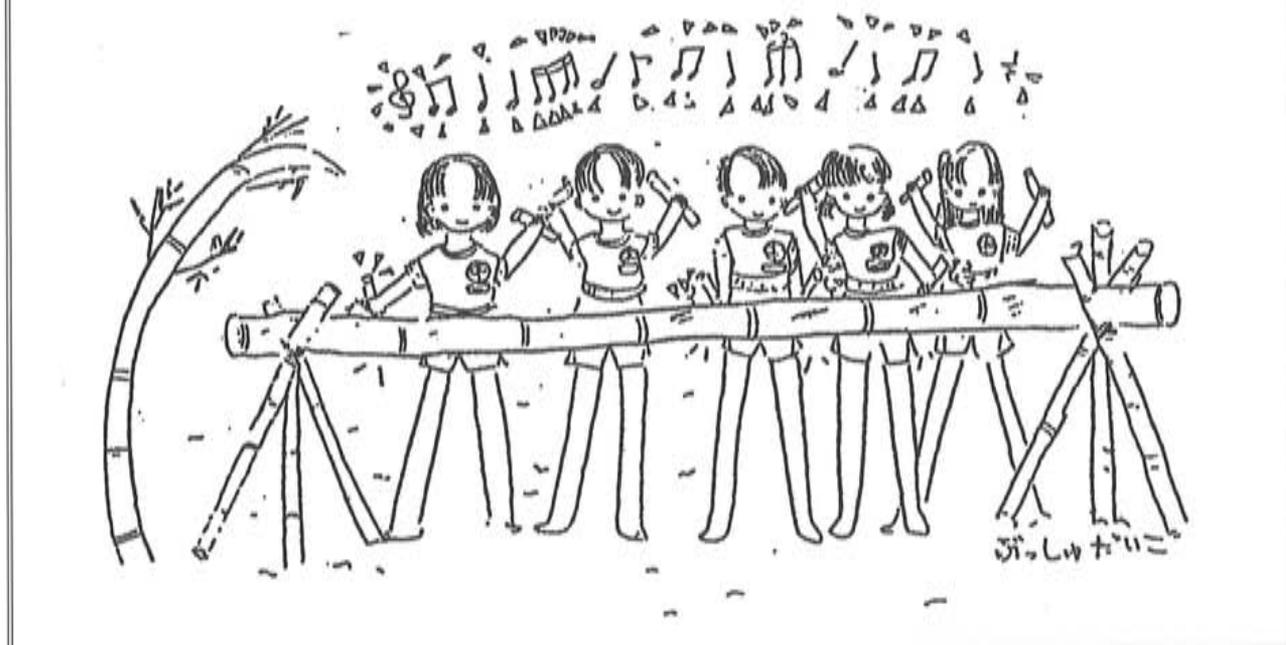
プログラムの流れは、

- 1 自分たちの一週間の活動拠点をを知る。学校や家庭を離れた開放感を十分に味わう。
一週間の活動への意欲づけとしての場面を設定する。(1日目)
- 2 化石への興味、関心を高めたり、イメージ作りの場面を設定する。(2日目)
- 3 自然を実感し、探求心を育て感動を生む場面を設定する。(3、5日目)
まず、各グループごとに資料や過去の発掘場所を参考に自分たちの発掘場所を考え、1回目の発掘を行う。うまく発掘できたグループはさらにより化石を探すため、また、うまく発掘できなかったグループはさらに考えたり、他のグループからのアドバイスのもと再度発掘できるように2回目の活動を設定した。
- 4 気分転換と新たな活動意欲を高める場面設定である。(4日目)
- 5 一週間の活動の成果を認め合う場面を設定する。(6日目)
自分が発掘した化石をみんなに報告をし、その喜びを通して次へのチャレンジへの意欲付けをする。

活動の形態は、活動内容からしてグループ活動を中心とする。そして、各グループ活動の中に子どもどうしのアドバイス、協力関係が育つようにする。それをさらにグループどうしでのアドバイスや協力関係へと発展させていく。

	活 午 前 午 後 夜	動	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	散策	太古への ビデオ ロマン	<ul style="list-style-type: none"> 夜の活動は、一週間のメインになる化石への興味・関心を深めるために設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 開放感を十分に味わわせるため、自由なグループ行動とする。
二 日 目	発掘会議（１）	石膏化石作り	<ul style="list-style-type: none"> （１）の活動は自分たちで考えることにより、発見時の感動をより大きなものにできるよう設定した。 昼の活動は、化石へのイメージを高めるため設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的資料を多く提示する。 制作時に、インパクトのある実物化石を準備する。
三 日 目	発掘作戦（１）	家族への 便り	<ul style="list-style-type: none"> 作戦（１）は、あくまで自分たちの力で行わせたい。 夜の活動は、昼間の感動を家族に伝えるため設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 斜面での発掘は、安全面への十分な配慮が必要である。 目と手の保護のため、ゴーグルと手袋を準備する。
四 日 目	カッター	発掘会議（２）	<ul style="list-style-type: none"> 気分転換と体験活動を豊富にするため、使用施設のメイン活動を設定した。 会議（２）は、情報交換と新たな意欲付けのため設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の疲労度を観察し、疲れがあるときはカッターを午後にする。
五 日 目	発掘作戦（２）		<ul style="list-style-type: none"> 情報交換で得た知識と、自分たちで再度考えたことを生かす機会として設定した。 全員が発見の喜びを味わえるように設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに化石を発見しているグループは、未発見グループの援助ができるようにさせる。 化石発見時は、共に喜びあえるようにする。
六 日 目	発掘発表会		<ul style="list-style-type: none"> 発掘の喜びや感動をより大きなものにするため設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会を通して、化石への思いが継続するような雰囲気をつくる。

バンブー大作戦



○設定の趣旨

「カーン」「コーン」…「ブッシュ太鼓」の音色は実に澄んだ音ですがすがしくよく響く。そして、竹のバチに伝わる竹の弾力性は心地がよい。また、体をおもいっきり動かし汗をかいた後、竹の水筒から飲む水は何とも言えないうまさがある。お腹をすかし竹筒に入った炊き込み飯を食べるときは、その香りのよさと野生味に子どもたちの心はわくわくする。

竹…これはどこでもよく目にする植物だが、様々な利用方法があることを子どもたちは知らないことが多い。そこで一週間、竹、竹、竹と竹を原材料として利用し、様々な活動を通して、竹の持つ素晴らしさを知ったり、新しい発見をするなかから自然への感動を育てたいと願いこの活動を設定した。

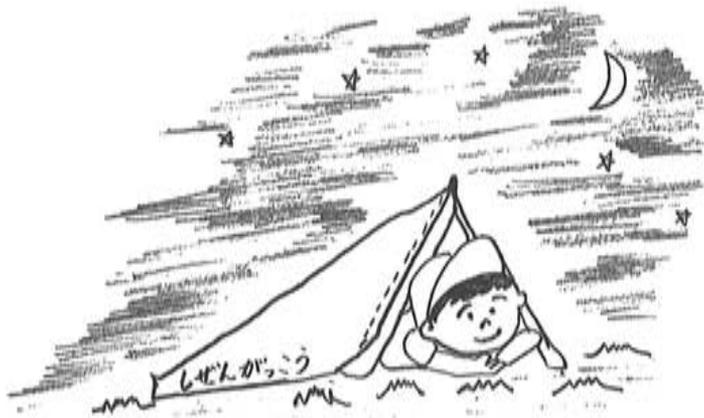
プログラムの流れは、

- 1 自分たちの一週間の活動拠点を知ること、学校や家庭を離れた開放感を十分に味わうための場面を設定する。(1日目)
- 2 活動を一日単位のものではなく、継続したものにするための場面の設定である。(2日目)
メイン活動となる4日目の諸準備を兼ねつつ、竹での数々の食器作りや釣り竿作りをするのである。完成した物をすぐには使わず、待たせることにより、より一層喜びを大きなものにする。
- 3 気分転換と新たな活動意欲を高める場面設定である。(3日目)
- 4 一週間のメインの活動日である。2日目、3日目に制作してきた様々な物を使い、体で、鼻で、舌でと自然を実感する場面の設定である。(4日目)
今まで高めてきた、期待や喜びを大きくふくらませる活動である。
- 5 一週間の思い出をより深いもの、より鮮明なものにするためにキャンプファイヤーは最終日の夜に設定する。(5日目)
キャンプファイヤーを、より一層盛り上げるために自作の竹製楽器を使うのである。
- 6 様々な活動を通して、新たな発見や感動を与えてくれた場所を美しく清掃することにより、感謝の心を育てるための場面設定である。

活動の形態は、2日目までは個人活動が中心となる。そして、3日目、4日目へと日が進むにしたがってグループ活動となり協力や助け合いが必要になるようにしてある。そして、喜びや感動がより大きなものになるようになることを願っている。

	活 動 午 前 午 後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	散策 夜を 楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> 夜の活動は、現代の子どもは夜の自然にふれる機会が少ないので設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 解放感を十分に味わわせるためには、自由グループによる行動がよい。グループに入りきれない児童への配慮が必要である。 散策時に、夜の活動拠点を決めておく。
二 日 目	サバイバル用具作りに挑戦 箸、椀、皿、水筒、釣り竿	<ul style="list-style-type: none"> 自分が使う物を自分で作るにより、活動の喜びを倍増させたいと思い設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 見本は準備せず、あくまで自分のアイデアで各用具を作らせる。 用具の完成度ではなく、アイデアや努力を認め、その用具への愛着を深めさせる。
三 日 目	カッター、塩作り	<ul style="list-style-type: none"> 気分転換と体験活動を豊富にするために設定した。 塩作りは、活動を単発で終わらせるのではなく活動をつなぐために設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に疲れがあるときは、午前と午後の活動を入れ替える。 できれば煮沸用の土器を事前に制作しておくとうい。
四 日 目	サバイバル料理に挑戦 釣り、野外炊飯 炊き込みご飯 焼き魚	<ul style="list-style-type: none"> 今までの活動で作ってきた物を生かし、感動をより大きなものにしたい。 制作活動が多いので、気分転換と食材を手に入れるために釣りを設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 炊き込みご飯用の竹は、この日に準備した方が香りがよいのと割れにくい。 (アレルギー体質の児童は、竹を湯通ししておく)
五 日 目	キャンプファイヤー 楽器作り、スタンプ練習	<ul style="list-style-type: none"> 一般的なキャンプファイヤーではなく、自作の楽器を使いスタンプをより思い出の深いものにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器は「ブッシュ太鼓」など児童の創意工夫にまかせる。
六 日 目	思い出整理	<ul style="list-style-type: none"> 思い出の場所を、清掃することにより感謝する心を育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 分担場所、人数配当は児童に任せる。

友だち最高！そして、わたしも



○設定の趣旨

豊かな感性を育てるプログラムとして、「学校生活では体験しえないいろいろな活動が、自然の中でゆったりとできる」という自然学校の特性を生かして、そのテーマを

“友だちとたっぷりふれあい、自分自身をじっくりみつめること”

“日常のくらしでは経験しがたい様々な時間帯や大きな時間のくくりの活動”

に設定してみた。

日々のあわたしきさから抜け出し、友だちとゆっくり過ごしたり、自然の中で工夫して遊んだりして、友だちとたっぷりふれあい、友だちのすばらしさを感じとる。その一方で、ソロ活動を取り入れ、自分を見つめ直し、友だちや家族やこれからの自分について考えてみる。そうすることで、日頃見過ごしていたことに目が向けられ、心が活性化してくるよう思われる。また、大きな時間のくくりは、子どもたちの心にゆとりを与えるであろうし、日頃経験しがたい深夜の活動には、ドキドキしたり、わくわくしたり、今までにない自然との出会いがあったりして、心が揺さぶられるであろう。

このような体験を通して、子どもたちは、心が解放され、外界の刺激に敏感になって、感動し、感性を豊かにしていけるのではないだろうか。

◆プログラムの流れ◆

- 1 生活環境調査……………情報を持ち寄り、班で施設案内マップを作る。(1日目、2日目)
- 2 心の交流……………クラスファイヤー・エンジョイタイム(1日目、3日目)
協力・工夫……………遊び場作り(2日目、3日目)
- 3 自照……………ぼんやりタイム・ソロ宿泊(3日目)
- 4 自由意志・協調……………個人選択プログラム(4日目)
- 5 共感……………キャンプファイヤー(5日目)
- 6 希望・決意……………振り返り(6日目)

◆一人用テントについて◆

プログラムの中で、一人用テントの存在は大きい。友だちのすばらしさをたくさん感じとる一方で、自分自身をじっくり見つめ直す手助けをしてくれるものだからだ。施設によっては、まとまった数を備えているところもあるが、施設にない場合は、自分で作るようにしてはどうかと考える。段ボールやビニールシートを敷き、古シーツや段ボールなどで、自分がすっぽり入る屋根と側面を作る。支柱は木の枝、メインロープは蔓や普通の紐で十分である。短時間で作れるし、自分らしさも出て、楽しい活動になるのではないだろうか。

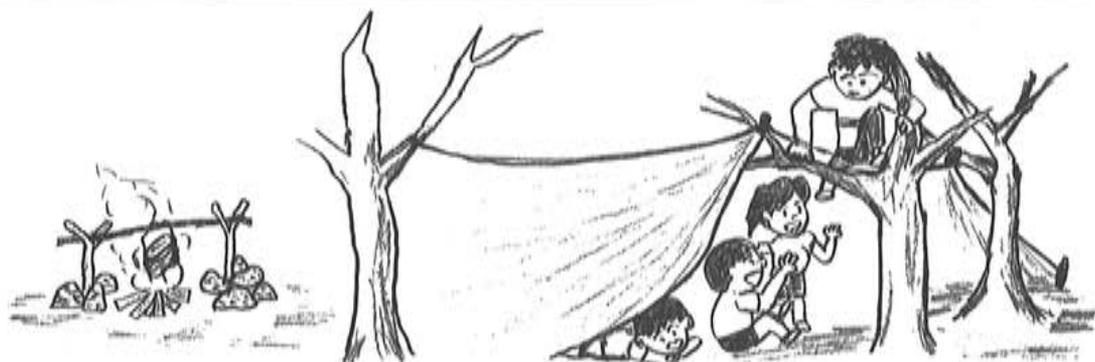
◆個人選択プログラムについて◆

4日目のプログラムの選択肢を増やすと、指導者の確保が問題になってくる。ここでは、地元の方々との協力を仰ぎたい。講師として登録している人がいる施設もあるし、高齢者のサークルの活動もあちこちで盛んだ。地域の方々とのふれあいがもてれば、その人たちから学ぶことも多いだろう。

5日目の「おみやげ作り」も、一緒にできるようにアプローチしてみてもどうか。

	活 動			活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
	午 前	午 後	夜		
一 日 目	友だちと自然を満喫して遊ぼう ◆施設案内マップ作り			<ul style="list-style-type: none"> 主体的に楽しみをみつけていくことがねらいなので、探検的に調べる方法をとらせたい。 自然学校1泊目のわくわくする気持ち、友だちとのふれあいとその喜びを存分に味わわせたい。 昨夜眺めていた星空の詳しい話を聞き、天体への思いを育ませたい。 ぼんやりゆったりと一人で自由な時間を過ごしながら、前半の3日間を振り返らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各人の「調査メモ」が大切であることを押さえ、自然とのふれあいへと引き込む。 火を焚き、語り合い、星を眺め、眠くなるまで夜を味わわせる。 「こんな みつけた カード」で自然へのアプローチを助け、それをマップにどんどん記入させる。 「お気に入り スポット」を見つけさせておく。
二 日 目	◆棒焼きパン ◆遊び場作り ・遊べる場所を探したり 遊べるものを作ったり	◆夜更かしタイム ◆天体観測 〈星の話を聞く〉	◆マップ発表会 ◆エンジョイタイム ・遊び場をお互いに開放して		
三 日 目		◆ぼんやりタイム ・夕方の1時間前後を自分の「お気に入り スポット」で過ごす(一人用テント可) ★一人用テント泊			
四 日 目	自分(独り)で決めて取り組もう(個人選択) ◆ご飯炊き 〈昼食用おにぎり作り〉 〈おかず=缶詰〉			<ul style="list-style-type: none"> 班活動主体で進めてきたのを個人に立ち戻らせ、自分なりの自然や人へのアプローチをさせたい。 最後の夜は、全員の集いをして、思いを共有し、心を通い合わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面に十分配慮する。(ラップに包んで) 飯盒はつけおき、活動後洗わせる。 いくつかの作品例を提示して、主体的にじっくりと取り組ませる。
五 日 目	◆おみやげ作り ・木や小枝、竹、蔓などを 使って自分なりの思い出の作品を ◆キャンプファイヤー ◆野外炊事 ・クラフトで残った材料を燃料に有効活用して				
六 日 目	これからの自分に生かそう ◆振り返り ◆後片付け&清掃			<ul style="list-style-type: none"> 自然、友だち、自分、そのそれぞれについての発見を確かめさせる。 	

ここでくらすんだ！ワンダーランド われらの基地



○設定の趣旨

豊かな感性を育てるプログラムとして、「学習の場を教室から自然の中に移し、ゆったりと過ごせる」という自然学校の特性を生かして、そのテーマを

“自然の中にどっぷりと身を置き、自分たちでくらししていくこと”

“日常のくらしでは経験しがたい様々な時間帯や大きな時間のくくりの活動”

に設定してみた。

日々のくらしの中で、あたりまえになってしまっている便利さをあえて捨て去り、不便な中でも工夫したり、やり直したり、積み上げたりしながら、自発的・積極的に物事に取り組み、自分たちのくらしを創っていく。そうすることで、日頃見過ごしていたことに目を向け、心が活性化してくるよう思われる。また、日頃経験しがたい夜明けや深夜の活動には、ドキドキしたり、わくわくしたり、今までにない自然との出会いがあったりして、心が揺さぶられるであろう。

このような体験を通して、子どもたちは、心が解放され、外界の刺激に敏感になって、感動し、感性を豊かにしていけるのではないだろうか。

◆プログラムの流れ◆

- 1 生活環境調査……………みんなのための情報掲示板を兼ねる壁画いっぱいの施設案内マップをみんなで作る。(1日目)
- 2 相談・協力・工夫……………基地作り・野外炊事(1日目、2日目、3日目)
- 3 心の交流・協調……………基地での宿泊・パーティ(3日目、4日目)
- 4 共感……………早朝ハイク・キャンプファイヤー(5日目)
- 5 希望・決意……………振り返り(6日目)

◆くらしの二本柱について◆

『住』：基地作り

くらしの大もとであり、活動の拠点ともなる基地だが、「こうでなければならない」というものはない。各班で工夫し、特徴あるものになったらいいと思う。ただ、3日目と4日目は班全員で宿泊することから、自ずと、広さ・屋根・壁面・強度などに条件が付いてくるであろう。自分たちが過ごす家だから、自分たちの希望が叶う、できるだけ快適な基地をめざして、知恵を出し合い、力を合わせて作っていき、どんどんやり直しや改善をしていってほしいと願う。

基地完成までには、1つ1つの作業に伴って、たくさんの小さな感情の起伏があり、心が揺れ、活性化し、やがて、完成の大きなよろこびへとつながっていくであろう。完成後、基地をいとおむような気持ちが湧いてくることを期待したい。

『食』：飯盒炊飯・野外炊事

全員が、炊き上げた時の感動と野外炊事の楽しさを味わい、食事を作ってもらえるありがたさを感じ、また、仮に失敗があってもやり直しができるように、食事作りは何回も設定した。

「大変なのではないか？」という心配については、

◇器材は借りっ放しにする ◇食器類の使用を極力減らす(紙皿等の使用も考える)

◇段階を踏んだメニュー構成にする ◇繰り返すことで子どもたちはみるみる上達することから、解決できるものと考えている。

	活動 午前 午後 夜	活動設定の意図	指導上の留意点
一日目	<p>くらしの基礎</p> <p>◆ワンダーランド探索&案内マップ作成&場所選び</p> <p>・施設を調べ、基地作り ・基地作りの場所を探し、決める 相談をする</p> <p>◆基地作り</p> <p>ご飯炊き (おかず:缶詰)</p> <p>ご飯炊き (おかず:缶詰) 野外炊事 (ご飯・おでん)</p> <p>◆基地で過ごす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然の中で、主体的に積極的に、仲間と暮らしていく」ことがねらいなので、施設を自ら調べさせたい。 ・「食」に関わる活動を多く取り入れ、「自分たちでくらししている」という実感を深めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面いっぱいの施設白地図を用意しておき、自由に書き込ませる。 ・「こんなん みつけた カード」で自然へのアプローチを助け、その情報をマップにどんどん記入させる。 ・ご飯だけから始めて、徐々に難易度を高め、自由メニューへと導く。 ・基地の中で、語り合い、星を眺め、眠くなるまで夜を味わわせる。
二日目	<p>くらしの変化</p> <p>◆自然とふれあう活動 (ネイチャーゲームの手法を取り入れて)</p> <p>野外炊事 (ご飯・カレー) ◆夜更かしタイム ★基地に宿泊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中に浸り込ませたい。 ・基地1泊目のわくわくする気持ちを大切にしたい。 	
三日目	<p>◆自然とふれあう活動 (ネイチャーゲームの手法を取り入れて)</p> <p>野外炊事 (ご飯・カレー) ◆夜更かしタイム ★基地に宿泊</p>		
四日目	<p>くらしの潤い</p> <p>◆夜店の準備</p> <p>・自然物を使っての小物作り</p> <p>・ゲームセット作り</p> <p>野外炊事 (自由メニュー)</p> <p>◆ワンダーランドパーティー</p> <p>・夜店食べ歩き</p> <p>・お屋さんごっこ</p> <p>★基地に宿泊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事のまとめをし、活動を全体に広げ、交流を図りたいので、夜店形式にさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの内容は、事前に振り分けておく。 ・小皿に取って食べられるメニューにさせる。
五日目	<p>くらしの変化と潤い</p> <p>◆早朝ハイク ◆フリータイム ◆キャンプファイヤー</p> <p>◇スケッチ</p> <p>◇休憩</p> <p>★基地宿泊もOK</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の夜は、全員の集いをして、思いを共有し、心を通い合わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日の出や夜明けの感動をミニ色紙に描かせる。 ・お寺や公民館で、ひと眠りさせる。
六日目	<p>豊かなくらしに向けて</p> <p>◆基地で過ごす</p> <p>◆基地の片付け&清掃</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの基地だから最後の日もそこに集って、振り返りの活動をさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然、友だち、自分、そのそれぞれについての発見を確かめさせる。

自然と友だちになろう(山編)



○設定の趣旨

- 1 感性を豊かにするためには、気づくこと、発見することを敏感にする心の働き（感じとる心）を豊かにすることであると考え。敏感にするためには、対象に対して子どもたちに何らかの意図的な心の働きを促す言葉かけであったり、印象付けであったりするものが必要になってくる。

例 ①時間・空間の設定

②対象にあてる具体的な視点（自然の色・形、造型物の発想・色・形、自然との遊び方等）

③五感を意識したもの

- 2 5泊6日のプログラムの作成上のポイント

- (1) 五感（視覚・嗅覚・味覚・触覚・聴覚）を働かせられるもの
- (2) 造形活動を通して、創意工夫させられるもの
- (3) 気づき・発見させられるもので、活動の動機付けを重視したもの

- 3 5泊6日のプログラム全体の流れ

自然の中（山）で、空間を肌で感じ、今まで気づかなかった草木等の形や色の新たな発見、造形活動から形や色のイメージ化など、五感を研ぎ澄ますことで感性が磨かれる（豊かになる）と考える。

- 1日目……これから生活する新しい生活空間に期待と発見を求め、視覚と聴覚を主に使って感じさせることで、個々の解放感を図る。
- 2日目……雄大な自然の見方を角度を変えて観察させ、とくに、形・色に視点をあてることで、気づき・発見することの喜びを味わわせると共に、印象深いものにする。
- 3日目……基地づくりを通して、自然界にあるものの形や色を生かしたイメージ化を図り、そのイメージを具体化することで、自然との一体化を図る。
- 4日目……物を創造することは、感性を磨く大きな要因の一つである。自然物クラフトをつくる中で、想像力を豊かにし、表現力を高める。
- 5日目……自然に対する自己の感じ方を選択プログラムにより引き出し、深く自己を見つめさせる。
- 6日目……気づき・発見したことを振り返り、定着を図る。

	活動 午前 午後 夜	活動設定の意図	指導上の留意点
一日目	生活空間を肌で感じよう ・施設内ウォークラリー ・ナイトハイク	・はじめての場所は、特に印象的で心が解放されやすいことを踏まえ、 ①施設・環境にはやく慣れる。 ②小集団のまとまりを喚起する。 ③5泊6日の生活の関心、意欲の高揚を図る。 の3点のねらいで設定した。	・班単位で行動させ、課題解決ゲームを取り入れる。 ・ナイトハイクは、短時間で夜の雰囲気味わわせる程度にする。
二日目	自然の形・色を感じよう ・自然観察ビンゴ ・基地づくりⅠ	・1日目で生活空間を肌で感じたものを、視点を変えて発見させることで、自然に対する感性を深めさせたい。 (視覚・聴覚・触覚)	・基地づくりⅠについては、場所の設定、どんな形の基地をつくるか。または周りにどんな物があるかを主にし、班の創造性を高めさせる。
三日目	自然の形・色を生かそう ・基地づくりⅡ	・3日目で自然とのかかわりをより深め、遊びを通した中で自然との一体化を図りたい。	・創意工夫のある基地をつくらせる。 また、木の枝や葉を使い、色の工夫もさせる。 ・でき上がった基地で遊ばせる。
四日目	自然の中でつくろう ・自然物クラフト (食器づくり) ・野外炊飯	・自然と一体化したであろう個々の気持ち具体的なものにおきかえてつくる(表現する)ことで、定着を図りたい。 ・4日目になると班、生活にも慣れある程度の心の解放が予想される。同時に新たな意欲をもっていると考えられる。そこで、生活の基本である「食べる」ことに焦点をあてることで、印象深いものとしたい。	・食器を自然物(竹)でつくり、それを使って自分達がつくった料理を食べる。味覚・嗅覚を大いに働かせる。
五日目	自然を選ぼう ・選択プログラム ・キャンプファイヤー (個人選択)	・個々のさらなる発展を促すため、自然とのかかわり方を選択させ、自分を見つめさせる機会としたい。 ・これまでの活動を互いに認めあい、讃えあう場としたい。 (個人選択の例、基地遊び、山歩き、スケッチ、山菜とりなど)	・ゆったりと活動させる。 ・ファイヤーを表現の場ととらえる。
六日目	自然を守ろう ・清掃	・5泊6日で自分が感じたこと発見したことを回想させることにより、次への発展としたい。	・自然とのふれあいに感謝し、自然を大切にしようとする実践力を育てる。

自然と友だちになろう(海編)



○設定の趣旨

1 海が持つ特有の開放感、吸いこまれそうな青い海、水平線の向こうに何かを感じさせてくれる海、そんな海を感じながら、子どもたちに何らかの意図的な心の働きを促す言葉かけや印象付けを与えることにより、新たな発見やみずみずしい感性が目覚めてくるのではないだろうか。

対象にあてる具体的な視点(自然の色・形、造形物の発想・色・形、自然との遊び方等)や五感を意識したものを5泊6日の中で設定する。

2 5泊6日のプログラムの作成上のポイント

- (1) 気づき・発見させられるもので、活動の動機付けを重視したもの
- (2) 五感(視覚・嗅覚・味覚・触覚・聴覚)を働かせられるもの
- (3) 造形活動を通して、創意工夫させられるもの
- (4) マリンスポーツを体験できるもの
- (5) 地場産業に関連したもの

3 5泊6日のプログラム

- 1日目……これから生活する新しい生活空間に期待と発見を求め、個々の解放感を図る。
- 2日目……形・色に視点をあてることで、気づき・発見することの喜びを味わわせると共に、印象深いものにする。
- 3日目……海にあるものの形や色を生かした表現活動を通して、新しいものを創り出す創造性を育てる。
- 4日目……海を身体いっぱい体感させ、心の躍動を図り、自然を深く印象づける。
- 5日目……地引き網を体験させ、海に対する偉大さ、感謝の気持ちを再認識させる。
- 6日目……自己のまとめと自然を大切にすることを育てる。

	活 動 午前 午後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	海をながめよう ・施設近くの海を感じよう ・漁り火をみよう	・海において、香り、波の音、幻想的な思いをかもし出す開放空間を肌で感じるにより、5泊6日の生活が始まることへの関心や意欲の高揚を図りたい。 (視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)	・班単位で行動させ、地平線(水平線)と色に意識させる。 ・漁り火の幻想的な炎を味わわせる。
二 日 目	海を調べよう ・水中生物調べ ・貝がら拾い	・1日目で感じた海を調べるという具体的な取り組みにより、視点を変えた発見をさせ、自然に対する感じ方を深めさせたい。 (形、色に意識)	・ビンゴ形式で探検と調査をさせる。 ・色々な貝がらに興味を持たせ、貝がらが持っている特有の色や図柄に気づかせる。
三 日 目	海のことを生かそう ・選択プログラム(個人選択) ・海のものを利用してつくる 例:貝がらのペンダント、砂絵、流木クラフト、置物など	・2日目で、様々な発見をしたことをもとに、つくる(表現する)ことで個々の感性を磨くねらいとして設定した。	・海を肌で感じ、海に対する個々の感じ方を素直に表現させ、海に対する愛着を深めさせる。
四 日 目	海の中で遊ぼう ・カッター、カヌー、カヤック ・キャンプファイヤー	・3日目の活動を「静」ととらえ、4日目は「動」の活動を通して、自然を身体いっぱい満喫させたい。	・友だちの成果を互いに賞賛する。
五 日 目	海の幸を食べよう ・地引き網(魚つり) ・野外炊飯	・4日目までの活動を振り返らせ、5日目は「食べる」ことに焦点をあて、新たな発見をうながしたい。 (気づき、発見)	・班の役割を確認させ、協力して食事づくりをさせる。
六 日 目	海を守ろう ・ゴミひろい	・5泊6日で自分が感じたこと、発見したことを回想させることにより次への発展としたい。	・自然を大切にすることを喚起させる。

自 然 大 好 き

(主として自然とのふれあいを通して)



○設定の趣旨

子どもは本来自然の中で自由に遊ぶことで五感を鋭くし、たくましく生きぬく力を身につけるものである。このプログラムは、自然の中でのさまざまなふれあいを通して、みずみずしい感性をみがき、自然のもつ美しさやきびしさ、多様性、癒し等をどっぷりと体験させることにある。

プログラム作成のポイント

- ・子どもたちを自然の中にときはなつ。
- ・自分で考え、判断する力を育てる。
- ・指導者は活動にメリハリをつけ、子どもたちとともに楽しむ。
- ・子どもたちの興味・関心や活動のなりゆきに応じて幅をもった展開にする。

プログラム全体の流れ

- ・1日目、2日目は施設内の自然を五感を通して楽しくふれあうことをねらっている。
特に自然を漫然と見るのではなく対象物に近づくことで今まで気づかなかったことを発見できる。
- ・3日目、4日目は1日目、2日目で発見したことを元に、自分たちで基地づくりと食事づくりに挑戦する。ここでは、友達との協力が必要となろう。
- ・5日目は2日目に収集した自然物で作品を作ることで創造する力を育てたい。

	活 動 午前 午後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	<ul style="list-style-type: none"> 施設の自然へ飛び出そう (自分の発見をノートにまとめる) 	<ul style="list-style-type: none"> 1日目、2日目にこの活動を設定したのは、施設の自然に楽しくふれることができるからである。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を感じる活動は基本的に一人で行う方が、より自然と濃密にふれあえる。その際、対象である自然に近づき、自分の五感を使うように指導する。 自然観察ビンゴでは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚を十分に働かせる。
二 日 目	自然とふれあおう <ul style="list-style-type: none"> ⇨視覚 聴覚 ⇨嗅覚 味覚 ⇨触覚 ⇨一人の体験 ・活動を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 木の感触を味わったり、高いところに登る気持ち良さを味わわせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと共有体験を深めるために活動を振り返る必要がある。
三 日 目	自然の中ですごそう ⇨触覚 ⇨工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・基地づくり ・山で1人で寝よう ⇨聴覚 	<ul style="list-style-type: none"> この活動では、指導者はヒントは与えるが手助けはしないことで、子どもに考える力を育成させたい。 実際の野山の自然の中で樹木の様子や枯葉の匂いといった具体的なふれあいを多く体験させたい。 季節にもよるが、自然物で食べられるものを調理させることもさせたい。 食事づくりは友達と協力して取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3日目と4日目は1日中子どもたちを自然の中で過ごさせる。 食べられるものかどうかは、指導者の判断が必要となる。
四 日 目	自然を食べよう ⇨味覚 ⇨協力 3食をつくる (朝・昼・夜)	<ul style="list-style-type: none"> 季節にもよるが、自然物で食べられるものを調理させることもさせたい。 食事づくりは友達と協力して取り組ませたい。 	
五 日 目	自然物でつくろう <ul style="list-style-type: none"> ⇨触覚 ⇨創造力 	<ul style="list-style-type: none"> 2日目に集めた自然物を利用し、各自が思うように作ることで創造力を身につけさせることをねらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の性質や特徴を生かした自然観察をさせる。
六 日 目	振り返ろう ⇨書くことで 自分をみつめる	<ul style="list-style-type: none"> 書くことで自分を振り返らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 5泊6日を振り返り強く自分の心に感じたことをまとめさせる。

自然は生きた教科書

(主として自然に働きかけることを通して)



○設定の趣旨

自然は時や場所によりさまざまな姿を人間にみせてくれる。古来人間は自然にさまざまに働きかけることで文明を築いてきた。

このプログラムでは、子どもたちが自然に働きかけるなかで、試行錯誤しながらも創意工夫する力を育てることをねらっている。また自然のめぐみにも注目させ、発見する喜び、創作する楽しさをあわせて体験させたい。こういった体験が、子どもの眠っている感性を磨くのである。

プログラム作成上のポイント

- ・活動を通して、つまづきや失敗を大切にする。
- ・のんびりとした時間を過ごす中で、子どものひらめきを大切に、それを次の活動につなげたい。
- ・子どもたちのつまづきや失敗を指導者が教えるのではなく、子どもとともに考える。

プログラム全体の流れ

- ・1日目は施設内を十分調査したり、探検したりして以後の活動に結びつけたい。
- ・3日目の味覚発見ビンゴは2日目の森で食べようの発展として実施する。
- ・5日目は2日目に作った家でのんびりと過ごすことで、自然の持つ癒しを体験する。

	活 動 午前 午後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	施設を知ろう ・自分の気に入った 場所、遊べそうな 所を探す。	・1日目の活動は2日目からの活 動の事前調査も兼ねることをね らっている。	・活動も遊びの内容や場所も展開 により柔軟に変えてよい。
二 日 目	森で食べよう ・火おこし ・森の中での食事づ くり	・食材以外は全て森の中で材料を 調達することで、自然物に働き かけ、自然の恩恵に気づかせる。	・活動は最初から最後まで自分た ちでやりきらせる。
三 日 目	自然のめぐみ発見 ⇨五感 ・エリア内秋の味覚発見ピン ゴ ・発見の まとめ		・森のめぐみ（クリ、カキ、アケ ビ、イチジク、フナメ等）を求 めて、エリア内を自由に散策さ せることで、自然の恵みの多様 性に気づかせる。
四 日 目	自然は生きた教科書 ・木の上の家づくり ⇨自立 ⇨達成感 ・つくった家 で寝る	・1日目から3日目に行った体験 をもとに、4日目と5日目はこ ども自身に活動をまかせること で、より自然の厳しさや優しさ を体得させることをねらってい る。	
五 日 目	森でゆったりすごそう ・つくった木の上でのんびり 過す ・家の解体		・自然の中のものを使って、木の上 に家をつくる際には指導者は 子どもが困った時だけ支援する ようにする。
六 日 目	振り返ろう		・つまづいたけど、やりとげた喜 びをまとめさせる。

友だちとくらそう

(主として友だちとのふれあいを通して)



○設定の趣旨

現代の子どもたちは心から笑ったり、喜んだり、悩んだりすることがわずらわしく苦手になってきている。つまり心が閉じている状態にあると思える。

しかし、人間は、本来人が好きになり、人とつきあうことで自分をみつめなおすことができるものである。このプログラムでは、友だちとの5泊6日の生活を通して、友だちの良さに気づくことにある。

プログラム作成上のポイント

- ・友だちといっしょに協力しながら活動するプログラムを多くする。
- ・大きな流れの中で友だちとゆったり過ぎせる。
- ・活動と活動の合間の時間を大切にする。

プログラム全体の流れ

- ・1日目は友だちと仲良くなるための活動である。
- ・2日目、3日目もそれぞれ食事づくり、登山といった活動を通して共に協力しながらやり遂げることをで連帯感をねらっている。
- ・4日目と5日目はこれまでの楽しい雰囲気の中かで、わいわいがやがやと自然物で作品を作る活動そのものを大切にするをねらっている。

	活 動 午 前 午 後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	<p>団結の旗づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員で考えて作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・このプログラムは活動を通して、友だちづくりをねらいとしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2日目と3日目の活動の集大成として、4日目と5日目の自然物創作を設定している。
二 日 目	<p>友だちといっしょ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事づくり ・一人でテント泊 ⇒自己発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日は、一人用テントで寝させ、友だちのよさを分からせたい。 	
三 日 目	<p>のりきろう 登山 ⇒成就感 ・ご来光 ⇒達成感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩 ・話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して一つのことをやり遂げることで、連帯感を培わせたい。 ・ご来光を見ることで、朝の自然のうつくしさを感じさせたい。 	
四 日 目	<p>班でつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然物をつかって班で1つ作品をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具等も自分たちで調達する工夫をさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと楽しい雰囲気を取り組ませることで、自由な発想や思いつき等を大切に取り組ませる。
五 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・作品発表会 ⇒支持的風土 		
六 日 目	<p>友だち大好き</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・5泊6日の中で、友だちと活動して楽しかったことや逆に嫌だった事等についてじっくりと話し合う。

(2) 成就感・達成感を育むプログラム例

・はじめに

子どもたちが「やったー。」「できたー。」と心の底から叫んだり、「キラキラ」と瞳を輝かせて取り組むことができる活動は、なにかしら魅力的なものである。

誰しも自分の行った行動が、自分でも「やり切った。」と感じ、「満足のいく結果であった。」と思えば、周囲の人々からも認められたりすれば、心の中に自信が生まれ、新たな課題へ自らチャレンジしていく推進力となることは確かである。このような成就感・達成感は、自分の目でものを見、自分の心でものを感じるという子どもたちの生き生きとした感性を基盤に体得するものであると考える。

子どもたちが事実に対面して意外なことに気づき、考え、その中で不確かなものをより確かなものにするため、思考を深めていくことを通して新たな事柄や課題に気づく。このことによってさらに本質に迫る活動を継続的に行うことが、真の意味での達成感や成就感を味わわせることであり、生きる力の源となるものと確信する。

また、成就感・達成感は子どもたちに「感動体験」をもたらす。子どもたちが、ドキドキしたり、汗をかいたり、清々しさを感じながら自然の中で気づいたことへと自ら迫っていくことが感動体験を生むこととなるのである。さまざまな活動を通じて主体的に学ぶ子どもを育てるには、感動体験から生じる新たな「意欲」が重要になるのであるが、これは学ぶ過程においても継続的に喚起されなければならないことであり、情意的な側面を持っている。このことは、それを支える周囲の仲間の力が重要であり不可欠である。

今、「遊べない子どもの背景には、親や教師自身が遊び方を知らない」との指摘があるが、自然学校においては指導者自身が、子どもたちと一緒に活動することを通して共感的に支援することも忘れてはならない。仲間と共に活動し、仲間を受け入れられ、仲間から個としての存在を認められる喜びが、子どもの心を解放し、のびのびと活動する楽しい人間関係を醸成するという視点も大切である。

「確かな実践が感動を生み、感動が人格を変容させる」といわれるが、自然や人とのふれあい、また地域との確かなふれあい等を通して、成就感や達成感を味わうことを意図的・計画的に体験させることが重要であると考えられる。

ここでは成就感・達成感を味わう体験を通して「生きる力を育む」5泊6日の自然学校へアプローチしてみたい。

・プログラム作成の基本について

子どもたちに成就感・達成感を味わわせるためには、活動そのものについて、興味が「持続され」、「できる」そして「わかった喜びと自信」に満ちたものでなければならない。これらは情意的側面が重要であり、指導者として個々の子どもたちの内面の変化を的確に捉え、共感的に支援していくことも重要となってくる。また、具体的なプログラムを作成する場合には、協力・問題解決・忍耐・自信・協調等の場面設定が重要な要素であり、これらを5泊6日のプログラムの中に子どもたちの実態に応じて設定する必要がある。

協力・問題解決

自然学校で行われるさまざまな体験活動は学校生活の場とは大きく違うのであり、このことは子どもたちの人間関係も平素の学校生活とは大きく変化せざるを得ない。「私と教育、私とつけ」の中にダニエル・カール氏は「学校の中ではみんな同じ行動をとっている事の不思議さ」を指摘しているが、確かに子どもたちの発達段階、生活の経験度の相違は大きなものであり、個々に課題を設定する必要がある。また、そのため活動形態についての工夫が重要になってくるが、ここでは課題解決ゲーム等を設定することにより、緩やかに新しい環境での人間関係をつくりたい。

忍耐・自信

例えば「登山」等忍耐強く取り組む必要のある活動は、成就感・達成感を一層効果的に子どもたちの心に焼き付けることができるものであり、時間的にも十分配慮して取り組ませたい。また、指導者として当然考えなければならないことは、どの時点で支援の手をさしのべるかを常に考えた観察が重要になってくる。ややもすると「あと一步」になった段階で手をさしのべることがあるが、失敗しても再度挑戦することのできる場面設定を考えることによって指導者側の安易な妥協は避けたい。このことが子どもたちの「やり遂げた」という強固な自信につながるのである。

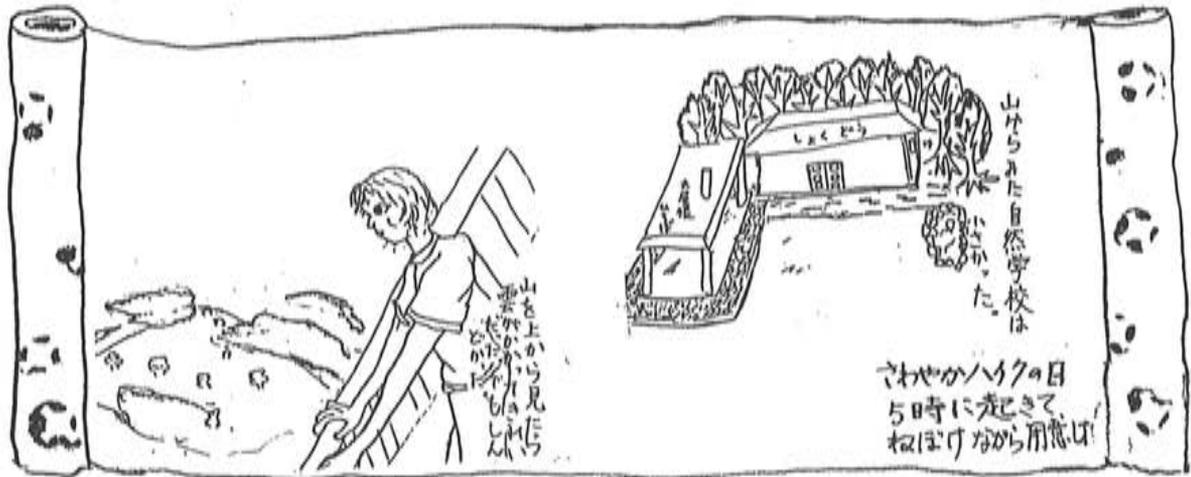
協調・共感

創作活動等は協調や共感を体験させるための良い場面設定となる。ここでは出来上がった作品などに個性が表現され、個々の子どもたちが周りの仲間によって共感的に受け入れられることができる。一方、基地作りなど2、3日は必要とする活動を設定することによって、協調することの体験もさせた。また、「ギャングエイジの体験」をさせることも視野に入れた活動とすることもでき、興味・関心の継続が図られる。

活動形態

活動内容と共に、個人の活動・班での活動・全員による一斉活動等活動形態についても、そのねらいに沿って設定することも重要と考える。

自然学校絵巻



○設定の趣旨

子どもは本来遊びの天才である。土や棒1本でもそれが遊びの道具になり、遊びを作り出す才能を持っている。しかし、最近では、自然の中で遊ぶことが少なくなり、子どもが持っていた創造性・感受性・好奇心といった感覚が衰えてきている。5泊6日のプログラムを通して豊かな自然の中で、体全体を使った活動を体験させることで、子どもが本来もっている遊びを作り出す能力や感性を呼び起こすことができる。また、自然の中で発見したことや感動したことを文と絵で絵巻物風に表現し、それをみんなで発表し合う場を設定することによって、お互いを認め合った良い友だち関係が育っていくと思われる。

豊かな自然の中で自分の考えたやり方で、自分の知恵を働かせて成し遂げた時、成就感・達成感を味わうことができると考えて以下のようなプログラムを設定した。

1日目 自然を探検（班別活動）

自分たちがこれから生活する施設を探検し、まわりの環境を自分の目で確かめ自由に行動できるようになるための活動である。施設の名前だけでなく、自分たちで見つけた自然・めずらしいもの・秘密の場所・おもしろそうなものも説明をそえてメモをしておき、絵巻物に順次書き込ませていく。それをもとに今後の自分の活動の計画を立て、見通しを持たせる。

2・3日目 自然にチャレンジ（個人選択活動）

標高とともに移り変わる景色を眺めたり、鳥の鳴き声に耳を傾けたりして普段と違った自然に触れる感動体験をさせる。また、自然の木や実などを使って造形活動をしたり、木立を利用して自分たちの基地を作ったりと自分のやりたいことを自由に選択できる活動を取り入れる。そして、体全体を使って自然にチャレンジさせることで子どもたちの感性を呼び起こさせる。

4日目 自然から創ろう（班別活動）

野外炊さんに挑戦。献立から買い出し、器材の準備、調理、食事、片付けまで全部自分たちの力で助け合ってやり通す。近くにあるクマザサでお茶作りに取り組みせたり食用になる植物を採取して食材に加えたりしながら、自然の深さ・偉大さを感じ取らせる。

5日目 自然学校絵巻発表会（一斉活動）

一人一人の思いや発見を出し合い、お互いのがんばりや努力をたたえ合うことで、子どもが持っている様々なよさが広がり、仲間意識とともに自分に自信を持たせることができる。

6日目 さようなら自然学校（一斉活動）

ともに全プログラムをやり遂げた喜びとお世話になった人や施設に感謝の気持ちを持たせて、締めくくらせる。

	活 動 午前 午後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	自然を探検 入校式 自然観察ビンゴ	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと班別に問題を解きながら楽しく施設内を巡らせる。生活の場となる環境に慣れさせ、今後の計画を立てるために設定した。 (協力・問題解決)	<ul style="list-style-type: none"> 気づきを大切にさせ、自分の発見や思いを絵巻物に自由につづらせ、5日目の発表へつなげていく。
二 ・ 三 日 目	自然にチャレンジ ・さわやかハイク 自由選択活動 ・木の枝細工 ・ターザンごっこ ・生き物調べ	<ul style="list-style-type: none"> 雲海に出会わせることで自然の雄大さを感じ取らせたい。 お互いに励まし合って登頂させることで、成し遂げた成就感・達成感を味わせたい。 (忍耐・協力・共感)	<ul style="list-style-type: none"> 早朝登山の後は、ゆったりとした時間の中で自由に過ごさせる。 自由時間に次の活動のために、木の葉や実や枝等を集めさせておく。
四 日 目	自然から創ろう ・クマザサ茶作り ・山菜料理	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の準備から片付けまで分担を決め、友だちと協力して自分たちの力で昼食作りに取り組ませるために設定した。 身近にある食べられる野草を採取しておき、調理することを通して自然に親しみと感謝の気持ちを育てたい。 (協力・問題解決・忍耐)	<ul style="list-style-type: none"> 事前に班別に献立を立てさせておく。 この活動は子どもたちに失敗を恐れずいろんな体験をさせることが大切である。 自然の食材については、事前によく説明しておく。
五 日 目	自然学校絵巻発表会	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での思いをまとめた絵巻物をみんなで知らせ合うことで、一人一人の思いをみんなで共有させたい。それが、やさしさとなり、自分への自信につながる。 (協調・共感・自信)	<ul style="list-style-type: none"> 作品の出来ばえでなく、一人一人の思いや発見を認め合う雰囲気作りに心掛ける。
六 日 目	さようなら自然学校 退校式	<ul style="list-style-type: none"> やり遂げた喜びと共に支え合ってきた友だちや指導員の方に感謝して、全員で使った場所を美しくさせたい。 (協力・協調)	<ul style="list-style-type: none"> 退校式には雰囲気盛り上げるために子どもたちに演出等を考えさせておく。

ぼくらの自然公園

～森の中で自分たちの公園を作ることにロマンがある～



○設定の趣旨

ギャングエイジ後半の子どもたちにとって、未開の地を自分たちで開発し自分たちの遊び場にしていく取り組みは夢のある活動である。

仲間と知恵を出し合い、身体をフルに使いながらの活動は、困難であればあるほど完成したときの喜びはひとしおである。

近年、社会の変化等により生活スタイルが変わり、薪集めや炭焼き等の山の仕事が生活から離れてしまった。そのため、雑木林は同一植物が込み合い、日当たりや、風通しが悪くなり、いろいろな植物やキノコが発生しにくい荒れた林になっている。そんな野山の環境改善を考えながら自然公園を創っていくプログラムである。

《林業体験（環境整備） 下草刈り→枯れ葉の除去→木の間引き・植林》

《公園づくり（創造活動） 基地づくり→遊び場づくり→遊びづくり→行動範囲を広げて活動》

具体的なプログラムは次の視点で設定した。

- 1 身体全体を使い忍耐力の必要な活動を設定する。（忍耐・協力 1日目、4日目、6日目）
- 2 子どもたちのアイデアが引き出しやすい活動を設定する。（問題解決・自信 2日目、3日目）
- 3 協力し、友だちの良さが発見しやすい活動を設定する。（協力・協調 2日目、3日目）
- 4 がんばった成果がはっきりわかる活動を設定する。（自信・共感 1日目、3日目、6日目）

※ 活動形態については、前半は班を基準にし、場所に慣れた後半を個人活動とした。

	活 午 前 午 後 夜 動	活動設定の意図	指導上の留意点
一 日 目	場内散策 (班) 公園作り (準備) 草刈り 木の伐採	<ul style="list-style-type: none"> これから創る公園のイメージ作りにスムーズな導入としたい。 雑木林の整備(林業体験)は労働を伴う活動であり、身体をいっぱい使った体験を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 区画の広さ(範囲)を子どもの人数や雑木林の荒れ状態に応じて決める。
二 日 目	公園作り (班) (発展) 植樹 基地作り	<ul style="list-style-type: none"> 班員と共に考え、意見を出し合うことで、みんなで楽しく創らせたり、友だちの良さを発見させる場にもさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが公園を居場所として慣れるように、日中は宿舎に入らないよう指導する。
三 日 目	公園作り (班) (完成) 遊び場作り パーティー	<ul style="list-style-type: none"> 遊び道具を創り出しながら、完成の喜びや充実感を共感させたい。 公園完成を記念してパーティーを開き、完成の喜びを分かち合う場面を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> はしご、吊り橋、ブランコ、滑り台等、作る物のヒントや材料を用意する。 簡単なおやつ作りをする。
四 日 目	自然散策 (班) (登山) 草木を使って遊ぶ 遊ぼう (個人)	<ul style="list-style-type: none"> 活動範囲を広げていくことで多様な体験を設定した。 個性発揮の場として、自由にいろいろな遊びに挑戦させると共に、班を越えた新たな友だちとのふれあいをさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のヒントを紹介する。
五 日 目	かたづけ (班)	<ul style="list-style-type: none"> 道具をもとに戻し環境保護に目を向ける場面を設定した。 	
六 日 目	宿舎の環境整備 (班)	<ul style="list-style-type: none"> 施設を大掃除することで、施設に対する感謝の気持ちや自然学校をやりきった達成感を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除というより環境整備という視点で子どもたちに活動を考えさせる。



5年B組、旅ガラス

～かわいい子には旅をさせ～



○設定の趣旨

自然の厳しさには、行動する上での不便さがその一つに上げられる。ここでは、現代人には体験しなくなって久しい長い距離を歩く（旅をする）ことを取り上げ、心身ともに逞しい子どもの育成を図りたい。

また、歩くことでその土地の風土を肌で感じるができたり、友だちと苦勞を共にすることで、自然な形で仲間作りも進んでいくものと思われる。

具体的なプログラムは次のような視点から設定した。

1 問題解決・協力の場面を設定する。（1日目、2日目）

自然学校の魅力の一つに、既成の物や用意された物でなく、材料を直接自然の中に探しに行けることや、作る物の材料を吟味できることが上げられる。また、食べ物作りでは、何を作るかを計画するところから買い出しを行ったり、かまどを作ったりし、どのように作るかを子どもたちが自分たちで考え協力し合えるようにした。

2 忍耐・協調・自信の場面を設定する。（3日目、4日目）

2日間をとおしての「歩いて旅をする」という忍耐強い取り組みをする。そのために事前の準備として、「今まで経験したことのないすごい体験にみんなで挑戦しよう」という心構えを個々の子どもたちに抱かせることが重要である。また、やり遂げた後の評価を感動的にしたいものである。

やり遂げた後、自信へとつなげ次への活力にしたい。

3 協力・協調・共感の場面を設定する。（5日目）

個人活動で、いろいろな友だちと協調しながら活動する。

※ 中日2日間にわたって設定したメインの活動は、体力が必要であるため、その前後の日はゆとりのある活動にしたい。

	活 午 前 午 後 夜 動	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	散策 竹で作る 竹の食器作り等	(問題解決) ・竹藪で竹を切り出すところから始めることで、一から創り出したという達成感をもたせたい。	※竹藪のない施設では、移動時に竹を確保する。 ・竹のできる多様な作品のヒントを紹介する。 (竹食器、花立て、竹笛、竹の遊具等)
二 日 目	食べ物作り	(協力・問題解決) ・メニューの選択・買い出し・かまど作り等、一から計画・実行することで達成感を高めたい。	・ゆとりをもたせるため、昼食だけ「食べ物作り」をする。 ・余暇を過ごす活動のヒントを用意する。(伝承遊び等)
三 日 目	旅ガラス	(協力・忍耐・共感) ・達成感を大きなものにするために、2日間をかけ、「旅」をすることを設定した。	・宿泊場所、休憩場所、トイレ、危険箇所、交通等について充分把握する。
四 日 目		・旅の途中にいろいろな体験を伴った活動を入れることにより、印象強いものにしたい。	・民宿、民家、公会堂に宿泊する。 〔 ※途中の活動例 植物を利用した遊び、 木登り、斜面登り等 〕
五 日 目	この指とまれ	(協力・共感) ・体力回復に重点を置き、ゆとりのある活動にしたい。 ・個々の興味・関心に応じた活動をさせたい。	・「〇〇〇したい人この指とまれ。」と希望者を募って少人数で活動する。 ・活動のヒントを紹介する。 (クラフト、散策、伝承遊び)
六 日 目	大そうじ	(感謝) ・使用した施設を徹底的に掃除し、お世話になった人や施設に感謝の気持ちを持つことで達成感をより大きなものにさせたい。	・大掃除の場所や分担を子どもたちに考えさせる。



○設定の趣旨

友だちがうまく作れない・一人でしか遊べない等の問題には、遊び場を始め生活の場が自然から遠くなっていったことに原因があるのではなからうか。そんなところに目を向け、日常生活から離れた環境の下、大自然の中で友だちとのふれあいの場を多くもたせてみたい。すると、今までとは違った視点で友だち作りができるかもしれない。今まで気づかなかった友だちが見えてくるかもしれない。今まで知らなかった自分を知ることができるかもしれない。

このような思いから自然とともに人間のふれあいを感じることができる活動を設定してみた。

具体的プログラムの編成は、次のような視点から設定した。

- 1 生活場所を変えた環境の中で、基本となる友だちとのふれあいの場をつくる。班の結びつきを深める。
- 2 忍耐・協力を体験する場を設定する。地域を見渡し視野を広げる活動を設定し、次への活動の手がかりづくりをする。
- 3 活動場面を広げ、さらに多くの人と出会いを作らせる場の設定をする。
- 4 共感・協調のできる場を設定する。
- 5 協力・自信を体験できる場を設定する。
- 6 6日間の生活を、これからの生活の意欲へとつなげていく場づくりをする。

人とのふれあいを広げるということをメインテーマに置いているので、活動の中でふれあいカードを持たせ、ふれあいをもった人の氏名等を記録させていく。目標人数を目指すことで人とのふれあいについての意識を持たせたい。

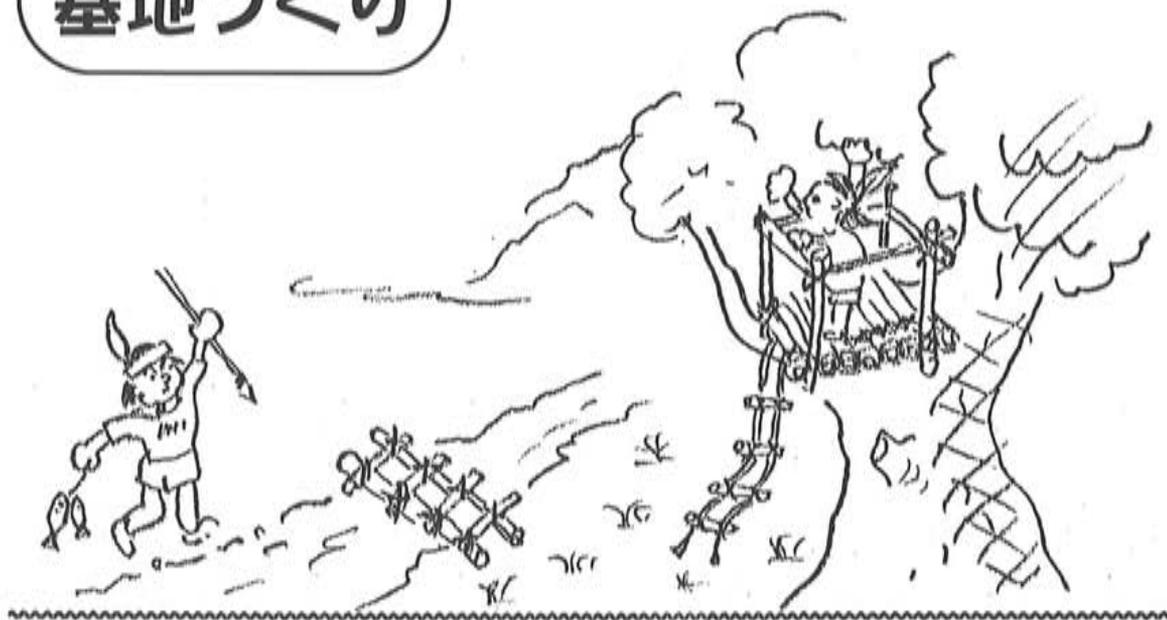
活動の形態としては、前半は小集団の結びつきを強め、それを機能的に活動させながら、次第につながりを広げていく。小グループ編成については、選択活動の場面を設定し、いろいろな要素でいろいろな人との結びつきができるような場の設定をしたい。

活動の最終段階として全体活動を設定し、小さな力から大きな力、より多くの人の輪のよさを体感させながら、やり遂げた成就感・達成感を感じさせたい。

また、この期間に体験できた人とのつながりを感動体験として、これからの実生活へつなげていく礎とさせたい。

	活 動 午 前 午 後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	近づきのゲーム (イニシアティブ ゲーム等) 〈選択グループ〉	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりのゲーム等で小グループ作りのきっかけとしたい。 ・平素の友人関係以外の新しい出会いを作らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のゲームを体験できるようにする。 ・内容に対する個人の希望を生かしながら、人との出会いがもてるようにさせる。 ・ふれ合いカードの記録について理解させる。
二 日 目	地域を見渡そう (山登り) 〈小グループ〉 夜の作戦会議 (テント泊) 〈選択グループ〉	<ul style="list-style-type: none"> (協力・忍耐) ・次の日の活動場所の地図作り等で生かし、意欲付けとしたい。 ・テント空間で、翌日の計画をじっくりと話し合わせるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解きながら登らせる等協力する場面を設定する。 ・状況に応じて、資料提供をしながら援助する。
三 日 目	町の名人探し (地域探訪) 〈選択グループ〉	<ul style="list-style-type: none"> (協調) ・町へ出かけてグループで協力しながら困難も乗り越えることをねらい設定した。 ・ふれあいの場面を地域へと広げさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各人については、児童の発想を取り上げる。 ・取材する、一緒に活動するなどめあてをしっかりと持たせる。
四 日 目	遊びでふれあおう (いろいろな遊び) 〈選択グループ〉 みんなで食べよう (野外炊飯) 〈小グループ〉	<ul style="list-style-type: none"> (共感・協調) ・いろいろな遊びを通し、新たな人との結びつきを作らせたい。 ・新しい出会いのもとで食事を共にして結びつきを深めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を使った遊び・地域に伝わる遊びを教わるようにする。 ・グループで選択できるメニューを組ませる。
五 日 目	みんなのために (ボランティア・奉仕活動) 〈一斉〉 夜に語ろう (キャンプファイヤー) 〈一斉〉	<ul style="list-style-type: none"> (協力・自信) ・全体でいっしょに協力し、克服することで、大きな力を感じさせたい。 ・みんなで一斉に集い、人の輪の楽しさを感じさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を取り上げた活動ができるようにする。 ・「友だちいっぱいできたかな」の観点で歌やゲーム等を進める。
六 日 目	みんなに感謝 〈一斉〉	<ul style="list-style-type: none"> ・6日間の出会いを振り返り、いろんな人とのふれあいをこれからの生活につなげるようにさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあった人の人数の合計とか、協力して達成した喜びとかの一言発表等をする。

基地づくり



○設定の趣旨

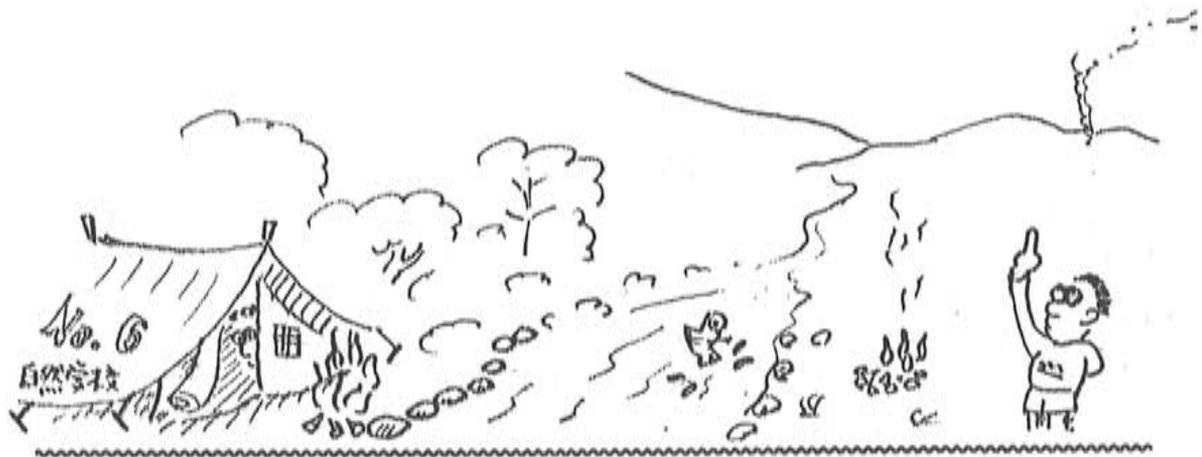
基地づくりは、今の子どもたちが日頃の生活の中で体験できない「ギャングエイジの体験」ができる活動でもあり、とても魅力的な活動として自然学校の中ではよく取り入れられている活動である。この活動を中心に据え、ゆったりと三つの間「時間・空間・仲間」を体験できる活動としたい。具体的なプログラムは次のような視点から設定した。

- 1 日頃の生活環境から大きく環境が変わるのであるから、当然新しい環境になじむため初日に6日間の活動を行う環境について十二分の理解をさせる。
- 2 協力・問題解決の場面を設定する。(2日目)
- 3 忍耐・自信等を体験する場面を設定する。(3日目、4日目)
忍耐強く取り組み、失敗しても再度挑戦しやり遂げる自信へとつなげるためには一日のみの活動ではなく、二日間を通しての活動を組む必要があると考える。
- 4 協調・共感できる場面を設定する。(5日目)
- 5 最終日には、再び日常の生活へと返るのであり、自分たちが6日間生活してきた環境と平素の生活環境との相違点に気づかせるとともに新たな決意を醸成する。
- 6 活動の形態としては、前半は小集団活動とし、人間関係を結びやすくしさらに機動性を発揮させ活動に必要な情報を収集し易くする。4日目には個人活動の場面を設定し、与えられた課題に対し独力で挑戦させ、苦しさや悔しさを乗り越える体験をさせる。さらにこのことを通して、平素気づかなかった身近にいる友だちのありがたさ等に気づかせる。

活動の最終段階として全体活動を設定し、子どもたち個々が体験したことを発表したり、やり遂げた達成感を感じたり、これらの活動を支えてくれた仲間がいるという安堵感を仲間と共に分かち合う場面を設定するとともに、個々の子どもたちの感動体験を心の原風景とさせたい。

	活 動 午 前 午 後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	施設を知ろう (班活動)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の場が学校や家庭から大きく変化するので、新しい生活環境を十分理解させたい。 明日からの活動に必要な情報収集のため機動性を発揮させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間的にもゆとりを持たせた活動とする。 小集団活動とする。
二 ・ 三 日 目	基地を作ろう (班活動)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの素朴なイメージを創意・工夫をさせながら形あるものにしていく体験や創作の楽しさを味わわせたい。 新たな人間関係や新しい自分を発見させたり、協力性を発揮させたい。 完成の喜びを班員で分かち合い、満足感・充実感を味わわせたい。 (協力・問題解決)	<ul style="list-style-type: none"> 小集団活動とする。
四 日 目	1人テントに挑戦しよう (個人活動)	<ul style="list-style-type: none"> 一層困難な課題へと挑戦させ、苦しさや悔しさを乗り越えさせ、その後の達成の喜びを感じさせたい。 一人になって活動することによって五感を使って自然を体験させたい。 集団での生活と個人の生活を調和させる体験をさせたい。 生活空間を各人が創意・工夫し、手作りの味を出させるために個人の活動を設定した。(忍耐・自信) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動場面において意図的・計画的に個人の生活を体験させる場を設定する。
五 日 目	基地の周りでみんなと遊ぼう (一斉活動) ・キャンプファイヤー	<ul style="list-style-type: none"> 大きな集団の一員としての自分を見つめさす機会としたい。 子どもたち個々に目標を達成し、やり遂げた達成感や安堵感を味わわせたい。 友の素晴らしさを感じさせるとともに、5泊6日の体験を一層感動的なものとする。 (協調・共感)	<ul style="list-style-type: none"> 全員で活動する場面を設定する。
六 日 目	基地よさようなら (一斉活動)	<ul style="list-style-type: none"> 心が優しくなれたり周りの人々を大切に思う心が育ったことに感謝させたい。 環境保護に目を向けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に使用したものを自然に返す。

この火はほくらの火だ



○設定の趣旨

自然学校では種々のプログラムが作成され、「全ての子どもたちに同じ活動を体験させる」ことが、何かしら至上命題のように考えられている。しかし、そうであろうか。例えば成就感や達成感を感じる活動の代表的なものとして「登山」が上げられる。この登山の活動では、より一層大きな心の満足を得るため、より高い山へとアタックするのであるが、この時山頂に立つ人間はメンバーの中のほんの一握りであることを想起してほしい。多くのものはベースキャンプでその一握りの人間の登頂を支えているのである。このように役割を分担しながら、より大きな感動を分かち合わせる活動を設定すると共に、5泊6日の間一つのテーマを持ってねばり強く取り組み、子どもたちに「時間・空間・仲間」の3つの間を体全体で感じる活動を設定した。

具体的なプログラムの設定は次のようにした。

1日目は大きく生活環境が変わるとともに、5泊6日の間行動を共にする新しい仲間との出会いの場を大切にしたい。2日目以降テーマである「火」についてねばり強く取り組む活動を設定し忍耐・自信等の体験を設定する。特にここでは2日間にわたって、エリア外に出る活動を設定し「火」を守る活動と同時平行して実施する。この活動の中で「のろし」をあげ、空間的に離れていても子どもたち相互が「火」によって連帯していることを確認させる。5日目には、火を囲んでいろいろな話が出る活動、さらには全員でやり遂げた喜びを分かち合う機会を設定する。最終日には、自分たちが6日間テーマを持って取り組んできた活動を振り返ると共に、明日からの新たな決意を喚起させる。活動の形態としては、基本的には小集団活動とし、信頼や責任の重要性に気づかせたい。活動の途中に全体活動を設定し、子どもたちがねばり強く取り組んでいることを確認させる。

	活 動 午前 午後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	仲間を知ろう (班活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・初日については、主たる活動が行われるエリア内でイニシアティブゲームを設定し、課題解決等をする中で班内のリーダーとフォロワーの関係について十分に体験させたい。 (協力・問題解決)	
二 日 目	火を創ろう (班活動) <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館見学 ・火おこし ・飯ごう炊飯 (夕食) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「火おこし」を班ごとに実施し、この火を最後まで絶やさないため、役割分担などの相談をさせ協力性を発揮させたい。 ・火おこしについては失敗してもやり遂げるまで何度でも挑戦させたい。 ・この火と自分たちで作ったカマドを使い、協力して炊飯活動をさせたい。 ・出来た喜びを班員で分かち合い、満足感・充実感を味わわせたい。 (協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のゆとりを持たせた活動とする。 ・火の取り扱い是十分指導する。
三 ・ 四 日 目	火をつなごう (選択活動) <ul style="list-style-type: none"> ・登山 ・ハイキング ・火を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班内で「火を守る」「登山」「ハイキング」のいずれかを選択し、2回にわたって設定したい。 ・エリア外に出るときは「火」を分火して活動場所まで移動し、活動の途中に「のろし」を上げ、相互に連絡させ、空間的に離れていても仲間としての絆がつながっていることを体験させたい。 (忍耐・自信)	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の活動として設定する。 ・分火については、ランタン・ろうそく・カイロなどで工夫させる。
五 日 目	火を楽しもう (班活動) <ul style="list-style-type: none"> ・焼き芋大会 (一斉活動) ・キャンプファイヤー 	<ul style="list-style-type: none"> ・大切に守ってきた自分たちの「火」を囲み、焼き芋大会等を設定し、子どもたちが相互に楽しく語り合える場面を設定したい。 ・キャンプファイヤーを設定し、やり遂げた達成感を大きな集団の一員として味わう場を設定することにより、5泊6日の体験を一層感動的なものとした。 (協調・共感)	
六 日 目	ほくらの火よきようなら (一斉活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・6日間「火」を中心にした生活をすることによって、お互いに周りの人々を信頼したり、大切に思う心が育ったこと等、ふりかえりの時間としたい。 	

(3) 自主・自立を育むプログラム

・はじめに

子どもは、小さい頃より親から「早く起きなさい。」「顔を洗いなさい。」「部屋を片づけなさい。」「宿題をきなさい。」など、基本的な生活習慣に必要なしつけを受けて育つ。そして、成長するとともに指図されることが少なくなり、自分で考え、判断し、行動できるようになる。

阪神・淡路大震災直後、水道が使えなかった地域では、子どもが大人と一緒に水を運んでいる姿や清掃を手伝っている姿が見られた。自分に関する事柄だけでなく、家庭・学校・地域社会に関する事柄についても自主的に参加できることは、社会の一員として大切なことである。

家庭での愛情や信頼関係に基づいたしつけ、学校における集団生活や問題解決学習、地域社会でのボランティア活動への参加によって、児童の自主・自立を育むことができる。

5泊6日の自然学校で育む自主・自立の力を「自ら考え、主体的に判断し、行動できる力」とし、以下のように考える。

自分で考え、判断や決定をし、計画から準備、片づけまで責任を持った行動ができる

ある自然学校で、子どもがプログラムについての不満を担任に訴えてきた時、担任は子どもの話を最後まで聞いたのち子どもに言った。「でも、それはあなたが決めたことでしょ。」そう言われて子どもはどう思ったであろうか。

自分の行動は自分で責任を持たなければならないことを改めて感じたであろう。そして、自分の思うように事を為すためには、資料を集めたり、調べたりし、よく考えて計画を立てなければならないと反省するであろう。

行動を自己決定させ、責任を子どもに持たせることが大切である。

お互いに認めあう

子どもは、様々な人間関係の中で成長する。相手の考えを正しく聞き取ったり、自分の意見をはっきり表現したりして、お互いの立場や考えを理解し、協力することができる。

野外炊事や基地づくりなどをみんなで協力し、成し遂げた時の喜びは大きい。その体験は、人種・信条・性別・社会的身分の違いがある様々な人々と協調し、社会を築いていくことにつながる。

子ども同士が話し合う機会をもち、認めあうことが大切である。

自己中心的行動から脱却する

家庭から離れて5泊6日間友だちと一緒に生活すると、「私の家では、こうしているよ。」「うちでは、こうしている。」という家での暮らしについての話がでる。自分が今まで当たり前だと思っていたことに対して、多様な考え方ややり方があることを知る。そのことにより、自分の行動は他の人にとっては、どう受け取られているかという振り返りができる。

また、集団生活をするにより、自分勝手な行動は、仲間に迷惑をかけることを知る。例えば、決められた時刻に決められた場所に集まらなければならない時、遅れば仲間を待たせ、もしかすると計画が乱れてしまうこともある。

自分のことだけでなく、周りの人のことや状況を判断して行動することが大切である。

自分に自信を持ち、さらに発展させる

取り組んだ活動を成し遂げ、教師や友だちに認められたときの満足感は、子どもに自信を持たせ、さらに何かに挑戦してみようとする意欲を持たせる。そして、様々な体験をすることにより、自分の気づかなかった力を発見し、さらに自主的に取り組み自立につながる。

子どもに自信を持たせることが大切である。

・プログラム作成の基本について

自然学校は、学校、家庭、地域を離れ、普段の生活と異なる環境の中で行われる。児童は保護者の援助を受けることのできない状況となることによって、自分の身の周りのことをはじめ、自分が関わることは全て自らの力で判断し、行動しなければならない。その過程で、様々な課題が生まれそれを解決することによって、児童の自主・自立が育まれると考える。

また、児童も5年生になり、自然学校に参加することを楽しみに待ち望んでいる。このように意欲的に自然学校を迎える気持ちがすでに自主・自立を大きく芽生えさせる土壌になっている。

自主・自立を育むプログラムづくりに際しては、この意欲を大切にし、児童一人一人が持つ興味・関心に基づいて選んだ活動や指導者・保護者の願いや児童の実態などから選択した課題（活動）を取り上げることが大切である。活動内容については、単に問題解決をするだけの受け身で終わらせないようにする。そして、現地の様子や活動内容のポイントなどの事前指導を充実し、活動内容のイメージを膨らませ、積極的に取り組ませるようにプログラムづくりに参画させ、その上で、計画・準備・実践・片づけをできる限り児童の力でやり遂げさせるように指導を行い、責任ある活動とさせる。また、活動をなし遂げた時の成功の感激とともに満足感・達成感・成就感などを味わわせることで、自分の力の高まりを覚え、自信を深め、さらに発展した課題に視野を広げるなど、自主・自立を育むことに効果が表れる。

このように、さらに発展する意欲に結びつけるには、目標（ねらい）に対し、順調に進んでいるという感じを児童に持たせることや、集団活動の計画や運営に児童の参加できる機会が十分に与えられていることで、自主的・積極的な活動が生まれてくる。

児童にとって普段の生活でない自然学校の環境では、段階を迫った指導が必要であり、望ましい自主・自立の発達のためには、ある程度の依存的な行動を受け入れ、支援していく必要もある。

プログラム作成にあたっては、活動を十分に堪能できるゆとりあるものとし、充実感や成就感を味わい、自分の力の高まりを感じさせ、自信を持たせることで自主・自立を育むことができる。

生活面においても集団生活の中で、毎日くり返す基本的な生活習慣を中心に、友だちとの違いを見つけたり、今まで気づかなかった自分を発見することができる。また、集団の中ではわがままではいけないことを知り、忍耐や自律の精神、仲間と協調する社会性も身につけることができる。

5泊6日の自然学校では、活動面を中心としながらも生活面も含めた全体を通し、ゆとりの中で、児童が自ら学び考える力を育成することを柱としたプログラム作成を基本的な考えとする。

ザ・サバイバルステージ



○設定の趣旨

このプログラムは、実施の条件として、海辺にテント設営が可能であり、その近辺に山もある施設をイメージしている。

設定の趣旨の一つ目は、子どもたちが可能なかぎり個々の力で生活が送れることを意図していることである。

中心的な活動となるのは、テントで3泊することである。その間、1日分の食事づくりと2日分の活動内容を子どもたち自身が計画し実行することである。

テント設営や食事づくりなどの活動計画を、班または個々人で選択させ、計画、準備、実施、片づけをさせ、自主・自立の精神を育むことを目的とする。

二つ目は、火おこしで火を使いはじめ、その火を6日間の活動に関連させることである。

具体的には食事づくりであるが、この活動時には次のことを強調させたい。

- ・ 食器やかまどづくりも含めて、自分たちでつくる食事づくり活動で火の必要性を自覚させる。
- ・ 食事をつくることは、生きていくうえで大変重要であることに気づかせる。
- ・ 食事をつくることの大変さを味わうことにより、家庭で食事をつくる人の大変さに気づかせる。
- ・ 食事づくりや火を保つ取り組みで、野外での食事づくりの技能を身につけさせる。

これらのサバイバルな活動を通して、子どもたちが個々の力を発揮し、友だちとの協力関係の中で生活を創り出す5泊6日の自然学校プログラムを立てた。

	活動			活動設定の意図	指導上の留意点
	午前	午後	夜		
一日目		島探検	火起し 点火式	<ul style="list-style-type: none"> 島探検をし、活動場所に慣れさせたい。 火を起し点火することで、これからの生活に意欲を持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 島探検で班毎に地図を持たせ、テントを張る場所などを書き込ませる。 火は6日間燃え続けるように工夫させる。
二日目	食器・炊事用具づくり 自然のものを利用	食事づくり1 カレーライス サラダ		<ul style="list-style-type: none"> 食器や炊事用具など、必要なものは自分で作るという自立の意識を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めてであり、薪のくべ方、食材の切り方、衛生面を指導する。
三日目	テント設営 かまどづくり 食事づくり2 班別メニュー	食事づくり3 サバイバル メニュー 材料採集	テント泊	<ul style="list-style-type: none"> テント設営やかまどをつくることで生活への意欲・自覚を持たせたい。 食材を採集させることで、食事づくりの難しさを体験させ、意欲を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回目以降は、教師も実施し、子どもに見させることで刺激し、意欲を高める。 サバイバルメニューは、事前に食べられるものを紹介してから採集させる。 採集したものは、指導者が点検する。
四日目	サバイバル選択活動〈班活動〉 釣り 浜遊び いかだづくり 山探検 基地づくり 虫取り 海水浴		花火遊び テント泊	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で活動させ、自然の素晴らしさやダイナミックさを味わわせ、興味・関心を引き出し、さらに自主的な活動に発展させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の時間は班毎に決めさせ、充分に楽しませる。 花火の着火も一日目の火を使い、火とともに生活していることを意識づける。
五日目	サバイバル選択活動〈班活動〉 スタンプ練習 〈班活動〉 オーディション		テント泊	<ul style="list-style-type: none"> 選択活動とスタンプ練習を平行して行い、時間配分を計画させ、自主性を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> スタンプは、盛り上がり損なわないようにオーディション制で行う。 班活動は、昨日の継続をしても変更してもよいこととし、自主的に計画させる。
六日目	消火式			<ul style="list-style-type: none"> 6日間守り続けたことを賞賛し、やり遂げた満足感を味わわせ、自主性の高まりを自覚させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校を振り返り、自分の成長を中心に感想を言わせる。

誰でもできる「ちょっと過酷で、後楽しい」



○設定の趣旨

指導者が、様々な場面で細かいチェックを行いながらも、楽しい演出を行うことで活動にメリハリができ、子どもたちには充実した自然学校となるプログラム例である。

まず、第1日目を午後から始めることで、体力的なゆとりと第6日目の活動を充実させた。

山の活動では、食事づくり活動を3回行うことを中心の取り組みとした。

「自分たちの生活は自分たちで」の意識の高まりや野外での食事づくり技術の習得、また、失敗しても他のものに替えられない困難さなど、班での協力が必要となる状況を設定した。

さらに、片づけを特に丁寧にさせることで、班での協力した活動が意図的につくりだせ、終わったときに「やり遂げた」という達成感を味わわせることとした。

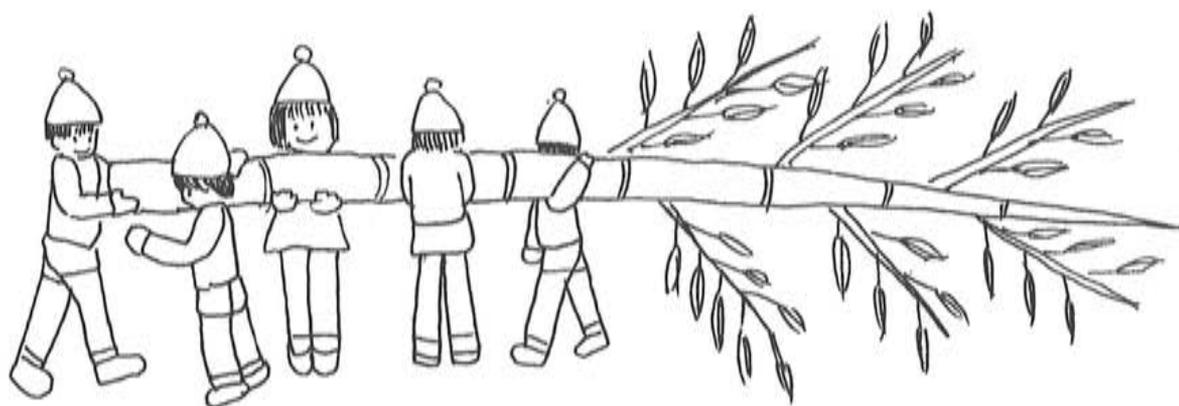
チェック機能を有効に利用した方法だが、子どもたちに直接指導するのではなく、支援する姿勢を前面に出すことが子どもたちを刺激し意欲を高めていくことになると考える。また、スタンツ練習においても、オーディションに合格するといった経過をとらせることで、子どもたち個々が明確な目標を持ったファイヤーが実施でき、思い出を個々の心に印象深く残させることを意図とした。

前半は、山の生活で意図的に仕組んだ「過酷さ」を体験させるが、後半には規制を緩やかにした状況にすることで個々に楽しさを実感させ、自主・自立のきっかけづくりとした。

海での活動は、海とのふれあいを中心として、活動の選択、拘束しない時間を設定し、おおまかで大胆に、そして楽しくなるプログラムとした。

	活 動			活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点	
	午 前	午 後	夜			
一 日 目	山	テント設営 自然学校探検		<ul style="list-style-type: none"> • 班で協力させながら生活が始まる意識を高めたい。 • 施設を知り、今後の活動を円滑に進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 範囲を指定して地図を持たせ、自主的に行動させる。指導者をポイントに配置する。 	
二 日 目	の	食事づくり1 カレーライス	食事づくり2 買い出し 班別メニュー	<ul style="list-style-type: none"> • 1回目は、基本的な体験をねらいとして、全班同じメニューとした。 • 2回目以降は、支援せず、子どもたちの自主的な活動にさせたい。 		
三 日 目	生 活	食事づくり3 班別メニュー	スタンプ練習 ファイヤー準備	ファイヤー	<ul style="list-style-type: none"> • ファイヤーは子どもに企画、実行させ自主的に運営させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 指導者も食事づくり活動をし、子どもたちへの参考とする。 • 片づけは丁寧にさせ、達成感を味わわせる。
四 日 目	海	テント撤収	漁船乗船 浜辺遊び	花火遊び	<ul style="list-style-type: none"> • 日常の学習に生かされた。 • 海と山との自然の様子の違いを体感させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 浜辺遊びは子どもの発想を大切に、自主的な活動にする。
五 日 目	の 生 活	いかだづくり	選択活動 ・みりん干し ・海水浴 ・釣り ・貝拾い		<ul style="list-style-type: none"> • いかだづくりでは、協力することの大切さを体験させたい。 • みりん干しでは、自然から食べ物をつくる喜びを体験させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • ライフジャケットを着けさせる。 • 午後の活動は、興味・関心ある活動を通して、海の自然や恵みを感じ取らせる。
六 日 目		海水浴			<ul style="list-style-type: none"> • 大海原に身を任せ、個々に楽しさを実感させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 思い出を個々の心に印象深く残させ、自主・自立の活動ができる力を育む。

竹 1 本で何ができるかな？



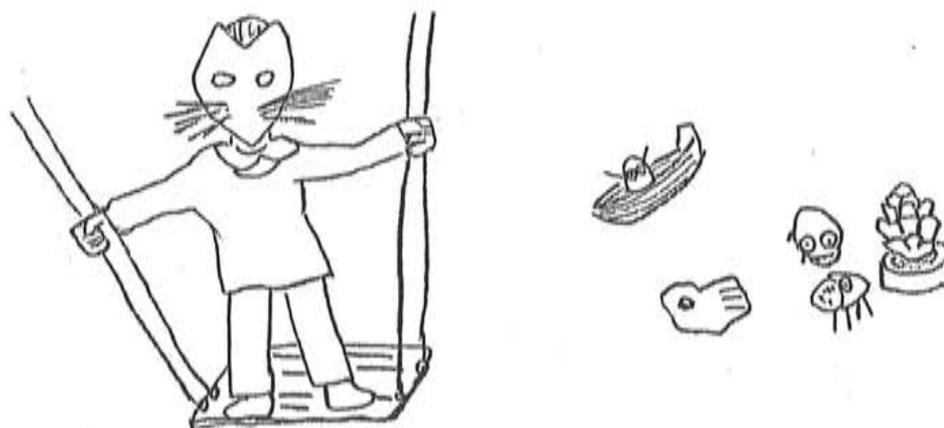
○設定の趣旨

「先生、こんなの作ったんだよ。」「すごいのができたね。がんばったんだね。」「うん。」…きらきら輝く瞳、自分の努力が認められた時の満面の笑み、そして、次、何をしようかという楽しみ。この楽しみを体感した子どもは、その何かのための労力は惜しまない。自分で、材料を集める。作り方を本などで調べる。工夫する。より豊かな創造性を働かせ、周りに興味・関心を持ち、自分の物にしていこうとする。この創作活動の魅力を生かしたプログラムを設定した。主な材料は、竹1本である。「竹1本でどんなことができるのか」という課題を与え、子どもたちに考えさせ、事前に下調べ等をさせることが大切である。なお、夜のプログラムは、友だちや教師・指導員とのふれ合いの時間を確保するため設定していない。

- 1日目…… 活動するには、まず竹が必要だ。竹はどこにある？ 見つけた！ ジャあ、次どうする？ のこぎりはどこにあるの？ どうやって切り倒そう？ 行動し、考え、また行動する。自分で考え行動しなければ活動できないこと、一人でできなければみんなで協力しなければいけないこと、人に聞かないとわからないこともあることなどを1日目に体験させ、今後の活動の基本的な姿勢を持たせる。
- 2日目…… 共通の目的意識を持たせるために、3日目に竹筒炊飯を設定した。そのためには、まず、竹筒を用意しなければならない。そして、ご飯やおかずを入れる器やおはしが必要である。また、これからの活動のために1本の竹をどう切ったらよいかを考えさせる必要もある。このように2日目に今後の見通しを持たせる。そして、班活動ばかりではなく、個人の満足感を持たせるために、自分のはしや食器を作り、これからの食事の時に使わせる。
- 3日目…… 自分たちで作った竹筒を使ってご飯を炊かせる。2日間がんばったことの成果がでる日である。そして、野外炊事は、みんなの協力が必要なので、できた時は、どの子にも成就感を味わわせることができる。このことが、自信につながり、活動の意欲につながっていく。
- 4、5日目…… 施設の様子もわかり、何かしてみたいという気持ちを大切に、子どもの自由な創作時間を設定した。残りの竹を使い、竹とんぼ、水鉄砲、竹けん玉、竹笛、水筒、一輪挿し、鍋置き、笹かざりなど自分で作りたいと思うものを作らせる。製作に必要な材料を探しに行かせたり、共同で何かを作らせてもよい。そして、それで遊んだり、使ったりさせる。5日目の午後からは、パンプー・フェスティバルを開き、物々交換をさせたりする機会をもち成果を共有させる。
- 6日目…… 竹1本で、様々な体験をさせた。そのことを振り返らせ、自分なりの思いを文章や絵などに残し、確かめさせる。このことによって、体験が深化し、これからの自分の生き方を考えさせることができる。

	活 朝	動 昼	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	竹を切ってこよう 〈班活動〉		<ul style="list-style-type: none"> ・自然学校での基本的な姿勢を身につけさせたい。 〈基本的姿勢〉 気づく 考える 行動する 協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者は子どもに適切なアドバイスを与え、特に安全面に留意して、見守る姿勢をとる。
二 日 目	竹で作ろう Part I 〈個人活動・班活動〉 <ul style="list-style-type: none"> ・竹筒作り ・竹食器作り 		<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的意識を持たせたい。必需品作り ・今後の見通しを持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作前にその作り方の説明書の用意または、指導員による説明会をしてもよい。竹の灰汁抜きのために、水につけるか湯通しをする。
三 日 目	竹筒でご飯を作ろう 〈班活動〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯 ・肉じゃが 		<ul style="list-style-type: none"> ・成果を確かめさせたい。成就感、満足感 自信 意欲づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事をしたことがない場合は、基本的なことを説明する必要がある。また、衛生面や安全面に注意する。
四 日 目	竹で作ろう Part II 〈個人活動〉 <ul style="list-style-type: none"> ・竹とんぼ ・竹けん玉 ・水鉄砲 ・一輪挿し ・竹笛 ・水筒など 		<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・主体的に行動させたい。心の解放 創造 楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童把握のために、活動場所を記入する掲示物を用意し、適時書き込ませる。各場所には、指導員を配置し、安全に留意する。
五 日 目	バンブー・フェスティバル 〈集団活動〉		<ul style="list-style-type: none"> ・体験を共有させたい。認めあう 満足感 連帯感 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の交換、体験コーナー、体験を劇にした発表会など形態、方法に合わせて児童と事前に話し合う時間を持つ。
六 日 目	竹供養 〈個人活動〉		<ul style="list-style-type: none"> ・体験の振り返りをさせたい。 ・自分の心の動きを大切にさせたい。豊かな感性 表現力 体験の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文、絵巻物、スケッチなど多様な表現方法を認める。体験を通して、「竹とわたしたち」など、テーマを絞ったものにする。

ネバーランドをつくろう



○設定の趣旨

ピーターパンがいるネバーランドは子どもの世界である。そこには、楽しい事しかない。その「ネバーランドをつくろう」ということを目標にする。子どもにとって理解しやすい目標を立てることによって「自分は、こういうことがしたい」という見通しと意欲を持たせることができる。そして、目標は同じではあるが、子ども一人一人の思いはちがう。木にロープを結びつけてブランコや秘密基地を作る子もいるであろう。箱庭に置く小さな動物や、小物を自然物で作る子もいるであろう。そのことを大切にすることによって、子どもの自主性・主体性は育つと考える。夕食後は、家から離れた生活で精神的緊張が続くので、心の解放のため活動は設定しない。

- 1日目……材料にする自然を知らせる日。自然を観察させたり、集めさせたりすることによって、新しい発見や創作活動のヒントを得させることができる。「きつねの小判」という自然観察ゲームをさせながら、そのことに気づかせる。
- 2日目……創作に対する構想を試行錯誤させる日。自分が楽しいなと思う「ネバーランド」に必要な材料を求めて、行動させる。また、自然の中で遊んだ体験が創作のヒントになるので自由に遊ばせる。
- 3日目……1度自分の思いを表現させる日。これから自分がしなければならないこと、必要な物を確認させる。
- 4日目……子どもに「ネバーランド」構想を交流させる日。お互いを認めあったり、新たな発想を膨らませたりさせる。
- 5日目……「ネバーランド」を完成させる日。一人一人の思いがまとまり、共通の目標で完成させたものができた成就感、満足感を味わわせる。
- 6日目……「ネバーランド」に別れを告げさせる日。ネバーランドづくりでどんなことが分かったか。どんな意欲がわいたか。これからどんなことをしようと思うか。体験を振り返って、自分の心の動きを確かめさせる。

	活 動 朝 昼	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	ネバーランドをつくろう 「発見の日」 〈班活動〉 きつねの小判	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での基本的な姿勢を身につけさせたい。 発見 思考 行動 協力 	<ul style="list-style-type: none"> 「きつねの小判」に使う提示物は、色、形、大きさ、種類にバリエーションをもった物を選ぶ。
二 日 目	「体験の日」 〈個人活動・班活動〉	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験を通して、より楽しいものにしていくにはどうしたらよいか考えさせたい。 感性 創造性 探求心 	<ul style="list-style-type: none"> 昼食をお弁当にして、完全に自由行動にしてもよい。 各地点に指導補助員を配置し、児童把握に努める。
三 日 目	「創作の日」 〈個人活動・班活動〉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを具現化させることにより、成就感や課題意識を持たせたい。 成就感 満足感 意欲 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いに共感し、支援していく。
四 日 目	「交流の日」 〈集団活動〉	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの作品を鑑賞したり、体験したりすることにより、新しい考えを生み出したり、自己の振り返りをさせたい。 発見 体験の交流 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがお互いに認め合うことを大切にする。 ワークシートを利用して、感想を相手に伝える工夫をする。
五 日 目	「完成の日」 〈集団活動〉	<ul style="list-style-type: none"> 作品の仕上げをさせ、みんなの「ネバーランド」にさせたい。 連帯感 喜びの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 持って帰れない物は、写真やビデオを利用して記録に残す。
六 日 目	「別れの日」 〈個人活動〉	<ul style="list-style-type: none"> 体験の振り返りをさせたい。 自分の心の動きを大切にさせたい。 豊かな感性 表現力 体験の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 作文、絵巻物、スケッチなど多様な表現方法を認める。

私のお家は最高だ

= 5泊6日の生活を自らの力で創り出す体験 =



○設定の趣旨

学校と熟通いのパターン化された日常生活を送る児童の多くは、ささいなことでもヒステリックになりがちで、相手の思いを受け止めるゆとりに欠ける場面が多く見受けられる。自然の中で過ごすことで自然の摂理に身を任せることの意味を体験し、自らの家を立ち上げることで自己を実現する。

この一連の過程が、相手の思いを受け止める豊かさとも関連することに気づかせたい。

与えられた場所での生活ではなく、自ら生活する場を創り出す経過をプログラム化することで生活する上でのきまり、安全をも主体的に取り決められる。このことは、個々の児童の意欲を喚起し、自然を実感しながら、仲間意識をも豊かにする。

わが家を意識することで、生活することの意味付けも行われ、自活の方向を示す。生活を楽しみ、そのことを味わうことで、自らを讃える思いも実感できる。そして、この喜びをより多くの人々に伝えようとする発展へとつながる等がプログラム作成の視点と考える。

1日目……自然を順を追って実感するために、ゲーム形式で導入を図り、自然を体感する体験で一気に自然に共生し、炊飯や遊び場づくりで自然の楽しさを味わえればよい。

この過程で、必ず他者の力を必要とする。自然とふれあうことに馴れる。そして自然と遊ぶことへの期待感を抱かせる導入とする。

2日目……目的に向かって準備期間も大切な活動として意識させる。

3日目……作業日として単純な目標に全力で取り組ませる。

4日目……実施した活動の振り返りとして仲間を意識させることでの、手直しや、楽しむ余裕、そして納得しての片付け等を2日間、じっくり取り組ませる。

6日目……単なるまとめの日ではなく、学級、家庭への発展として伝える課題を意図的に示すこととする。

○このパターンのプログラムを推進するには下記の手立てが必要となる

- ・ 個々人のめあて及び活動の設定に関して、可能な限り現地の情報を提供する。
- ・ 予想される活動に関する備品や材料を準備しておく。
- ・ 活動は、個々人を単位とするが、協力しあって活動することは認める。
- ・ 入浴・食事については、各個人の判断で行わせる。
- ・ 毎日夜の作戦会議で翌日の活動内容を最終決定する。調整のポイントは以下の通りである。
 - * スケジュールに無理がないか
 - * 個人のめあてと一致しているか
 - * 活動グループの編成での問題点はないか
 - * 指導者の配置等児童の活動に対応できるか
 - * 相談コーナーを常設しておく
- ・ 全体把握する者が、常に施設と連絡を取り、活動状況の確認と安全確認を行いながらコーディネートする。

	活 動 午 前 午 後 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	自然にふれる 自然観察ビンゴ	<ul style="list-style-type: none"> 生活する場所の確認作業。 自然とゲーム形式でふれあうことで、自然とふれあうことに対する期待感を持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で作ってきた班を単位として、ビンゴの完成を目指して協力する。
二 日 目	自然の中で過ごす シェルターづくり ①場所探し（校内ハイク） ②シェルターの設計図・作業手順や必要物・共同作業者の決定等 ③決定内容の確認と追加補足	<ul style="list-style-type: none"> 自然の木立の中に生活する場をつくることにより、自主性へのきっかけとしたい。 共同作業が必然的となるので、仲間集めの活動を意識させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を一層身近に感じながらも初めてのことなので、興味を抱きながら不安感もある児童の心理を正しく把握する。
三 日 目	自然の中で生活する シェルターづくり作業開始	<ul style="list-style-type: none"> 共同作業者を意識しながら計画的に取り組み、つくり上げたい。 やり遂げた喜びが自信へとつながることを願い設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察－睡眠・食欲等 完成後は、宿泊希望に応じる。テント泊でもよい。
四 日 目	シェルターでの生活を楽しむ ①友だちを招待したランチ ②思いで創り－木の枝クラフトづくり等 ③夜の自然を感じる－銀マット、シュラフ等を用意し宿泊する。	<ul style="list-style-type: none"> 他者を招待することで、思いやりの芽生えを意識化させたい。 自然の中でこころの癒やしを感じさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼食をつくり、シェルターで仲間と共に食べる、また友だちとの話にふけりながら、日の出を見るのもよい。
五 日 目	シェルターでの生活の余韻を楽しむ ①シェルターでの朝寝を楽しむ ②シェルターの撤収 ③振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 前夜の感動を思い出としてあたためさせたい。 くつろぐ間のゆとりが、達成感、成就感を感じさせる大切な時間であると考え設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任を持って片付けさせる。 風呂をゆっくり楽しむのもよい。
六 日 目	自然を伝える 生活や活動場所の片付け 活動のまとめ－退校式	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や他の指導者からの情報を得ながら、児童の新たな可能性の発見により、今後の学級指導に生かしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの思い出をあたためる時間の保障とする。 お話の絵本づくり等、思い出に残すと同時に伝える作業とする。

個性が輝く自然学校

＝ 5泊6日の生活を自らの力で創り出す体験 ＝



○設定の趣旨

教科の総合学習化が行われ、興味・関心を重視した指導方法に改められつつある中で、児童個々がめあてを明らかにしながら、自ら考えたプログラムが実施できれば、児童側の意識として「やらされている」ということがなく、この興味・関心を出発点として自主・自立に至る経過を追いやすくなる。

また、5泊6日の時間の活用で各活動が中途半端に終わることなく、個々人のペースで最後まで徹底した取り組みが可能となり、達成感や成就感も得やすくなる。

このように、5泊6日の生活そのものを子どもたち一人一人が創り出す意識は大きい。

生活を営むためには、衣・食・住の基本的な営みを各自で工夫しなければならないことに気付き、合わせてより豊かな生活を送るためには、工夫が必要なことを認識する。また、自然の中での生活は自らの体を使い、知恵を働かせないと活動できないことを学ぶ。さらに、集団宿泊の生活下において他者の新たな能力に気付くことの喜びを味わう等がプログラム作成の視点と考える。

- 1日目……初めて訪れた場所。多くの興味や関心を抱きながらも不安でいっぱい。明日からの活動に備えて、まずは実地調査。自然にそして集団に個々人のペースで馴染むことが大切な活動。
- 2日目……この日から4日目までは、自分で考えた活動を実践しながら、より達成感や成就感を味わうための工夫創造の日々となる。
- 5日目……夕方頃からは個々人の思いを大切にすることで、集団全体の豊かさにつながることも実感する。
- 6日目……学校や家庭生活へつながるセレモニーとして退校式を位置づける。

※ 毎日繰り返される、排泄、入浴、食事も大切な活動として、また翌日の活動を決定する作戦会議も十分保障し、日一日と馴れることで安心感が持てるようにする。

○このパターンのプログラムを推進するには下記の手立てが必要となる。

- ・ 個々人のめあて及び活動の設定に関して、可能な限り現地の情報を提供する。
- ・ 予想される活動に関する備品や材料を準備しておく。
- ・ 活動は、個々人を単位とするが、協力しあって活動することは認める。
- ・ 入浴・食事については、各個人の判断で行わせる。
- ・ 毎日夜の作戦会議で翌日の活動内容を最終決定する。調整のポイントは以下の通りである。
 - * スケジュールに無理がないか
 - * 個人のめあてと一致しているか
 - * 活動グループの編成での問題点はないか
 - * 指導者の配置等児童の活動に対応できるか
 - * 相談コーナーを常設しておく
- ・ 全体把握する者が、常に施設と連絡を取り、活動状況の確認と安全確認を行いながらコーディネートする。

	活 動				活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
	午 前	午 後		夜		
一 日 目	A君	B君	Cさん	<ul style="list-style-type: none"> 生活を創り出すのにスムーズな導入としたい。 自立する生活の基本的なルールの把握につながると考え設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 入校式については事前に役割を決めておく。 個人活動を基本とし、多様な体験を見守る。
	施設内探検 星座観察					
二 日 目	棒焼きパン	自転車練習	テント設営の練習	<ul style="list-style-type: none"> 何が出来るのかの手さぐりから、こんなことが出来そうかの可能性を見つけ出させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 試してみる活動でよい。
三 日 目	買い出し	地域の下見	テント設営	<ul style="list-style-type: none"> 評価を少し加えることで、積み重ねによる活動の発展を意図させ、やりがいを感じさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を持たせた活動を求める。
四 日 目	炊飯	サイクリング	夜の生活体験	<ul style="list-style-type: none"> 達成感を味わわせるために、行動への意識付けを意図的にせまる段階として設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り指導者が寄り添う。
五 日 目	招待炊飯	自転車整備	片付け	<ul style="list-style-type: none"> 成就感を味わい、自己の新たな能力の発見や他者への思いやり等を体感させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去4日間の関連付けをすすめる。 まとめ的な活動とし、まとめを表現する場とする。
六 日 目	帰校	帰家			<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活への自信につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭での生活に自信を持たせる継続指導を具体化する。

ぼくたちは名コック



○設定の趣旨

生活の基本の一つである「食べる」ことに関わる食事づくり課題は、口に入れ食べることができるようにすることが最大の関心ごとであり、めあてがはっきりしている。

食事づくりを達成するには、食材・器材の準備、火の調節、調理、配膳、片づけと多面的に数多くの作業段階を数人のグループで同時に進めていかなければならない。何を省いても達成（食べる）することができない特徴を持っている。だれもが忙しく動き回る必要に迫られることから、初めてで要領を得ない児童にも何らかの行動が要求される。この時、自分にできることは何か、どうすることが役立つのかなど判断し行動に移す。こうした思考過程のもとに行動することで、自主性、主体性を育て、責任を持って積極的に作業を進めることができる。こうして自分たちの力でやり遂げたことで、炊はん技術を身に付けた喜びと、グループの一員として力を発揮し活躍できたことで自信を持ち、仲間に認められたことで充実感を味わい自主・自立の力を育む。

食事づくりを複数行う体験は、炊はん技術の習得だけでなく、前回の体験が生かされることにより、活動にゆとりが生まれ、落ち着いた行動となり、さまざまな力がさらに高まる。また、買い出し体験は、児童にとって関心の強い活動であり、積極的な姿勢で取り組ませることができる。さらに、この活動は金銭感覚を養うとともに、賞味期限や製造年月日に目を向けるように指導することで自然学校を終えてからの生活に生かすことができるなど「生きる力」に結びつけることができる。

以上のことをねらいとして5泊6日を設定した。

- 1日目……生活、活動を行う施設に慣れさせる。特に、炊事場の位置や使い勝手、器材、用具の収納場所や利用法について知らせる。
- 2日目……食べ物を作ることへの興味・関心を高めさせる。
- 3日目……食事づくりの基礎を体験させる。
- 4日目……前日の体験を生かし、定着させる。
- 5日目……食事づくり活動を発展させ、児童の自主・自立の力で課題解決させる。
- 6日目……5泊6日の自然学校で育んだ自主・自立の力を意識づける。

	活 動 朝 昼 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	施設散策	<ul style="list-style-type: none"> 施設を知り、自主的な行動ができるようにさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動が円滑に進むように、児童に器具、器材の位置を確認させる。
二 日 目	食事づくりⅠ（朝食） ・カートンドッグ おやつづくり やきいも どんぐりクッキー	<ul style="list-style-type: none"> 食事づくりの楽しさを味わわせ、食事づくりへの意欲を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 容易にできるものとし、不安を抱かせないようにする。 土を触らせたり、どんぐりを拾い集めさせたりすることで、食べ物は自然の大地の恵みであることを感じさせる。
三 日 目	食事づくりⅡ（昼食） カレーライス 野菜サラダ 食事づくりⅣ計画会議 献立決定 買い出し検討	<ul style="list-style-type: none"> 1回目は食事づくり活動の基本的な技術習得をねらいとし、全班とも同じ献立とさせたい。 今回の活動の反省を話し合わせ、次回は希望献立と発展し、新たな課題に積極的に取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な器材を児童に考えさせ準備させる。 用具の使い方、火の扱いなど技術の習得だけでなく、整理整頓・美化についても指導する。 自分を律しながら協力しなければならぬことも学ばせ、協調性、社会性を育てる。 各自の働きを認め合い、自立への自信とする。次回への意欲、発展につなげさせる。
四 日 目	食事づくりⅢ（昼食） おにぎり 登山	<ul style="list-style-type: none"> 弁当づくりでご飯炊きを再体験させ、定着を図りたい。 やっと登り切ったときに見下ろす風景に感動し、達成感、成就感を味わわせ、自信を持たせ、自主・自立を育くませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、一人一個の飯盒で個人活動として取り組みせ、全員の意欲を高める。 登山コースを班毎に選ばせる。 健康増進だけでなく、自然とのふれあいもねらいとさせる。
五 日 目	買い出し 食事づくりⅣ（夕食） 希望献立	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の体験を生かし、仲間と協力しながら児童の力だけで買い出しから取り組みせ、自主・自立をさらに高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な食材を買い求めることを加えたり、花や葉で食卓や料理を飾る工夫をするなどさらに幅広い自主的な活動に展開させる。
六 日 目	清掃		<ul style="list-style-type: none"> 家族と離れ、一人でやりとげたことを誉め、達成感・成就感を味わわせ、自立の成長を認識させる。

自然まるかじり



○設定の趣旨

「食べる」ことは人間が生きていくうえで欠かすことのできない大切なものである。長い歴史の中で、人間が培ってきた経験や知恵によって様々な料理が作り出されてきた。それが食文化として伝えられていることを理解させるとともに、自然環境に興味・関心を持たせ、自然の恵みに感謝する心を育て、自然と関わり自然から積極的に学ぶことで自主・自立の力を育む。

このプログラムでは、教室を豊かな自然の中に移して行う自然学校の特色を生かし、食事づくり活動に集中することなく、自然とのふれあいを充分に行い、自然から食材を収穫する活動を通して自然の恵みに感謝するとともに、自然の大切さを改めて感じ取らせる。

自然からは単に食材を求めるだけでなく、緑多き木々の繁る森が、波打ち寄せる海が人間の生活に大いに関わり合いを保ってきたこと。そして、これからも自らの体を使い知恵を働かせてふれあうことで、さらに多くの恵みを受けることができることを体験を通して理解させ、自然に対する新たな興味・関心を高め、自主的・主体的に関わっていこうとする心を育む。

以上のことをねらいとして5泊6日を設定した。

- 1日目……自然学校のねらいを明確にするため、博物館で自然について学習させ、興味・関心を高め、自然学校の活動につなげる。
- 2日目……野山の自然にふれあいながら山菜採り活動をさせ、野山からの恵みを知り、人間との関わりについて体験させる。
- 3日目……海辺の自然にふれあいながら貝拾い、海草採りをさせ、海の恵みを知り、人間との関わりについて体験させる。
- 4日目……「食べる」から「創る」に視点を変え、自然にふれさせる。
- 5日目……全員で取り組む活動とし、協力することの大切さを体験させる。
- 6日目……発見したり、感動したり、できるようになったことを発表させ、自然に対する感慨を認識させ、自然と自主的・主体的に関わる大切さをまとめさせる。

	活 動 朝 昼 夜	活 動 設 定 の 意 図	指 導 上 の 留 意 点
一 日 目	自然と人間との関わりを学ぶ (人と自然の博物館)	<ul style="list-style-type: none"> 自然の生態等の指導を受け、興味・関心を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の生活を振り返らせ、自然と食べ物との意識づけをする。
二 日 目	野山で遊ぶ 山菜採り 食事づくりⅠ (夕食) 天ぷら	<ul style="list-style-type: none"> 野山とのふれあいの日とし、自分たちが食べる山菜を採取することで意欲を高め、自主的な活動とさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べられる山菜であるか専門家に識別してもらう。 山菜は根を残して採取することを指導する。 野山に入り、自然への興味・関心を高め、自然を大切に育てる心育てる。 食べられる植物を知ることで、昔の人の知恵を学ばせる。
三 日 目	潮だまりで遊ぶ 食事づくりⅡ (間食) 海賊鍋	<ul style="list-style-type: none"> 海とのふれあいの日とし、新たな興味を覚えさせ、自主的・意欲的な活動に高めさせたい。 食材採集により、海の幸に興味・関心を高めさせ、自主的な活動に発展させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所の安全確認をする。一人での行動はさせない。 海は解放感や神秘性がある。子どもたちを興味あるままに自主的・主体的に行動させる。
四 日 目	自然で創ろう	<ul style="list-style-type: none"> 自然物を活用した創作活動で個々の個性を発揮させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然物を食べたり活用したりするだけでなく、自然の恵みを広い視野で感じさせる。
五 日 目	地引き網 食事づくりⅢ (夕食) バーベキュー	<ul style="list-style-type: none"> 個人や班の少人数でなく、全員が一齐に行う行動であり、協力し合う大切さを体験を通して学ばせたい。 協力することで、大きな課題も達成できる体験をさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 力を合わせて行う雄大な作業を体験し、海への関心をさらに高めさせる。 引き上げた魚介類を利用した食事づくりで「海の幸」を満喫させ、自然と人との関わりの大切さを感じ取らせる。
六 日 目	発表会	<ul style="list-style-type: none"> 自然について、発見したことや感じたことを発表し、自然への興味・関心の高まりに気づかせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の恵みにより、人は生活していることを認識させ、自然に対する感謝の気持ちを持たせる。 今後も自然とのふれあいを自主的に続ける意欲づけをする。

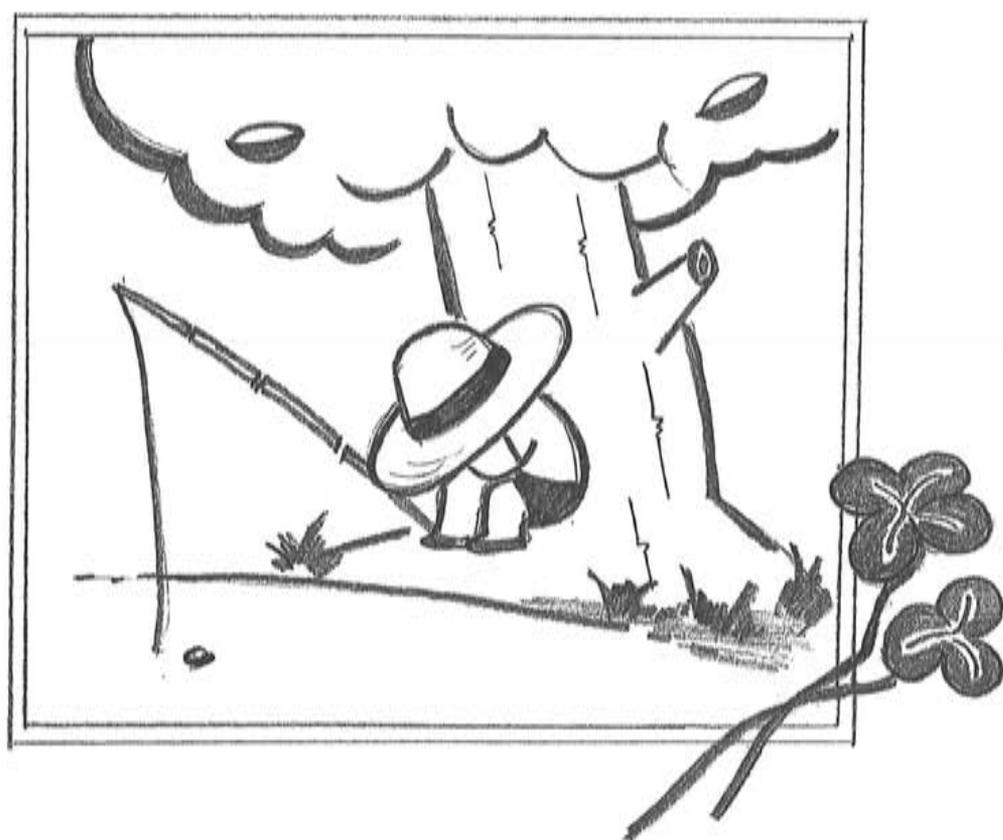
活 動 集

○「自然・人・地域」とのふれあい活動内容



I 自然とのふれあい活動

A 自然に学ぶ



I 自然とのふれあい

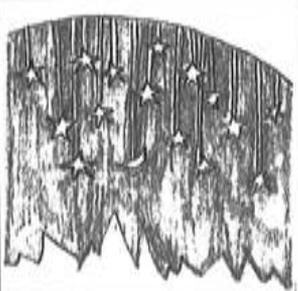
A 自然に学ぶ

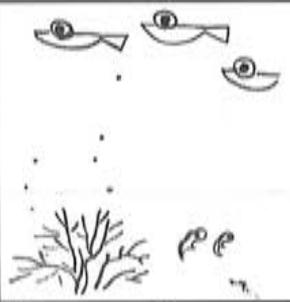
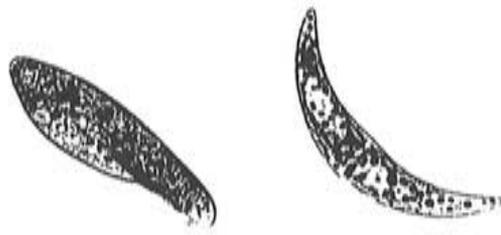
1	はさまの草木 (植物観察)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 植物を自然のまま置いて、観察する方法を身につける。 野草や樹木は環境によって種類や成長がことなることに気づく。 植物の特徴を知り、自然を受する心情を育てる。 		
時 間	半日～1日 準備物	植物図鑑 樹木図鑑 ルーペ 照度計 バインダー 温度計 トランシーバー 地図 長靴 はさまの植物資料 救急バッグ 筆記用具 時計	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。 2 グループで観察コースや課題を話し合う。 3 グループで観察をする。 4 観察記録をまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 植物は原則として、「折らない」「採らない」指導をする。 環境の異なる場所をコースに入れさせる。 野草と樹木に分け、グループで選択させることも良い。 つくり、匂い、色等特徴をつかませ、スケッチをさせる。 学術名のほか、自分たちで名前をつけさせると興味をもって取り組む。 どうしても採集したい場合は、根を残して採集させる。 * かぶれる植物 ヤマウルシ ツタウルシ ハゼ * とげのある植物 ノイバラ サルトリイバラ タラノキ * 毒のある植物 キツネノボタン タケニグサ 時間があれば発表させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 かぶれる草木(ウルシ、ハゼ等)を指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ハチやマムシなどについての指導をする。

2	生き物しらべ (昆虫観察)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中のいろいろな生き物を観察し、活動の様子や環境との関わりに気づく。 自然の中の生き物を観察することによって、自然を受する心情や態度を育てる。 		
時 間	半日～1日 準備物	ルーペ 昆虫採集網 虫かご バインダー 昆虫図鑑 長靴 トランシーバー 救急バッグ 筆記用具 時計	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。 2 グループで観察コースや課題を話し合い、決定する。 3 グループで虫を採集し、観察する。 * 採集方法のいろいろ <ul style="list-style-type: none"> スイーピング法 ビート法 糖蜜トラップ法 トラップ法 ナイター法 その他 4 観察記録をまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 生き物の命を大切に指導をする。 環境の異なる場所をコースに入れさせる。 落ち葉の下や土の中にも目を向けさせる。 じっくり観察させる。 見つけた場所、昆虫の様子等を記録させる。 採集する場合は、殺させないようにさせる。 蛾の観察の場合は、毒蛾に注意させる。 * 甲虫の例 カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、オサムシなど 観察したあとは、元の場所に返すよう指導する。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 かぶれる草木(ウルシ、ハゼ等)を指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ハチやマムシなどについて指導をする。

I 自然とのふれあい

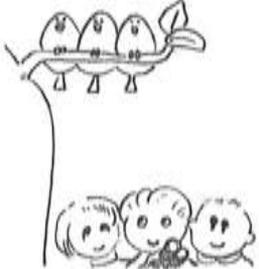
A 自然に学ぶ

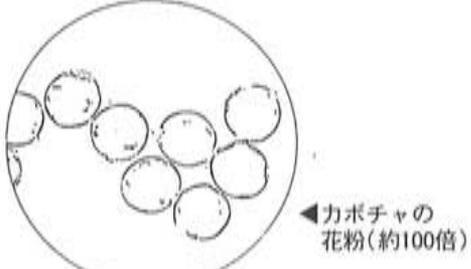
3	スターウォッチング		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 星の明るさ、色、位置を観察し、星の特徴や動きを知る。 星や月と人々との生活の結びつきに気づく。 夜空の美しさを知る。 		
時 間	1～2時間	準備物 天体望遠鏡 強力ライト 双眼鏡 星座盤 懐中電燈 筆記用具 ビニールシート 単一乾電池 (雨天時) ビデオ テレビ ビデオ教材 簡易プラネタリウム OH P 星に関する本	
活動内容			留意事項
1 天体望遠鏡を準備する。 2 星や星空の話を書く。 3 星座や流れ星を見つける。  4 天体望遠鏡で観察する。 5 感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 正しい取り扱い方を指導する。 神話等も入れて、興味を引く話を聞かせる。 秋や冬は暖かい服装で外に出させる。 * よく見られる主な流星群 4月30日～5月10日 明け方しか観測できない。 7月中旬～8月中旬 地味だが確実に出現する。 7月下旬～8月20日 速く、明るく、よく痕を残す。 10月15日～25日 速く、明るく、よく痕を残しやすい。 10月7日～11月30日 ゆっくりで明るい出現数は少ない。 12月10日～16日 確実に出現し、一晩中見られる。 <ul style="list-style-type: none"> 指導者はなるべく多くする。 正しい望遠鏡の扱い方をさせる。 荒天になった場合の準備をしておく。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 気温や虫さされを考慮して、長袖、長ズボンを着用させる。 天候によって、服装や観察時間を考慮する。 		

4	水辺の生き物 (水中微生物)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 水中の生き物を知り、その生態と環境について関心を高める。 生き物の生態を知り、自然環境を守ろうとする心や態度を育てる。 		
時 間	半日	準備物 解剖顕微鏡 顕微鏡 ピンセット ルーペ スポイト 採集用バケツ ベトリ皿 図鑑 水槽 長靴 プランクトンネット スライドガラス 救急バッグ 筆記用具 スケッチブック(画用紙)	
活動内容			留意事項
1 採集方法の説明を聞く。 2 グループで水中の生物を採集する。 3 顕微鏡を準備する。 4 グループで観察する。  5 その辺り全体の環境を観察し、調査した結果を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 採集時の安全指導を徹底する。 観察に必要な量だけ採集させる。 藻なども採集させる。 顕微鏡の使い方を指導する。 プランクトン等は顕微鏡を使って観察させる。 時間を十分取り、じっくり観察させる。 スケッチ等もさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 生活排水やごみが川に入っていることに気づかせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 川の中には、長靴などをはいて入らせる。 川底は滑りやすいので走らせない。 体調の悪い児童は、長時間水の中に入らせない。 		

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

5	バードウォッチング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 鳥の鳴き声や飛び方、大きさ、色等を観察し、野鳥とのふれあいを深める。 環境と鳥の生態との関連を調べ、動物愛護の精神を育てる。 		
時間	2～3時間	準備物 双眼鏡 スポットティングスコープ 鳥類図鑑 録音カセット カメラ 三脚 救急バッグ 筆記用具 カセットテープ フィルム	
活動内容			留意事項
1 野鳥観察の方法についての説明を聞く。 2 グループで決めた観察場所で、鳥の鳴き声を聞き、録音する。 3 双眼鏡やスポットティングスコープを使って観察する。 * 鳴き声の例 ・ ツーピーツーピー→シジュウカラ ・ ケーンケーン →キジ ・ ビー →コゲラ ・ キコキ キー →イカル ・ ホーホケキョ →ウグイス 4 グループごとに図鑑等をもとに種類や生態について調べ、確かめやまとめをする。			<ul style="list-style-type: none"> 野山の色に近い色の服を着たり、静かに行動するなど、小鳥をびっくりさせないように気をつけさせる。 前もって、観察場所や観察ルートを決めさせる。 大きさ、色、飛び方等特徴を記録させる。 * 春～夏 (夏鳥、留鳥、漂鳥) キジ キジバト カッコウ ツバメ ツツドリ ホトトギス アオゲラ コゲラ セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤブサメ エナガ ウグイス オオルリ シジュウカラ サンコウチョウ メジロ ホオジロ ヤマガラ イカル ハシボソガラス スズメ カケス カワラヒワ トビ * 秋～冬 (冬鳥、留鳥、漂鳥) ハイタカ コジュケイ ヒヨドリ キジ キジバト セグロセキレイ ホオジロ モズ ジョウビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ ミヤマホオジロ カケス トビ ハシボソガラス 施設周辺の野鳥のスライド、写真等を参考にさせる。(巣箱づくりや餌台づくり、観察小屋づくりに発展してもよい。)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。 季節や観察時間によっては、暖かい服装をさせる。 		

6	ミクロの世界		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物を詳しく観察することにより、植物が生命を維持し育つためのしくみを理解し、生命保存や拡大のための自然界の神秘に気づく。 		
時間	半日	準備物 顕微鏡 ピンセット ルーペ 採集箱 カッターナイフ かみそり スライドガラス 三角フラスコ プレパラートセット スポイト 植 物図鑑 救急バッグ 筆記用具 スケッチブック (画用紙)	
活動内容			留意事項
1 採集について説明を聞く。 2 観察する花、葉、茎などを採集する。 3 採集した植物を顕微鏡で観察する。  4 プレパラートを通して、いろいろな植物の花粉や気孔等を観察する。 5 観察したことをまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 採集は、最小限とさせる。 ムラサキツユクサ等気孔のよく見える植物を指導者が用意しておき、状況に応じて観察させる。 顕微鏡の正しい使い方をさせる。 観察の仕方を前もって印刷しておき、参考にさせる。 観察する植物名を調べさせる。 花のつくりや胞子等も観察させる。 スケッチをさせる。 * スケッチのポイント スケッチをするときには、見えるもの全部をかくのではなく、目的とするものだけを正確に描く。先の細い鉛筆を使って、線をはっきりと描く。 顕微鏡をきちんとかたづけさせる。 スケッチの展覧会に発展させてもよい。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木(ウルシ、ハゼ等)を指導する。 カッターナイフやかみそりの安全な使い方を指導する。 		

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

7	広さ・高さ・体積しらべ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 広さや高さ、円周や体積を調べることにより、広さ、高さ、体積の感覚を育てるとともに測定技術を習得する。 巨木等を調べることによって、木が育った過程を想像し、自然愛護の精神を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1	グループで測定する場所や物を決定する。 (例) ・石の体積 ・木の高さ ・広場の面積 等		<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の測定物案内図を提供し、参考にさせる。 安全指導を徹底する。
2	測定方法を相談する。		<ul style="list-style-type: none"> 各グループの測定方法をチェックし安全な方法で測定させる。
3	グループで測定する。		<ul style="list-style-type: none"> 工夫して測定させ、できない場合はヒントを与える。
4	記録をまとめて話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな方法について、感想を話し合わせる。 解答を用意しておく。 生活の中で簡単に測れる方法を知らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 高いところに登ったりするときに、怪我をしないように安全指導を徹底する。 		

8	薬になる草		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。 		
時間	2時間～半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1	薬草についての話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> サンプルを示して理解させる。 採集はサンプルだけにし、根は残させる。 グループで図鑑や資料を参考にして薬草を探させる。 必ず植物を点検する。
2	薬草発見大会をする。		
薬になる木や薬の例 ・虫さされ ウワバミソウ カタバミ ・切り傷 オトギリソウ ミゾソバ ・おでき アケビ オオバコ フラビ ヤブコウジ サルトリイバラ ・うるしかぶれ クリ カワラヨモギ ・神経痛 シシウド ・止血 ヨモギ ・やけど クリ		<ul style="list-style-type: none"> 健康増進 コシアブラ クズ ヤマノイモ アキグミ トキワイカリソウ 胃腸病 ホオノキ サンショ ヨモギ ゲンノショウコ オオヨモギ ホウレン 高血圧 クロバナノヒキオコシ ヤマグワ トチノキ ドクダミ ゲンノショウコ マタタビ オオヨモギ ヨモギ かぜ アキノキリンソウ フキ オオバコ 頭痛 ウド アキノキリンソウ 	
3	薬草の匂い、味など確かめてまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 事前にドクダミ茶などを用意しておき、飲ませる。(ドクダミ、スギナ等たくさんあるものについては、乾燥させて持ち帰り、学校で飲むのもよい。)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。 毒のあるものを事前に指導する。 湿地や川に入る場合は、長靴を使用させる。 味を確かめる前に、採集してきた植物を必ず点検する。 		

I 自然とのふれあい

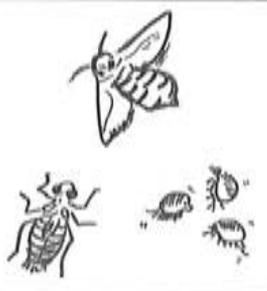
A 自然に学ぶ

9	健康ドリンク (薬草茶)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。 植物の利用法を知る。 		
時間	2時間～ 半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 薬草採集についての注意を聞く。 知っている薬草を紹介しあう。 薬草を採集する。  <ol style="list-style-type: none"> 採ってきた薬草を洗って干す。 以前から干してあるのを煎じて飲む。 			<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 サンプルを用意し、参考にさせる。 安全なものを探集させる。 必要な量だけ採るようにさせる。 根ごと抜かないで、葉を摘むようにさせる。 畑や田の畦を荒らさないようにさせる。あらかじめ許可を得ておく。 <ul style="list-style-type: none"> よく洗って、葉が重ならないように新聞紙に広げ、日陰で干し、カラカラになるまで乾燥させる。 ビニール袋に入れたままにしておくとう効力がなくなるので、すぐ乾燥させる。 <p>* 煎じ方 やかんの中に水を入れ、中火で煮る。沸騰したら弱火にして、量が半分になるまで煮詰める。茶こしでこして飲む。</p>
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。湿地や川に入る時は、長靴をはかせる。 毒のあるものを事前に指導する。 採集してきた植物を必ず点検する。 		

10	写生 (植物)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の特徴を自分の表現方法で表し、植物をくわしく観察する力を育てるとともに、自然を大切にすることを育てる。 		
時間	2時間～ 半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 描きたい植物を決める。 描く植物をよく観察する。 その植物の特徴に留意して、細かく描く。  <ol style="list-style-type: none"> 台紙に貼る。 作品鑑賞会をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 敷地が広いので、範囲を指定する。 雨の場合は、描きたい植物を採集させ、室内等で描かせる。 細かいところまでじっくり観察させる。 上手に描かせるのではなく、丁寧に細かく描かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 植物図鑑で名前を調べさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 虫刺され等を予防する服装にさせる。 かぶれる草木 (ウルシ、ハゼ等) に注意させる。 		

I 自然とのふれあい

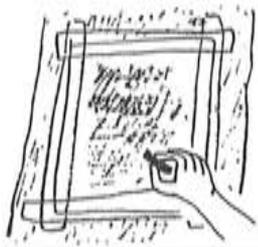
A 自然に学ぶ

11	光に集まる虫		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 虫の種類や習性について調べる。 たくさんの虫が生きていける環境の大切さに気づき、自然環境についての関心を高める。 		
時 間	1時間～ 2時間	準備物	昆虫図鑑 ルーペ 捕虫網 夜間昆虫採集用具 救急バッグ 懐中電 燈 筆記用具 軍手 単一乾電池
活 動 内 容		留 意 事 項	
<ol style="list-style-type: none"> 夜の昆虫について話を聞く。 誘蛾灯をつけ、虫の集まる様子を観察する。 集まった虫を採集し、図鑑で調べる。 * 主な蛾 マツカレハ スカシカギバ オピカギバ セスジナミシャク コカクモンハマキ キンモンガ マドガ ウスグロスジツトガ ヤマトエダシャク ウスオエダシャク フタヤマエダシャク エグリツマエダシャク タケカレハ ツマジロシャチホコ オオエグリシャチホコ ナシケンモン ホシボシャガ ハナオイアツバ スジベニコケガ オオミズアオ モモスズメ 感想を話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> 毒蛾に注意させる。 毒針毛が刺さったら、決してこすらせない。すぐに流水で洗いおとすか、セロハンテープを軽く当てて取る。 昼間森林や施設周辺を散策すると、たくさんの蛾を見ることができる。きれいな蛾や保護色をした蛾を昼間に観察させるとよい。 蛾と蝶の違いを考えさせる。 * 毒のある虫の種類 イラガ、カ、アブ、ブヨ ハチ、モンシロドクガ、チャドクガ キドクガ、カレハガ、ツツガムシ ダニ、ムカデ、ヤマビル 採集した虫は自然に返させる。 	
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 毒蛾に注意させる。 蚊など虫刺されの予防をさせる。 草むらや危険な場所に行かせない。 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 		

12	雨の中の生き物		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 降雨時、降雨後に活発に活動する生き物を観察する。 生き物を観察することによって、自然への興味や関心を高める。 		
時 間	2時間～ 半日	準備物	ルーペ 生物図鑑 バインダー 採集箱 長靴 傘 救急バッグ 筆 記用具 雨具
活 動 内 容		留 意 事 項	
<ol style="list-style-type: none"> グループで観察コースや観察場所を話し合って決定する。 決定した場所やコースに従って生き物を探し、観察する。  <p>雨を避けているチョウ</p> <p>雨にぬれたくもの巣</p> 観察したことをまとめ、発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> 観察路や山道が滑りやすくなるので安全指導を徹底する。 生き物はむやみに捕らない、殺さない指導を徹底する。持ち帰って観察した後、弱らないうちに自然に返させる。 雨を避けてじっとしている生き物も見つけさせる。 	
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道がすべりやすくなっているので、注意させる。 ぬれるので、体調の悪い児童は無理をさせない。 ぬれて冷えた場合は入浴をさせる。(事前に施設と相談する。) 		

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

13	木はだしらべ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木の種類や成長段階によって、木はだにも違いがあることに気づき、木に対する親しみや成長への関心を持つ。 自然環境について関心を高める。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	木はだしらべの方法の説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> かぶれる木の指導をする。
2	グループごとに木はだの型どりやこすり出しをする。		<ul style="list-style-type: none"> 型のとりかたやこすり出しの方法を指導する。
3	型どりやこすり出しをした木の名前を調べる。		<ul style="list-style-type: none"> 同じ種類の木でも、成長の違うものを調べさせる。 五感を使って観察させる。
4	木はだの型やこすり出しを他のグループと交換し、もとの木を見つけるゲームをする。		<ul style="list-style-type: none"> * 型のとり方 
5	木の特徴について気づいたことを発表する。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を指導する。 		

14	自然すごろくづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の植物、鳥、虫、地形等を観察し、すごろくづくりの活動を通じて、身近な環境に対する認識を深める。 ゲームを楽しみ、友だちとのふれあいを深める。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	すごろくの作り方の説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 自然観察をしたものを十分生かしたすごろくにさせる。
2	グループでコースを観察し記録する。		<ul style="list-style-type: none"> いろいろなものを細かく観察させる。
3	グループで協力して、すごろくを作る。 (例)		<ul style="list-style-type: none"> 近道や休み等をうまく組み合わせ、楽しいすごろくにさせる。 グループの人数によって、紙の大きさを考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ここにはムカデがいるから1回休みにしよう。 この坂はきついから、2つ進めにしよう。 		
4	グループですごろくをして楽しむ。		<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの観察のよさや工夫のよさを見つけさせる。
5	すごろくを交換して、ゲームを楽しむ。		
6	学校に持ち帰り、低学年にもゲームを楽しんでもらう。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれや虫刺され防止の指導をする。 雨降りの時や雨降りの後は、長靴をはかせる。 		

B 自然から創る



I 自然とのふれあい

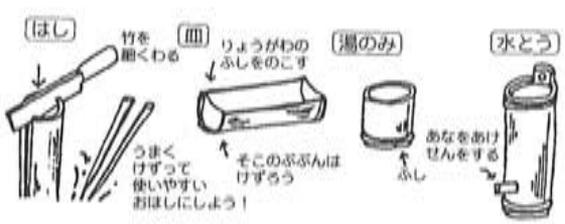
B 自然から創る

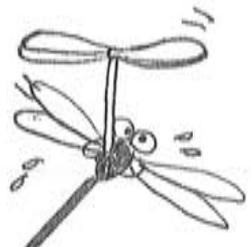
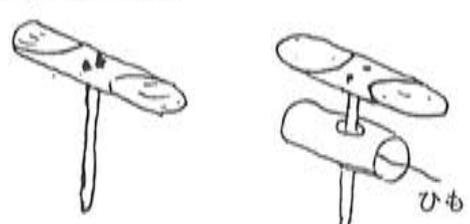
1	丸太小屋づくり			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 問伐材を利用して小屋を作って宿泊し、暗闇の自然を体験する。 協力してつくる楽しさを味わわせるとともに、ものをつくる喜びを体験する。 			
時間	1日	準備物	問伐材 シート ロープ ランタン 脚立 寝袋 段ボール箱 のこぎり はさみ カッターナイフ 救急バッグ 懐中電燈 荒縄 ガム テープ ビニールひも 竹 軍手 ビニールシート 単一乾電池	
活動内容		留意事項		
1	小屋の作り方の説明を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方等安全指導を徹底する。 縄の結び方を指導する。 自然のものを利用させる。(伐採は施設職員と相談する。) 小屋の囲いは、すすき、雑木の枝、シート、段ボール箱等を利用させる。 自然の中で十分遊ばせたり、探検させたりする。 季節によっては寒いので、防寒の指導をする。 急に荒天になる場合もあるので、すぐ対応できる体制をとっておく。
2	材料を運び小屋を作る。			
3	他のグループの小屋を見学する。			
4	小屋を基地として遊ぶ。			
5	小屋に宿泊をする。			
6	後かたづけをする。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の安全な使い方を指導する。 長袖、長ズボンで活動させる。 児童の体調を把握して宿泊させる。 			

2	焼き板			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手作りの楽しさや木目の美しさを知り、創作の喜びを味わう。 			
時間	2時間～半日	準備物	火箸 パケツ 電動系のこ 彫刻刀 ワイヤブラシ きり のこぎり ガスパナー ベンテックス かざりひも たわし ねじくぎ 杉板 ガスボンベ まき 軍手 雑巾(タオル)	
活動内容		留意事項		
1	焼き板の作り方の説明を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 電動系のこ、彫刻刀、ガスパナー等の使い方を指導する。 杉板の他、丸太等を焼いて磨くことも考えられる。 時間が十分とれない場合は、事前に形をきっておくか、そのままの形で焼かせる。 焼き具合を指導する。 木を燃やしてその火で焼く場合とガスパナーで焼く場合があるが、どちらにするかを決めておく。 火傷に注意させる。 完全に火が消えてからこすらせる。 ワイヤブラシ、たわし、雑巾等でしっかり磨かせる。木目に沿って磨かせる。 ぬりすぎると杉の美しい木目が死んでしまうので、ぬりすぎないように指導する。
2	杉板を好みの形に切る。			
3	杉板を焼く。			
4	杉板を磨く。			
5	ベンテックス等で字や絵をかく。			
6	壁掛けの場合は、飾りひもをつける。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 電動系のこを使用する場合は、指導者が必ずつく。 火傷をしないように火箸を必ず使用させる。 ガスパナーの正しい使い方を指導する。 			

I 自然とのふれあい

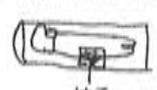
B 自然から創る

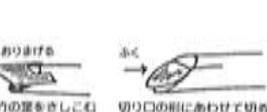
3	竹の食器づくり			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 竹の特徴を知り、生活に生かすとともに、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 			
時間	半日	準備物	竹引きのこぎり 竹割りなたきり 金づち 小刀 やすり ものさし 紙やすり 竹 軍手	
活動内容		留意事項		
<ol style="list-style-type: none"> 1 何を作るか決める。 はし おわん さら コップ スプーン フォーク等 2 作り方の説明を聞く。 3 竹を作るものの大きさに切る。 4 形を整えるために割ったり、削ったりする。 5 磨きをかける。 6 作った食器を使って食事をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 見本を用意する。 作り方を書いたプリントを用意し、参考にさせる。 のこぎりの正しい使い方を指導する。 刃物の安全な使い方を指導する。 児童の実態によって、切ったり割ったりできないときは、事前に切ったり割ったりしておく。 刃物をいためないように台の上で作業させる。 切り口や割ったところをやすりでなめらかにさせる。 一度使ったら捨てるのではなく、自然学校期間中使用するとか、家に持ち帰って使用するとか考えさせる。 		
		<p>安全指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 刃物の安全な使い方を指導する。 竹を切るときは、2人組か3人組で作業させる。 軍手をつけるとすべりやすいので気をつけさせる。 		

4	竹とんぼづくり			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 とんぼの羽の削り方を工夫することにより飛び方に違いができることに気づく。 			
時間	2時間～半日	準備物	竹引きのこぎり 竹割りなたきり 小刀 ものさし 竹 木工用接着剤 軍手	
活動内容		留意事項		
<ol style="list-style-type: none"> 1 竹を設計図の大きさに切ったり割ったりする。 2 竹を削って、はねや心棒を作る。 <p>* 竹とんぼの種類</p>  <ol style="list-style-type: none"> 3 竹とんぼを飛ばす。 4 悪いところを直す。 5 飛ばす競争をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方の指導をする。 はねの削る方向を間違えないように指導する。 飛ばし方をよく指導する。 広い場所で飛ばさせ、人に当たらないように注意させる。 うまく飛ばない原因を考えさせ、修正させる。 		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方の指導をする。 飛ばすとき、人に当たらないように飛ばし方の指導をよくしておく。 		

I 自然とのふれあい

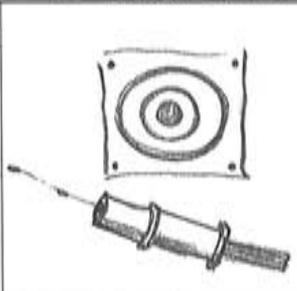
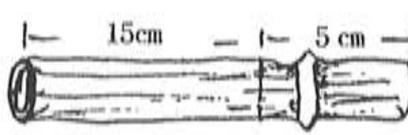
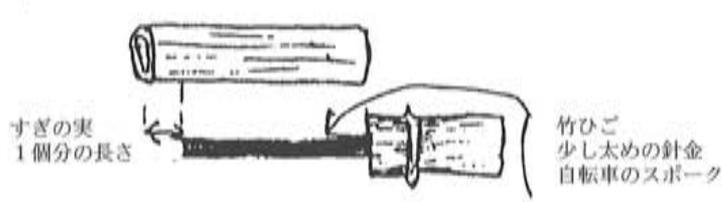
B 自然から創る

5	名札づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木の形や美しさを考えて制作することにより、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 個性豊かな名札を作り、その出来栄を認め合う。 		
時間	半日	準備物 のこぎり ニスのはけ 小刀 ニス入れの皿 彫刻刀 長靴 はけ洗い用の缶 安全ピン 木工用接着剤 ニス 軍手 マジック	
活動内容		留意事項	
1 小枝をとってくる。 2 取ってきた枝を4～5cm位の長さに切る。 3 半分に縦割りする。 4 表皮のついている部分を両端を残して削り取る。 5 名前を書く。または、彫る。 		<ul style="list-style-type: none"> 直径2～3cmぐらいの小枝を切りとらせる。 のこぎりの使い方を指導する。 必要な分だけ枝を取るよう指導する。 かぶれる木に注意させる。 	
6 安全ピン止めを作り、安全ピンを取りつける。 		<ul style="list-style-type: none"> 小刀の使い方を指導する。 彫刻刀を使う場合は、使い方を指導する。 	
7 ニスを塗る。 			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 削るものが小さいので、小刀や彫刻刀の使い方の指導を徹底する。 木を取りに行くときは、軍手、長靴を使用させる。 		

6	竹笛・草笛づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然のものを使って作るにより、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物 竹引きのこぎり きり 竹割りなた 小刀 糸のこ 竹 紙やすり 軍手	
活動内容		留意事項	
1 竹を適当な大きさに切る。 2 吹き口を斜めに切り、割れ目をいれる。 3 割れ目に竹の葉やハランをはさむ。  		<ul style="list-style-type: none"> のこぎりやなたの使い方を指導する。 切る角度、割れ目など各自工夫させる。 小刀の使い方を指導する。 紙やすりで磨かせる。 大きさを考えさせる。 	
 		  	
4 音を出してみる。		<ul style="list-style-type: none"> どの子も確実に音が出るようにし、出ない子には個別指導をする。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 吹き口を斜めに切るので小刀をよく磨いておく。 棘がささらないように気をつけさせる。 		

I 自然とのふれあい

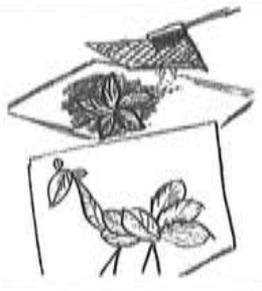
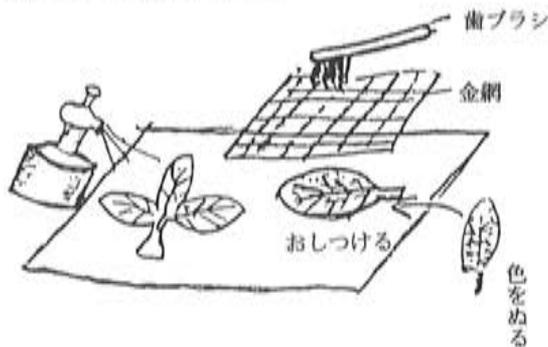
B 自然から創る

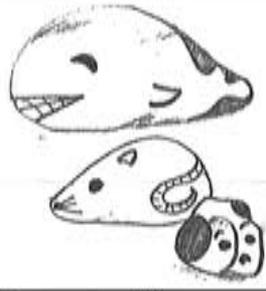
7	杉・紙玉鉄砲づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の材料を活用した手作りの工作の楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 杉の実を集める。 筒と心棒を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> 杉の実がない場合は、紙でも良い。 のこぎりや小刀の使い方を指導する。 筒と心棒の長さの調整が大切なことに気づかせる。 	
		 <p>すぎの実 1個分の長さ</p> <p>竹ひご 少し太めの針金 自転車のスポーク</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 杉の実をつめて飛ばす。 楽しく遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> 飛ばない原因を見つけて修理させる。 紙玉の場合は、水にぬらしてしぼってから使わせる。 飛ばしあいや的当てをさせる。 人に向けて撃たないように気をつけさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 飛ばすときには、絶対人の方に向けて撃たないように気をつけさせる。 刃物の安全な使い方を指導する。 		

8	葉脈しおり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 葉のつくりを知るとともに創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 葉脈のしっかり出る葉を採集する。 水酸化ナトリウム水溶液（水1ℓ・水酸化ナトリウム50g）に葉を入れ、アルコールランプで煮、色が変わってからピンセットで引き上げ、水洗いする。 歯ブラシで念入りにたたく。 葉脈だけになったら、ティッシュなどではさみ、重石を乗せて乾かす。 		<ul style="list-style-type: none"> ヒイラギ、ツバキなどを採集させる。 アルコールランプの使い方をきちんと指導する。 水酸化ナトリウム水溶液がつかないように気をつけさせる。 葉が乾かないように何回もアルコールをつけ、新聞紙の上で場所を変えながらたたかせる。 ラッカーなどで好みの色分けをするのも良い。 安全ピンをつけてブローチにもできる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 水酸化ナトリウム水溶液がかかった場合は、すぐに水洗いをさせる。 アルコールランプの使い方に気をつけさせる。 かぶれる木に注意させる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

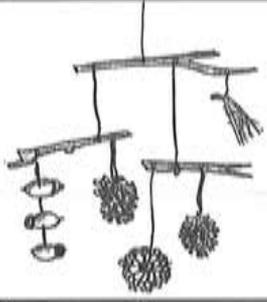
9	葉っぱの押し絵										
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを考えて葉を集め、葉の形を写したり、形を取ったり、張りつけたりして作品を作ることにより、創作の喜びを味わったり、自然への興味や関心を高める。 										
時間	半日	準備物	長靴	金網	霧吹き	画用紙	絵の具	歯ブラシ	古新聞紙	ビニー	
活動内容						留意事項					
<ol style="list-style-type: none"> 自分のテーマをしっかりと考える。 テーマに沿った葉を採集してくる。 作品を作る。 <p>* 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉に色を塗り、画用紙に押しつける。 葉を置き、その上から細かい網を使って絵の具をつけた歯ブラシでこすり形をうつす。 紅葉の季節には、いろいろな色の葉を張りつける。 						<ul style="list-style-type: none"> 作品例を見せて考えさせても良い。 かぶれる木に気をつけさせる。 必要な分だけ採らせる。  <p>歯ブラシ 金網 おしつける 色をぬる</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 乾かしてから、作品鑑賞会をする。 						<ul style="list-style-type: none"> お互いに友だちの良いところを認め合わせるようにさせる。 					
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の点検をしっかりとしておく。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）に気をつけさせる。 									

10	石の文鎮										
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物（石）に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作への喜びを味わい、思い出の作品を作る。 										
時間	半日	準備物	ニスのはけ	ニス入れの皿	はけ洗い用の缶	画板	長靴	ニス	絵		
活動内容						留意事項					
<ol style="list-style-type: none"> 川原で石拾いをする。 石をきれいに洗って乾かす。 色を塗ったり、絵や字をかいたりする。 乾いたらニスを塗る。 						<ul style="list-style-type: none"> 水の量や深みなど川における安全に気をつけさせる。 作りたい文鎮のイメージを描きながら石を探させる。 イメージにあわせて色つけをさせる。 自然学校の思い出になるよう楽しい作品を作らせる。 お互いの良いところを認め合うようにさせる。 					
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 川原での危険を知らせる。 									

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

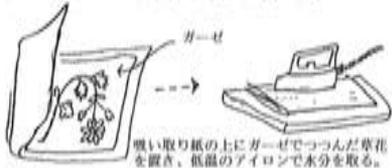
11	松かさブローチ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> どのようなブローチを作るかを考える。 松かさを集める。 松かさを切ったり、削ったりする。 松かさに模様を描き、色塗りをする。 ニスを塗る。 安全ピンをつける。 ブローチをつけファッションショーをする。 			<ul style="list-style-type: none"> 採集場所を指定し、安全指導をする。 松かさの特徴を生かした作品を作らせる。 カッターナイフの使い方を指導しておく。 服に合わせて色を考えさせる。 友だちの作品の良いところを認め合わせせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をする。 刃物の安全な使い方を指導する。 		

12	モビール		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> どんなモビールにするか考える。 つるす材料を採集する。 採集してきた材料を好きな大きさや形にする。 糸につるす。 全部をつなぐ。 作品発表会をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 作品例を見せて考えさせる。 採集場所の安全確認をさせる。 グループごとに採集に行かせる。 小刀の使い方に気をつけさせる。 採集してきたものの特徴を生かすようにさせる。 バランスを考えながら取りつけさせる。 バランスを考えながらつなげる。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をする。 小刀の使い方を指導する。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）に気をつけさせる。 		

I 自然とのふれあい

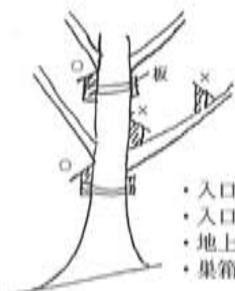
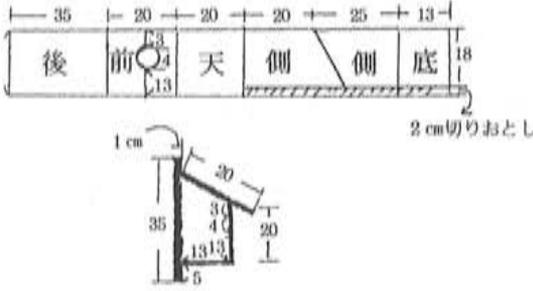
B 自然から創る

13	はにわづくり			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 粘土細工を通して、創作の喜びを味わい、古代の人々の暮らしへの興味や関心を高める。 			
時 間	半日	準備物	焼き窯 簡易ろくろ へらセット 粘土板 はにわ模型 粘土 灯油 新聞紙 タオル	
活 動 内 容		留 意 事 項		
1 何を作るか決める。		<ul style="list-style-type: none"> はにわ模型を参考にしながら、個性豊かな作品を考えさせる。 		
2 粘土をしっかり練って形を作る。		<ul style="list-style-type: none"> 粘土をしっかり練り、中の空気を出させる。 飾りをつける場合は、接着面を工夫させる。 		
3 陰干しをする。		<ul style="list-style-type: none"> 名前をはっきり書かせる。 		
4 素焼きをする。		<ul style="list-style-type: none"> 完全に乾燥させてから焼く。 (施設で対応) 		
5 作品展をする。		<ul style="list-style-type: none"> 友だちの作品の良いところを認め合わせる。 		
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 火傷に注意させる。 			

14	押し花づくり			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 植物のつくりや特徴を学習する。 植物の美しさに気づかせ、植物に対する興味や関心を高める。 自然愛護の精神を育てる。 			
時 間	1日	準備物	剪定ばさみ 植物採集箱 植物図鑑 バインダー アイロン パウチ ラミネーター 長靴 救急バッグ パウチフィルム 台紙 吸い取り 紙 ガーゼ ピニール袋	
活 動 内 容		留 意 事 項		
1 植物採集の計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> 施設内の植物の配置図の説明を聞きながら、グループで採集したいものを考えさせる。 		
2 採集用具を準備して、施設周辺に観察に出る。		<ul style="list-style-type: none"> かぶれる木に気をつけさせる。 		
3 自分の気に入った草花を最小限採集する。		<ul style="list-style-type: none"> 根は残して必要な分だけを採集させる。 採ってはいけないものを確認させる。 		
4 スケッチや記録をとる。		<ul style="list-style-type: none"> 図鑑で名前を調べさせる。 		
5 インスタント押し花を作る。		<ul style="list-style-type: none"> アイロンの使い方を指導する。 吸い取り紙の上にガーゼを置き、花びらや葉が折れないように丁寧に並べて包み、アイロンで押さえさせる。 		
 <p>吸い取り紙の上にガーゼでつつんだ草花を置き、低温のアイロンで水分を取る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 押し花を台紙にはり作品を作らせる。 サランラップで包んだり、パウチラミネーターで仕上げさせる。 		
6 自分の好きな作品に仕上げる。		<ul style="list-style-type: none"> 友だちの作品の良いところを認め合わせる。 		
7 発表会をする。				
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> アイロンの使い方の指導をする。 採集時は、長靴や軍手を使用させる。 			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

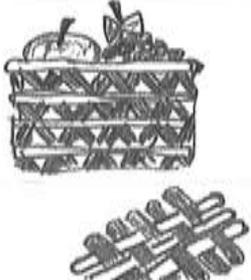
15	小鳥の家づくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 生活工具の操作技術を習得する。 創作の喜びを味わう。 動物愛護の心を育てる。 		
時 間	1日	準備物 のこぎり 糸のこ かなづち きり 電動のこぎり 曲尺 脚立 かんな ベンチ 設計図 くぎ 板 しゅろ縄 針金 筆記用具	
活動内容			留意事項
1 作りたい巣箱を選ぶ。 2 板に印をつけ、切る。 3 釘を打ち、組み立てる。 4 巣箱かけをする。			<ul style="list-style-type: none"> 何種類かの巣箱を提示し、その中から選ばせる。 のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。 友だちと協力しながら作らせる。 巣箱をかける場所の打ち合わせを施設職員としておく。
 <ul style="list-style-type: none"> 入口をやや下向きにする。 入口を山の斜面の下方に向ける。 地上から2～5 mの高さにつける。 巣箱と巣箱は、50cm以上はなすこと。 			 <ul style="list-style-type: none"> 木の成長のために、しゅろ縄で固定させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 板を切るときは、友だちに押さえてもらいながら切らせる。 のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。 巣箱をかけるとき、脚立をしっかりと支えさせる。 		

16	はがきづくり (牛乳パック)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 資源の再利用に関心を持つ。 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時 間	半日	準備物 紙すき器 アイロン アイロン台 ミキサー のり 牛乳パック 古いタオル 日本手ぬぐい	
活動内容			留意事項
1 牛乳パックのナイロンをはがす。 2 ミキサーに水とちぎった牛乳パックを入れ、洗濯のりを少々加えどろどろになるまでかきまぜる。 3 広い入れ物に水を入れ、紙すき枠を浮かべ、その中へミキサー内の液を入れる。 4 紙すき枠をまっすぐに持ち上げ水を切る。 5 日本手ぬぐいではさんでアイロンをあて、表面のでこぼこを平らにする。			<ul style="list-style-type: none"> 2～3日前から牛乳パックを石鹼水につけておく。 ミキサーの取り扱いに注意させる。 紙のかたまりがなくなり、のり状になるまで溶かさせる。 一夜おいておく方が良い。 浮かべたままゆすり、表面を平らにする。模様を入れる場合は、1回目は薄くすき、草花を入れて、もう一度薄くすく。 直接アイロンをかけさせない。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ミキサーやアイロンの使い方に注意させる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

17	草や木の葉で紙を作ろう		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 紙づくりを通して、植物の特徴を理解させる。 いろいろな材料で作ることを通して、探求心を育てるとともに、生活の中の植物利用について認識する。 		
時 間	1日	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 作り方の説明を聞く。 材料を準備する。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 木の葉—ツバキ イチョウ マツ クワ 等 草—スギナ ヨモギ フキ 等 野菜—ネギ シソ ダイコン 等 紙を作る。 <ol style="list-style-type: none"> ①材料を鍋に入れやすい大きさに切る。 ②NaOH10%液で煮る。 ③ガーゼの袋に入れてよく水洗いする。 ④すり鉢に入れてする。 ⑤すりつぶした材料を水に溶かし、紙すきわくですく。 ⑥パネルの上に広げ、自然乾燥させる。 ⑦上下を布ではさみ、アイロンで押さえる。 ⑧アイロン仕上げをする。 作った紙の特徴を調べ、一覧表にまとめる。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 色、手ざわり 紙の強さ(引き、曲げ) 筆記具による書き具合 吸水性 繊維の様子 結果を発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> 材料を水洗いし、粘れている部分は捨てさせる。 材料が液につかるよう、落としぶたをさせる。 材料がどろどろになるまで十分にすらせる。 ガーゼなどで押さえて水分を取らせる。 水溶液やアイロンの扱いについて気をつけさせる。 ノートの紙を基準に比べさせる。 短冊を作り、ばねばかりで引っ張りの強さを調べさせる。 鉛筆、フェルトペン、絵の具などで書き具合を調べさせる。 10秒間でどれだけ水を吸い上げるか、定規で測らせる。 繊維の様子を顕微鏡で観察させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木(ウルシ、ハゼ等)に注意させる。 火傷に気をつけさせる。 水酸化ナトリウム水溶液がかかった場合は、すぐ水洗いさせる。 		

18	紙細工		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな紙を使い、生活に役立つものを作る。 紙と生活とのつながりを考える。 (資源保護) 		
時 間	半日	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 作るものを決める。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 飛行機 ・なべしき 風車 ・こま かご 等 工夫しながら作る。 出来上がった作品の展覧会をする。 生活の中での紙について話し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> いろいろな作品を見ながら、作りたいものを決めさせる。 カッターナイフ、はさみの安全な使い方を指導する。 早くできた者は次の作品を作らせる。 友だちの作品の良さをみつけさせる。 資源保護について考えさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方について指導する。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

19	看板・標識づくり				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 看板（標識）を作り、設置することにより後輩のために奉仕する。 手作りの工夫をさせることにより、創作の楽しさや出来上がった喜びを味わう。 				
時間	1日	準備物 のこぎり ペンチ 曲尺 かなづち のみ かけや 釘抜き スコップ 糸のこ 電動ドリル ペンキ用はけ ニス用はけ ニス用皿 火 箸 ペンキ用はけ洗い缶 バケツ ワイヤブラシ ガスパナー くぎ 水性ペンキ ニス 板 くい ガスボンベ 軍手			
活動内容			留意事項		
1 どのような看板（標識）を作るのか話し合う。 2 板や角材を切る。 3 焼き板にしたり、ペンキで字や絵をかいいたり、色を塗ったりする。 4 作品を発表し合う。 5 看板を設置する。			<ul style="list-style-type: none"> 生活のためのもの、安全のためのものなど考えさせる。 グループごとに割当てをする。 のこぎり、のみ、糸のこなどの用具を正しく使わせる。 目的に合わせて、デザインさせる。 良いところを認め合わせる。 		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 用具の使い方をしっかり指導する。 軍手を使用させる。 ガスパナーの正しい使い方を指導する。 			



20	わら細工				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> わらについての話を聞き、昔はわらが生活にどれほど重要な役割を果たしていたかを学ぶ。 手作りの作品を作ることにより、創作の楽しさと喜びを味わう。 				
時間	半日	準備物 木づち（わら打ち用） わら打ち台 ひもとおし（竹で作ったもの） 剪定ばさみ シート わら			
活動内容			留意事項		
1 わらについて話を聞く。 2 わら細工の作り方の説明を聞く。 3 わら細工をする。 (例) ・ぞうり ・なわない ・しめかざり ・わらうま ・ほうき 等 4 感想を発表したり、作品を鑑賞したりする。			<ul style="list-style-type: none"> わらが、昔の生活にどれくらい重要な役割を果たしていたかを学ばせる。 水を少しかけながらわらを打たせる。 うちすぎないようにさせる。 個人指導をする。 指導者はなるべく多くする。 わらについて思ったこと、わら細工をして楽しかったところ、苦勞したところなどを発表させる。 友だちの作品の良いところを認め合わせる。 		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> わら打ちの時、木づちの使い方を指導する。 			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

21	凧づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 凧づくりを通して、製作の喜びを味わうとともに、創造性を養う。 		
時間	1日	準備物	
活動内容		留意事項	
1	作りたい凧を選択させる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの見本の中から選ばせる。 ・ 材料、作る順序を確認させる。
2	竹を削って竹ひごを組み立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹の削り方を指導する。 ・ 削った後、紙やすりでよく磨かせる。
3	絵を描く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 凧の大きさいっばいに絵を描かせる。
4	紙を貼る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 霧を吹き、紙をのばさせる。
5	糸や足をつける。		<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスをうまく調節させる。
6	凧上げ大会をする。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹の棘が刺さらないように紙やすりでよく磨かせる。 ・ カッターナイフ等の正しい使い方を指導する。 		

22	班旗づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで協力して班旗を作ることを通して、人間関係を深め、自然学校に対する意欲を高める。 ・ 草木で染めた色の美しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1	班旗のデザインを考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の班にない独特のものを考えさせる。 ・ 下の表を参考にして採集させる。 ・ かぶれる木に気をつけさせる。 ・ 1時間程度煮る。 ・ 媒染液を作る。(カリミョウバンは10~15%、硫酸第一鉄は5~10%) ・ 火傷をしないように気をつけさせる。 ・ 班旗はよく水洗いをしてのりを取り去っておく。 ・ 輪ゴムか糸で縛っておいてもよい。 ・ 衣服に煮じるや媒染液がかからないように気をつけさせる。 ・ 煮じるや媒染液を入れるボールは金属性のものを使わない。 ・ 火傷をしないように注意させる。
2	野草の採集をしてくる。		
3	野草をなべでよく煮る。		
4	煮じるをざるでこしてボールにとる。		
5	班旗を煮じるにむらがないように10分程漬ける。		
6	班旗をしぼってから、媒染液に5分程漬ける。		
7	水でよく洗ってから乾燥する。		
8	仕上げはアイロンでよくしわをのばし、マジック等で書き込む。		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 野草の採集の時は、長靴、軍手を使用させる。 ・ 媒染液がかからないように気をつけさせる。 ・ 煮じるがかからないように気をつけさせる。 	

植 物	媒 染 液		植 物	媒 染 液	
	カリミョウバン	硫酸第一鉄		カリミョウバン	硫酸第一鉄
マツヨイグサ	山吹色	紫灰色	アメリカセンダングサ	—	オリーブ色
カナムグラ	黄緑色	—	ドクダミ	—	濃いオリーブ色
ヨモギ	—	緑灰色	ノギク	—	濃い緑色
クズ	淡黄色	—	スズキ	黄色	緑灰色

23	木の枝細工		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の木をそのまま使用して創作する中で、自然にふれあい、いろいろな植物の特徴に気づく。 作品を作る楽しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> どのような物を作るのか話し合う。 材料を集める。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 細い枝……………昆虫の足 木の葉や皮……………昆虫の羽 細い丸太……………胴体 材料を切って接着して、作品をつくる。 作品展をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 動物や虫、動きのある人等を工夫して作らせる。 一つの場面を想定して、箱庭のようにさせても良い。 野山に入り必要となる材料を集めさせる。 木を切る場所は事前に相談しておく。 木の肌を見ながら出来上がりを予想させ、材料を選ばせる。 太い枝はのこぎりで、細い枝はペンチで切らせる。 ドリルで穴を開け、差し込ませても良い。 接着剤をつけすぎないように指導する。 必要な所はやすりで削っても良い。 形ができれば目等を書き込んでも良い。 作品の良いところを見つけさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 丸太をしっかり固定させて切らせる。 ふざけたりしないように安全指導を徹底する。 		

24	ミニトーチ棒づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校ファイヤーをより感動的で思い出に残るものとするための準備をする。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 材料を準備する。 材料を切ったり割ったりする。 松の割り木を棒に固定する。 		<ul style="list-style-type: none"> 松の根が腐り、油分の多いところが残ったものを用意する。 木の枝は30cmぐらいに切り、松の根は15cmぐらいに切ってから、細かく割らせる。 細い松の割り木が抜けないように、針金でしっかり巻かせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の安全な使い方を指導する。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

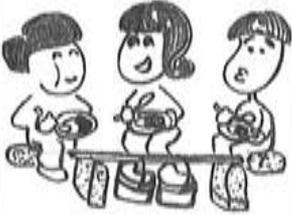
25	竹の水筒づくり								
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 竹の性質を知るとともに、作ることの楽しさや作った物を活用する喜びを味わう。 								
時間	半日	準備物	竹引きのこぎり	小刀	電動ドリル		手動ドリル	きり	竹
活動内容			留意事項						
<ol style="list-style-type: none"> 竹を切る。 水を入れる穴をあける。 栓を作る。 ひもをつける。 ハイキングや登山で使用する。 			<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を指導する。 友だちと協力しながら切らせる。 ドリルの正しい使い方を指導する。 手動ドリルの時は、友だちと協力して穴をあけさせる。 中を洗わせる。 小刀の使い方を指導する。 肩にかけてみて、長さを調整させる。 腰にぶらさげるようにしても良い。 						
									
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりやドリルで竹を切るときは、怪我をしないよう指導を徹底する。 								

26	木のプランター															
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 共同でものを作ることを通して、協力する心を育てたり、創作への喜びを味わう。 花を植えて環境整備をはかり、自然愛護の精神や奉仕の精神を育てる。 															
時間	半日	準備物	のこぎり	彫刻刀	かなづち		かな	曲尺	電動ドリル	ペンキ用はけ	はけ洗い用缶	ベンチ	板	丸太	釘	針金
活動内容			留意事項													
<ol style="list-style-type: none"> 設計図を作る。 設計図にそって、板に印をつける。 板を切る。 釘を打ち、組み立てる。 底に穴をあける。 絵を描いたり削ったりする。 土を入れ、花を植えたり種を蒔いたり球根を植えたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> グループごとにいろいろな材料や楽しい形を考えさせる。 のこぎりやかなの使い方を指導する。 かなづちの使い方を指導しておく。 学校に帰ってからの仕事にしても良い。 施設内に設置する場合は、施設職員と設置場所などをよく相談しておく。 													
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりや板を切るときは、友だちと協力して切らせる。 かなや彫刻刀の使い方の指導をする。 															

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

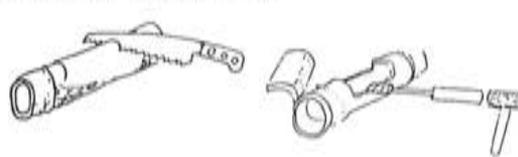
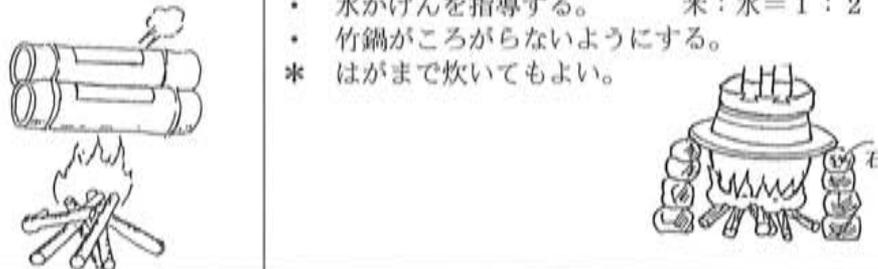
27	火おこし		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人々の火おこしの苦勞を体験し、火がどれほど重要なものであるかを理解する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 火おこし器の使い方を学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・まいぎり式 ・きりもみ式 ・弓ぎり式 ・紐ぎり式 火おこし器を使って火おこしに挑戦する。 違った種類の火おこしに挑戦する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで協力しながら挑戦させる。 ・ いろいろな種類の火おこし器で火をおこさせる。 * 火種を大きくする材料 ゼンマイわた モグサ キノコ 麻・木綿などの消し炭 * 火種を炎にする材料 チガヤ ススキ 麻の繊維 杉葉 ゼンマイわた スギの木の皮を手で もんでやわらかく繊維状にしたもの
<ol style="list-style-type: none"> 採火した火を使って、野外炊飯をする。 (採火した火で自然学校ファイヤーをする。) 			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火傷をしないように火の取り扱いに気をつけさせる。 		

28	野外炊飯		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外炊事に必要な技能を身につける。 ・ 限られた器具で創意・工夫を凝らして調理することを通して、家族への感謝の気持ちを養う。 		
い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と一緒に調理をし、食事をする事で食事の楽しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	野外炊飯用具 食事材料 まき 調味料 軍手 ふきん
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 野外炊飯の手順を聞く。 材料、用具をそろえる。 調理をする。 食卓の準備、配膳をする。 食事をする。 後かたづけをする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにコンテナかかごなどに整頓させる。 ・ 包丁の使い方や火の取り扱い方の指導をする。 ・ まきは、効率よく燃やさせる。 ・ 飯盒をさかさまにしたり、たたいたりさせない。 ・ 並べ方や盛りつけを工夫させる。 ・ 歓談をしながら楽しく食事をさせる。 ・ 使った道具はよく洗い、後の人が気持ちよく使用できるようにさせる。また、数を確認して返させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包丁の使い方、火の取り扱いに気をつけさせる。 ・ 材料をよく加熱させる。(食中毒予防) ・ 鍋や飯ごうを火からおろしたりするときは、軍手を使わせる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

29	山菜料理 (山菜採り)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然食品への関心を深め、食事内容を工夫する。 植物と食生活とのつながりを理解する。 		
時 間	半日	準備物 野外炊飯道具 てんぷら鍋 ガスコンロ さい箸 長靴 油 ガスボンベ てんぷら粉 油吸い取り紙 調味料 軍手 新聞紙 ビニール袋	
活動内容			留意事項
1	山菜や食べられる野草を知る。		<ul style="list-style-type: none"> 資料や実物を見せる。 いろいろな種類の山菜や野草を食べる量だけ採集させる。 あぜ道や田畑等での採集のマナーを知らせる。 調理の前に専門家の点検を受けさせる。 ガスがきちんとはまっているか点検しておく。 てんぷら油がかからないように注意させる。 てんぷら以外の調理の場合は、あく抜きをさせる。 * サラダ (ゆでること) つくしサラダ タンポポサラダ 使用後の油は石鹸づくりなどに利用できる。
2	採集する。		
3	点検を受ける。		
4	調理の仕方を学ぶ。		
5	グループで協力して調理する。		
6	楽しく食事をする。		
7	後かたづけをする。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 食べる前に、食べられる材料かどうか点検する。 採集時は、長靴、軍手を使用させる。 ガスの取り扱いに注意させる。 てんぷら油で火傷しないように注意させる。 		

30	おもしろごはん炊き		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具を使って調理することを体験する。 原始的な生活を味わうとともに、食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを養う。 		
時 間	半日	準備物 竹引きのこぎり なた のみ つち ざる ボウル 米 まき 竹軍手	
活動内容			留意事項
1	竹を切り、竹鍋を作る。		<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を指導する。 1本の青竹で平均2合炊く。 水かげんを指導する。 米：水＝1：2 竹鍋がころがらないようにする。 * はがまで炊いてもよい。
			
2	米をとぎ、竹鍋に米と水を入れる。		
3	竹でふたをして炊く。		
4	火からおろし、むらす。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 竹を切るときは、友だちと協力しながら切らせる。 火傷をしないように軍手をつけさせる。 		

I 自然とのふれあい

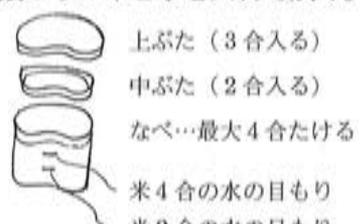
B 自然から創る

31	棒焼きパンづくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 機械を使わないパンの焼き方を体験する。 食べ物の大切さを理解する。 		
時 間	半日	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 棒を50cmぐらいの長さに切る。 パン生地を発酵させる。 パン生地を細長くする。 棒にアルミホイルを巻きつける。 パン生地を棒に巻きつける。 そのまま置いて、さらに発酵させる。 卵をといて、はけてぬる。 炭火でこんがりと焼く。 			<ul style="list-style-type: none"> のこぎりを使うときは、友達と協力しながら切らせる。 生地の中には空気を入れないようによくこねながらのばさせる。 棒の先端から、螺旋状に巻きつけさせる。 隙間を少し作りながら均一に巻きつけさせる。 最初に巻きつけた部分がはがれないようにさせる。 指に少し水をつけてつなぎ目が離れないように押さえさせる。 生地の最後は中にはさみこませる。 卵に味をつけておく。 遠火で20～30分ゆっくり、まんべんなく焼かせる。 火傷をしないように気をつけさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の使い方をよく指導する。 火傷をしないように注意させる。 		

32	もちつき		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> もちつき体験を通して、伝統文化・行事への関心を深める。 友だちとの連帯感を育てる。 地域の人々とのふれあいを深める。 		
時 間	半日	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> もちをつく準備をする。 もち米を蒸す。 もちをつく。 もちをまるめる。 感想を話しながら食べる。 			<ul style="list-style-type: none"> 前日にもち米をとぎ、水につけさせる。 もちつきの順序を理解させる。 役割分担をしっかりと行い、全員がどれも体験できるように交代しながら行わせる。 こづきをしっかりと行わせる。 片栗粉を適時まきながら、まるめさせる。 餅と伝統文化や行事との関係について話を聞かせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 蒸した米をうすに入れたり、餅をうすから板の上に乗せたりすることは指導者がする。 		

I 自然とのふれあい

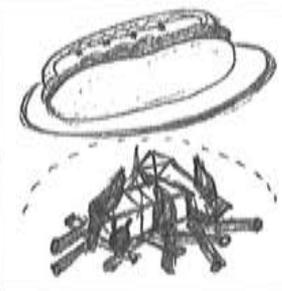
B 自然から創る

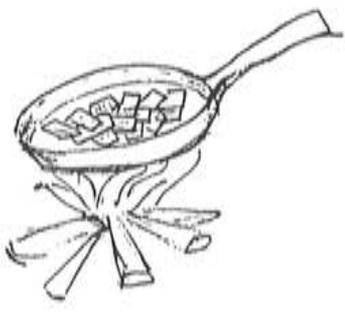
33	一人飯ごう										
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活に関心をもち、食事を作る喜びを味わう。 ・ 自分のことは自分でする自立心を育てる。 ・ 家族への感謝の気持ちを育てる。 										
時 間	1～2時間	準備物 飯ごう 米 まき 軍手									
活動内容			留意事項								
<p>1 ご飯の炊き方を知る。</p> <p>2 米を洗う。</p> <p>3 飯ごうに米と水を入れて炊く。</p>  <p>水加減</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>米の量</th> <th>水の量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4合</td> <td>飯ごうの上の日盛まで</td> </tr> <tr> <td>3合</td> <td>上と下の日盛の中間まで</td> </tr> <tr> <td>2合</td> <td>飯ごうの下の日盛まで</td> </tr> </tbody> </table>			米の量	水の量	4合	飯ごうの上の日盛まで	3合	上と下の日盛の中間まで	2合	飯ごうの下の日盛まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯ごうのご飯の炊き方を一人一人に定着させる。 ・ 1食分では少ないので、2食分（2合）ぐらい炊かせる。 ・ 副食は食堂で準備してもらう。 ・ 火の取り扱いに気をつけさせる。 ・ 飯ごうがふきこぼれた後、こげる前にふたを取って確かめさせる。 ・ 飯ごうをひっくり返したり、たたいたりさせない。
米の量	水の量										
4合	飯ごうの上の日盛まで										
3合	上と下の日盛の中間まで										
2合	飯ごうの下の日盛まで										
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯ごうを火からおろすときは、軍手を使わせる。 ・ 火の取り扱いに気をつけさせる。 										

34	アルミホイルの包み焼き		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な野外料理の技術を学ぶ。 ・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 		
時 間	半日	準備物 包丁 まな板 火箸 食器セット 食事材料 アルミホイル まき 調味料 軍手	
活動内容			留意事項
<p>1 作り方を話し合う。</p> <p>2 アルミホイルにサラダ油をぬりその上に材料をのせて包み、おき火に入れる。</p> <p>3 食事をする。</p> <p>4 後かたづけをする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚、じゃがいも、さつまいも、玉ねぎなどいろいろな材料を使った料理を考えさせる。 ・ 一人一人が確実に役割が果たせるように小グループに分けて実施させる。 ・ 肉類を入れる時は、よく火を通すように注意する。 ・ 楽しく食事ができるように、座る場所や配膳などの工夫をさせる。 ・ 生ゴミのしまつをきちんとさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミホイルを火の中へ入れるときや取り出すときには、火箸を使わせる。 ・ 包丁の使い方を指導する。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

35	牛乳パックのホットドック			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 簡単な野外料理の技術を学ぶ。 ・ 食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを育てる。 			
時 間	1時間	準備物	包丁 まな板 ホットドック用パン はさむ材料（バター、溶けるチーズ、野菜など） 牛乳 はし 調味料（からし、ケチャップなど） まき アルミホイル 軍手 牛乳パック	
活 動 内 容				留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1 作り方を聞く。 2 ホットドック用のパンに切れ込みを入れる。 3 バター、からしをぬり、好みの野菜やハム、チーズなどはさみアルミホイルでまく。 4 牛乳パックの中に、パンを入れ口を閉じて火をつける。 5 食事をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 下まで切ってしまうように注意させる。 ・ 牛乳パックが焼けすぎるとパンが焦げることがあるので、その場合は途中で火を消させる。 ・ 好みにケチャップをかけさせる。 ・ 楽しく食事ができるように工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミホイルから取り出すとき、軍手を使わせる。 ・ 包丁の使い方に注意させる。 			

36	熊笹茶づくり			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然食品への関心を深め、自然と人間との関わりについて考える。 			
時 間	2時間	準備物	おおなべ やかん フライパン さい箸 包丁 まな板 長靴 まき 軍手	
活 動 内 容				留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1 なるべく新しい熊笹（上部の葉）を摘む。 2 4等分くらいに切り、フライパンを使い遠火でよく煎る。 3 なべややかんに入れて、煮だして飲む。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 長靴、軍手を使用させる。 ・ 火の取り扱いに気をつけさせる。 ・ フライパンで火傷をしないように注意させる。 ・ 山菜料理と合わせて実施するとよい。 <p>* この他クコ、ドクダミ、カラスノエンドウ、オオバコなどがある。</p>
				
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊笹採集時は、長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 ・ フライパンで煎るとき、火の取り扱いに気をつけさせる。 			

I 自然とのふれあい

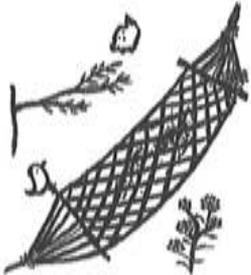
B 自然から創る

37	うどんづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 伝統的な手作りの技術を学ぶ。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1 作り方の説明を聞く。		・ グループで作らせる。	
2 粉をこねる。		・ 水を加えすぎないように、水を少しずつ加えながらこねさせる。	
3 めん棒でのばす。		・ できるだけ薄くのばさせる。	
4 切ってゆでる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 細く切らせる。 ・ 切るとき、ゆでるとき注意をさせる。 ・ ゆであがったら、冷水に入れてもむようにして洗い、ざるにあげさせる。 ・ ねぎを切る人、だしを作る人、座席を作る人、配膳する人など手分けさせる。 	
5 みんなで食べる。		・ 座席などを考え楽しく食事ができるように工夫させる。	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包丁を使うとき注意させる。 ・ ゆでたうどんの湯を切るとき、他の人に湯がかからないように注意させる。 		

38	ロープあそび		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なロープの結び方を知り、生活に活用する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容		留意事項	
1 資料を見ながら基本的なロープ結びを練習する。		・ パネルを見て説明をする。	
2 引きとけ結び、腰掛け結び、てぐす結びなどいろいろな結び方を練習する。		・ 個別指導をする。	
3 いろいろな結び方を使って遊び場をつくり、遊ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい遊びを工夫させる。 ・ グループごとにローテーションして遊ばせる。 ・ きちんと結べているか点検をする。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊び場を作って遊ぶ場合、確実に結べているかどうかを点検してから遊ばせる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

39	ハンモックで昼寝			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方を習得するとともに、作る喜びを味わう。 ハンモックを自然の中で使用し、心にやすらぎを与え、自然を感じる。 			
時 間	1日	準備物	結び方の見本 結び方の資料 作り方の資料 電気ドリル はさみ ロープ 木材	
		活 動 内 容		留 意 事 項
1		ロープの結び方を学習する。		<ul style="list-style-type: none"> 代表的な結び方やハンモックづくりに用いる結び方を練習させる。 丸太棒に穴を空けるドリルの使い方に注意させる。 ロープは少し長めに用意する。 練習した結び方を基本として、工夫しながら作らせる。 全体の形を整えるよう、つり下げて作らせる。 だんだんと細くなる傾向があるので外への広がりを持つよう注意させる。 快適な睡眠が得られる環境条件を考え、ハンモックを設置させる。 樹皮を痛めないようつり方を工夫させる。
2		ハンモックを作る。		
3		ハンモックで寝る。		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 		

40	つけものづくり			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 簡単な漬物づくりの方法を学ぶ。 食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを育てる。 			
時 間	1～2時間	準備物	樽 重石 まな板 ふた 包丁 材料（白菜、キャベツ、きゅうり、なす、大根、かぶら等） 塩 こんぶ ピニール袋	
		活 動 内 容		留 意 事 項
1		野菜を準備する。		<ul style="list-style-type: none"> 大根、かぶら、きゅうりなどのように固いものは薄く切らせる。 塩加減は、夏場は多めに、冬場は少なめにさせる。 こんぶは切って、野菜の上にはらまかせる。
2		樽に野菜を一重に入れる。		
3		その上に塩を振りかける。その上にまた野菜を並べ、塩を振りかけることを繰り返す。		
4		樽にふたをして、重石をのせる。		
5		一日おいて食べる。		
* 簡単な作り方		<ul style="list-style-type: none"> 野菜と塩をピニール袋の中に入れる。 よくもむ。 野菜をしぼる。 		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 包丁の使い方に注意させる。 重石を足の上に落とさないように注意させる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

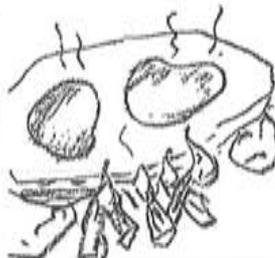
41	焼きいも研究会 (直接火にあてずにうまく焼く)		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 直接火にあてない焼きいもの作り方を学ぶ。 学校での収穫活動で得たものを使うことにより、収穫の喜びを味わう。 		
時 間	1時間	準備物 サツマイモ 火ばし バケツ 燃料 軍手 新聞紙 アルミホイル 竹 植木鉢	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 山に行ってお集めをする。 2 焼き方を決定する。			<ul style="list-style-type: none"> グループで作らせる。
例Ⅰ アルミホイル焼き		例Ⅱ 竹焼き	例Ⅲ 植木鉢焼き
(1) 半分の新聞紙をバケツの水につけて、サツマイモを包む。 (2) さらにアルミホイルで、すきまのないように包む。 (3) たき火の火が少しおさまりかけて、けし炭ができたころ、火の中に入れる。		(1) 図のように切った竹筒に水を入れ洗ったいもをつめこむ。 (2) アルミホイル(四つ折り)でふたをして、針金でとばす。ふたには、穴を二、三ヶ所開ける。 (3) 火のまわりにつきさして立てておく。 (4) 竹が焼けて、形がくずれそうになったら、取り出す。	(1) 植木鉢にいもを入れ、同じ大きさの植木鉢でふたをする。(重ねるだけ) (2) 石で土台を作って、その上に置く。火は四方からあたるようにしておく。
			
3 みんなで食べる。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 火を扱うので火傷に注意させる。 小石は、火にいれても割れてとばないものを使う。 		

42	落ち葉の皿づくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に興味・関心を持つ。 落ち葉の形や色の特徴に気づき、物を創ることの喜びを味わう。 		
時 間	半日	準備物 紅葉した木の葉(クヌギ等幅広いもの) ポール紙 木工用接着剤 絵の具 ニス ひし形の紙型 カッターナイフ はさみ パレット 筆	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 落ち葉を5枚用意する。(図1) 2 葉に型紙を合わせて切る。(図2) 3 葉の裏に木工用接着剤をつけてポール紙に貼る。 4 葉の輪郭に沿って切る。(図3) 5 切り取ったら適度に外側に折り曲げる。 6 皿の裏の紙や切り口に色をぬる。 7 ラッカーズプレーを吹き付ける。(図4) 8 よく乾かす。			<ul style="list-style-type: none"> 同じ大きさの葉を集めさせる。 切らなくても重ねて貼ってもよい。 重石を乗せて押さえさせる。
		 (図1)	 (図2)
		 (図3)	 (図4)
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をしておく。 用具の安全な使い方を理解させる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

43	落ち葉のステンドグラス		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉の形や色の美しさに気づき、創作する喜びを味わう。 ・ 自然への興味・関心を高める。 		
時 間	半日	準備物 落ち葉 黒画用紙 はさみ 袋(材料集め用) カッターナイフ カッティングマット 粘着剤付き透明コートフィルム2枚	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1 いろいろな色の落ち葉を集める。 2 黒画用紙に自由にデザインし、切り抜く。 3 透明コートフィルムの粘着面を上に向けて置く。 4 その上に切り抜いた黒画用紙を乗せる。 5 画用紙の切り抜いたところに、落ち葉を貼り付ける。 6 もう1枚の透明コートフィルムを上から貼る。 7 まわりをはさみで切り、形を整える。 8 光にかざして観賞しあう。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色等を考えさせながら採集させる。 ・ 枠の部分が離れてしまわないようデザインさせる。   <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉のきれいな方を下に向けて貼らせる。   <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの良さを認め合わせるようにさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 採集場所の安全点検しておく。 ・ かぶれる草木(ウルシ・ハゼ等)に気をつけさせる。 		

44	ナンづくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドの主食づくりの技術を学び、食事を工夫して作る楽しさを味わう。 		
時 間	2時間	準備物 ボウル めん棒 まな板 計量スプーン 自然石 植木鉢 まき ビニール袋 小麦粉 砂糖 塩 ドライイースト 卵 牛乳 バター	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1 作り方の説明を聞く。 2 生地づくりをする。 3 生地をビニール袋に入れ、発酵させる。 4 めん棒でのばす。 5 自然石を加熱しておき、生地を焼く。 6 みんなで食べる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで作らせる。 ・ だまにならないように、牛乳を少しずつ加えさせる。 ・ 30分程度ねかせて、2倍ぐらいになるまで発酵させる。 ・ できるだけ薄くのばさせる。 ・ 植木鉢を使うのもよい。 ・ 肉類、野菜、カレー等を包んで食べるなど、各グループに工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然石は、熱を加えても割れてとばないものを用意させる。 ・ 加熱した石の取り扱いに注意させる。 		

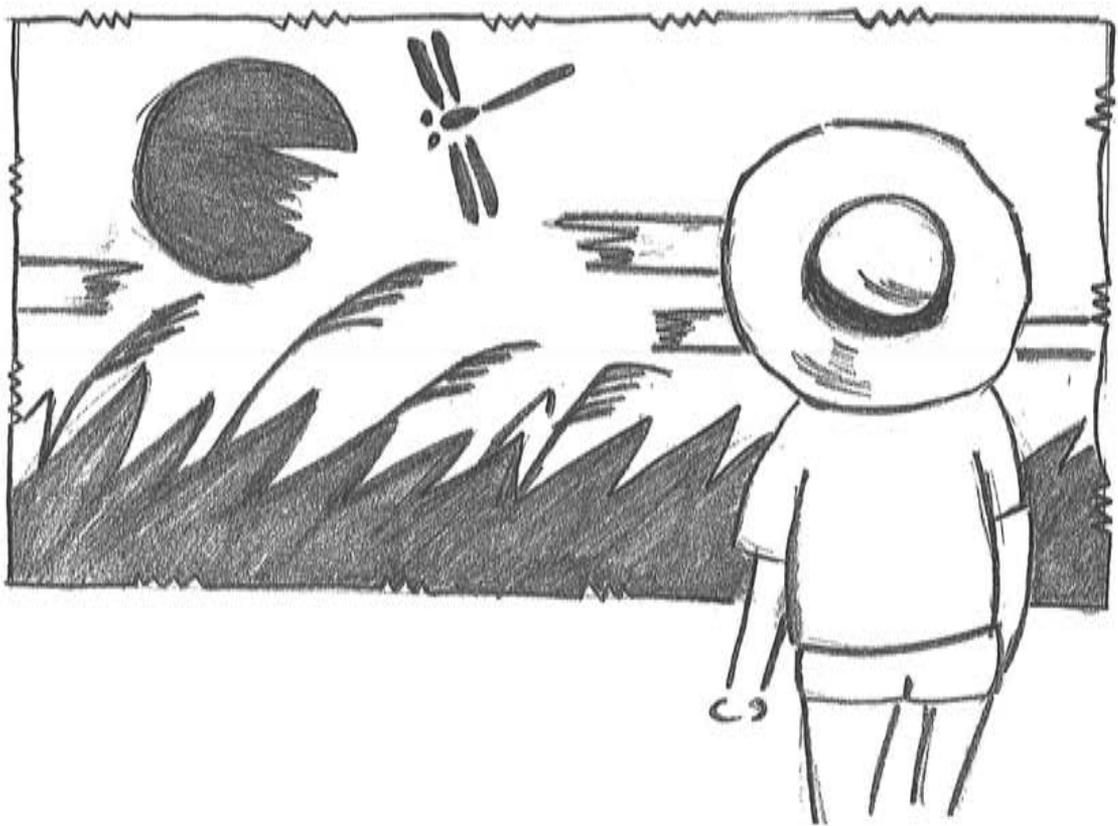
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

45	こんにゃくづくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> こんにゃくを作る楽しさを味わう。 食生活に生かされるこんにゃくの効果を学び、食べ物の大切さを理解する。 		
時 間	半日	準備物 こんにゃく 芋 湯 食料石灰 しょうゆ ポン酢 ミキサー 計量器 たらい ひしゃく 包丁 まな板 鍋 玉じゃくし ざる ゴム手袋 エプロン 三角布 まき	
活動内容			留意事項
1 作り方の説明を聞く。 2 こんにゃく芋を1～2cmの輪切りにしてゆでる。 3 火が通ったら熱いうちに皮をむき、ゆで汁を加えて、ミキサーにかける。 4 30分～1時間程たらいで冷まし、その後10分～15分程度練り合わせる。 5 食料石灰をお湯でとき、少しずつ加える。 6 型枠の中に流し込むか1個180g程度に丸める。 7 熱湯で30～40分間煮る。 8 流水で1時間アク抜きをする。 9 みんなで食べる。			<ul style="list-style-type: none"> グループで作らせる。 芽の部分を丁寧にとらせる。 芋1kgにつきゆで汁1.8ℓを加えさせる。 食料石灰を加えた後時間をおき過ぎると、芋が分離してしまうことがあるので、20分を限度とさせる。 楽しい食事ができるよう工夫させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> こんにゃく芋によってかぶれを引き起こす場合があるので、作業にあたってはゴム手袋を着用させる。 		

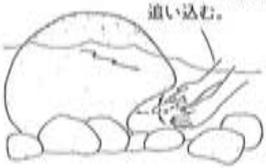
46	ミニリースづくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある自然に目を向け、それらを活用することで、自然への興味・関心を高める。 かずら、木の枝などの性質を知り、創る喜びを味わう。 		
時 間	半日～1日	準備物 木の枝 葉 実 かずら のこぎり 剪定ばさみ 紙やすり パーナー 接着剤 針金 きり ベンチ 油性絵の具 油性フェルトペン	
活動内容			留意事項
1 自分がつくりたいリースを考え、決定する。 2 材料収集をする。 3 リースをつくる。			<ul style="list-style-type: none"> 採集場所を指定し、安全指導をする。
<ul style="list-style-type: none"> 枝の輪切りを使って 1 図1のように、作りたい大きさ(直径)の木の枝を選び、のこぎりを使って、厚さ5～10mmほどの輪切りにします。 2 切った面を紙やすりでみがいたり、パーナーでやいてから布切れでみがいたりして、きれいにします。 3 図2のように、木の大きさ(円周)にあわせて、かずらを巻き付けます。(接着剤でつけてもよい) 4 図3のように、切った面に絵の具などで絵を描いたり、木の実や葉をはってデザインします。			<ul style="list-style-type: none"> 木の実や葉を使って 1 図1のように、かずらを自分が作りたいリースの大きさ(直径)に巻いていきます。 2 図2のように、デザインを考え、ひろってきた木の実や葉をそれにあうように選びます。 3 図3のように、選んだ木の実や葉に、きりで穴を開けて、5cmくらいに切った針金を通し、かずらにくくりつけます。(接着剤でつけてもよい)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全点検をしておく。 刃物の安全な使い方を指導する。 		

C 自然に親しむ



I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

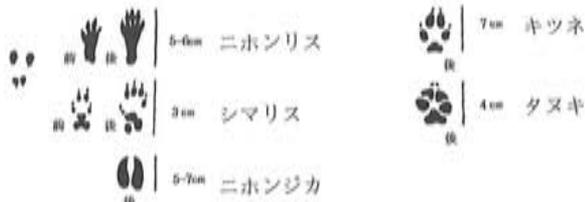
1	川遊び		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 清流に手や足をつけたりして、自然とのふれあいを深める。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 安全について話し合う。 2 生きものを探す。 3 川の流れを使って遊ぶ。 4 感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> すべるので走らせない。 手作りの水鉄砲や船などを持参して遊ぶのも良い。 石の裏についている虫なども見つけさせる。 <small>両手の幅を狭めながら 追いつむ。</small>  岩壁に魚を押しつけるようにして捕らえる。 
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 石を投げないように指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ぞうりや長靴をはかせる。走らせない。 終わった後の健康管理をしっかりさせる。

2	ターザンごっこ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野外での遊びの楽しさを味わうとともに、体力づくりや感覚づくりをする。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 何種類かの遊び場を作る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ターザンロープ 木登り つながたり 基地づくり 等 2 グループごとにローテーションして遊ぶ。 3 新しい遊びを工夫して遊ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方が安全かどうか、枝が折れないかどうかの点検をしっかりする。 各遊び場には必ず指導者がつく。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方をよく点検する。 木からおりるときよく注意させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ロープをかけた枝が大丈夫かどうか点検する。

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

3	ナイトハイク		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の神秘性を体験し、夜の自然の様子を観察する。 暗闇体験を通して、電灯がない時代の生活について理解を深める。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 夜の山の中を歩く。			<ul style="list-style-type: none"> なるべく少人数のグループごとに歩かせる。 月が出ている場合は、月明かりを利用して歩かせる。
2 静かに音を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 虫や動物の音を聞かせる。
3 星の観察をする。			<ul style="list-style-type: none"> 懐中電燈を照らしすぎないようにさせる。
4 全ての明かりを消した後、暗闇の中で見えるものはないか確かめる。			<ul style="list-style-type: none"> 暗闇の中でも、わずかな明かりで見えるものがあることに気づかせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> グループでかたまっても行動させる。 草の中にマムシ等がいるので気をつけさせる。 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 		

4	けもの道体験		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の野山で自由に活動し、探求心、冒険心や判断力を養う。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 敷地内にいく通りかある探検コースのなかで、どのコースをとるかグループで相談する。			<ul style="list-style-type: none"> 地図の読み方を押さえる。
2 コース地図に従って探検する。			<ul style="list-style-type: none"> 途中、けものの足跡などを探させる。 草花を踏みつけたり、採ったり、木の枝を折ったりさせない。 場所を決めて山の中をストレートに通り抜ける体験をさせてもよい。
3 発見したことや不思議なことなどをまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 自然に興味を持たせる。
4 まとめたことを発表する。			<ul style="list-style-type: none"> * 動物の足跡
			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> グループで行動させる。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）やマムシに注意させる。 長袖、長ズボンを着用させる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

5	魚のつかみどり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 魚をつかんだ感触を味わい、自然とのふれあいを深める。 川魚と食生活の結びつきや魚の調理方法を理解する。 		
時 間	2時間	準備物 たも網 調理用具 火箸 バケツ 魚 まき 塩 水着か短パン 軍手 ぞうり	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 グループ分けをする。 2 魚を放流する。 3 魚を自由につかみどりする。 4 魚のつくりを観察する。 5 魚を食べる。			<ul style="list-style-type: none"> 1 グループ20名程度でさせる。 泳ぎ方、逃げ方を観察させる。 素手でつかませる。 全くつかめない子も出てくるので、つかんだ子はいったん池から上げるなどの配慮をする。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 魚を串に刺すとき、手を刺さないように気をつけさせる。 火の取り扱いに注意させる。 		

6	手作りフィッシング		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 道具を作って魚釣りをする活動を通して、工夫する楽しさを味わう。 自然環境を守ろうとする心や態度を育てる。 		
時 間	1日	準備物 地域の地図 移植ごて てぐす 釣り針 ゴム管 餌の入れ物	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 どんな材料で魚釣り道具を作るか話し合う。 (例) ・釣り竿 ・うき ・おもり 等 2 釣り餌を探す。 3 魚釣りの場所を選定し、釣り大会をする。 4 工夫したことや成果、気づいたことを話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが考えつきそうな材料が現地で調達できない場合は、事前に用意をさせておく。 てぐす、釣り針、ゴム管を配布する。 どこにいるか、地元の人に尋ねるようすすめる。 掘り起こした場所は元通りにするなど、きまりを守るよう指導を徹底する。 ない場合を考えて代用品を準備しておく。 地元の人意見を参考にしようすすめる。 汚濁状況はできるだけ現地に行って自分の目で確かめさせる。 釣り場の安全を考慮する。 漁業権が設定されている河川では、施設と相談のうえ、必要に応じて事前に許可を得る。 釣りの成果だけでなく、環境問題に踏み込んだまとめとなるよう支援する。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 釣り場での危険箇所注意する。 		

I 自然とのふれあい

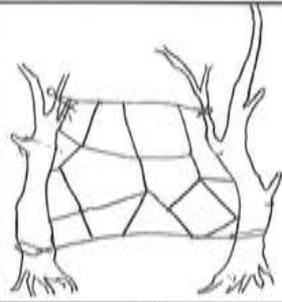
C 自然に親しむ

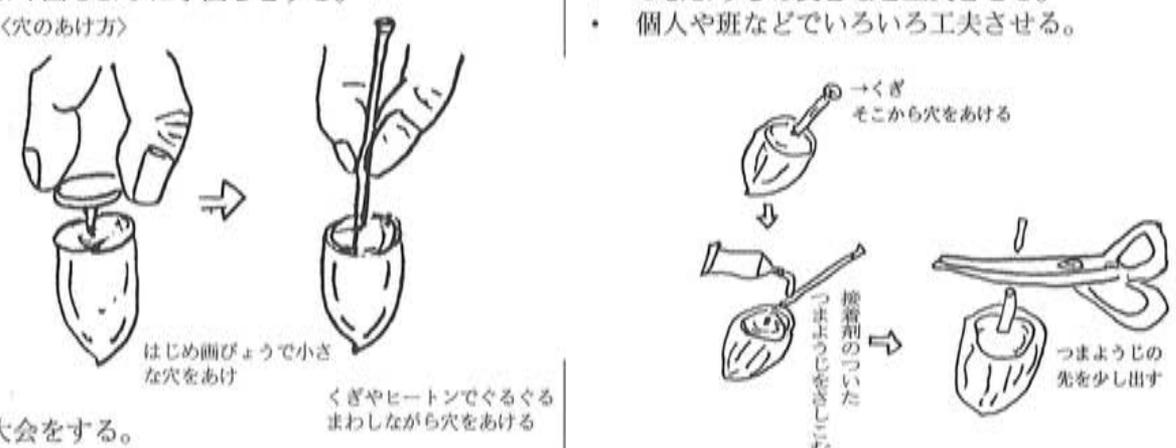
7	自然と友だち		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中での遊びを工夫して遊ぶことにより、自然とのふれあいを深める。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 グループごとに、散策したい場所を決める。 2 自然の中での自由な遊びを考え自由に過ごす。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ターザンごっこ 木登り かくれんぼ たんけん 等 			<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の地図を見ながら相談させる。 野山での危険を知らせる。 樹木や草花を痛めないように遊ばせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 木にぶらさがったり、登ったりするときは、枝が大丈夫かどうかよく点検してから登るよう指導する。 草むらに入るときは注意させる。 		

8	自然ふれあいゲーム		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいゲームを通して自然を感じる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 ゲームについての説明を聞く。 2 ゲームをする。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 目かくしトレイル……………目かくしをして森の中を歩く。 大地の意……………体に落ち葉や枯れ草をかぶせ、合図のあるまで森の一部になる。 木の鼓動……………木に聴診器を当て、木の内部の音を聞く。 木の葉のかるたとり……………いろいろな木の葉や花、種子などを集め2グループ対抗で指示されたものを取り合う。(植物の名前を熟知しておくこと) 宝さがし……………宝ものリストによって自然の中から探し出す。 グレートハンティング……………一定地域に獲物カードをばらまき、班ごとに1名のハンターと残りの猟犬役でカードをさがす。猟犬はカードを見つけたら、ハンターが来るまで足で踏みつけハンターを呼び、ハンターが取る。 林間しりとり……………一定区域に5種類のしりとりになる動植物の絵を隠し、班ごとに一斉にさがし、しりとりの構成を作る。 縄張りあらそい……………ペアで片手つなぎになり、残りの手で立木をロープでくくりつける。 私の木……………目かくしをして、パートナーに案内された木をさがしあてる。 			<ul style="list-style-type: none"> 安全に活動させる。
3 感想を話し合う。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 危険物、危険な場所の点検及び立ち番をする。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

9	課題解決ゲーム		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 課題をグループで解決することにより自己実現を図り、集団での活動の仕方を学ぶとともに、責任感や問題解決能力を養う。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> ゲームについての説明を聞く。 課題に取り組む。 			<ul style="list-style-type: none"> 安全に活動させる。 指導者は教えない。 時間を十分与え、達成できるように配慮する。
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ビーム (2本の丸太を固定し、グループ全員で一方から反対側に丸太を乗り越える) エレクトリックフェンス (3m程度の間隔の木4本に高さ1.5mでロープをはり、丸太を一本おく。ロープに囲まれた広場の中からグループ全員が立ち木やロープにふれずに外へでる) バックフライング (1mほどの高さから、後ろ向き直立の姿勢で後ろに倒れる。他のものは全員で受けとめる。全員交代する) くもの巣 (2本の木を利用して地面から30cm~180cmぐらいの範囲でたこ糸を使い、くもの巣をつくる。グループ全員が一方から反対側にくもの巣につかえないように通り抜ける) ラインナップ (3mほどの間隔の立ち木を利用して、80cmぐらいの高さで丸太を固定する。全員が一列に並び指定された順に丸太の上で並び変わる。立ち木につかまったり、落ちたりしたらやり直す) 			
3 感想を話し合う。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 丸太をしっかりと固定する。 ふざけたりしないように安全指導を徹底する。 各ゲームの場所に指導者がつき、必要な時は必ず補助をする。 		

10	どんぐりこま大会		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の物を利用して遊び道具を作り、遊ぶことによって自然への興味や関心を高める。 自分たちの力で大会を運営することにより、自主的、実践的な態度を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> どんぐり拾いをする。 こまづくりをする。 よく回るように手直しをする。 (穴のあけ方) 			<ul style="list-style-type: none"> 長靴を使用させる。 きりの取り扱いに注意させる。 つまようじの長さなど工夫させる。 個人や班などでいろいろ工夫させる。
 <p>はじめ画びょうで小さな穴をあけ</p> <p>くぎやヒートンでぐるぐるまわしながら穴をあける</p> <p>→くぎ そこから穴をあける</p> <p>つまようじをさしこむ</p> <p>接着剤のついた</p> <p>つまようじの先を少し出す</p>			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> カッターやきりの取り扱いに注意させる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

11	夜とあそぼう			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 視覚だけにたよらず、聴覚、嗅覚、触覚を使って暗闇の自然を感じる。 			
時間	1～2時間	準備物		懐中電燈 単一乾電池
活動内容		留意事項		
1 暗い野山の中に感じるものを探す。		<ul style="list-style-type: none"> 木や草の中から人間の姿や顔に見えるものを探させたり、夜に活動する動物の気持ちを考えさせる。 		
2 班ごとに時間を決めて、音をたよりに暗闇を歩く。		<ul style="list-style-type: none"> 音をたよりに歩く方向を探させる。 あまりにも暗すぎる場合は、各班にカンテラやろうそく等を用意する。 各ポイントには、約1分おきに音を出す人を配置する。 音の順番を知らせてから出発させる。 		
<p>* 例 笛の音→竹をたたく音→石の音→草の音→木の音→鈴の音</p>				
3 元の場所に帰って、暗闇で気がついたことを話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 暗闇を素材にした話を作らせてもよい。 		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 事前にコースの安全、音を出す場所の確認しておく。 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 			

12	雲海登山			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 早朝登山を通して自然の神秘性、美しさ、偉大さに気づく。 自分の足で登った達成感を味わうとともに、仲間との連帯感や協調性を育てる。 			
時間	半日	準備物		トランシーバー 救急バッグ 説明用地図 弁当 水筒 タオル 帽子 軍手
活動内容		留意事項		
1 登山についての注意を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> コース、意義、安全などについて指導する。 天候の変化への対応を指示する。 健康観察をし、必要な指導をする。 グループ別登山やコース別登山等、方法を工夫させる。 		
2 出発する。		<p>*コース名</p> <ul style="list-style-type: none"> きつね うさぎ たぬき りす くま むささび いのしし 		
3 山頂で朝食を食べる。		<ul style="list-style-type: none"> ゴミはすべて持ちかえらせる。 		
4 下山する。		<ul style="list-style-type: none"> 走らないようにさせる。 植物観察やバードウォッチングをしながら下山させる。 		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> コースは天候や体調などに応じて変更する。 帽子を着用させる。汗をかいた場合はすぐに体を拭かせる。 			

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

13	朝来山登山		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 美しい自然の中で、健康な体をつくるとともに、強くたくましい精神を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 登山について話を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> コース、意義、安全などについて指導する。 登山コースをグループで決めさせる。 健康観察をし、必要な指導をする。
2 登る。 (例) ・植物観察 ・パードウォッチング			<ul style="list-style-type: none"> グループ別登山やコース別登山等、方法を工夫させる。
3 山頂で景色をながめる。			<ul style="list-style-type: none"> 眺望を説明する。
4 下山する。			<ul style="list-style-type: none"> 走らないようにさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 天候、体調に応じて、行程の変更を考える。 長袖、長ズボン、帽子を着用させ、軍手を持参させる。 		

14	竹田城ハイキング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や産業を知り、昔の人々の工夫や努力を理解する。 強くたくましい心と身体を育てる。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 施設から竹田城まで歩く。			<ul style="list-style-type: none"> 事前調査し、調査ポイントを把握し指導する。 トイレの場所を知らせておく。 交通安全指導をする。
2 竹田城の歴史を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 事前に学習させる。
3 食事をする。			<ul style="list-style-type: none"> ゴミはすべて持ち帰らせる。
4 下山する。			<ul style="list-style-type: none"> 登山道が急なので十分気をつけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 施設に戻ったら、ゆっくり休ませる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

15	一人テント		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外で寝ることにより、夜の自然を感じる。 ・ 一人ぼっちの体験を通して、自己を見つめ自立心を養う。 		
時 間	1泊	準備物 一人用テント 寝袋 断熱マット 懐中電燈 トランシーバー まき 虫よけ 単一乾電池	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 自分が泊まるテントを設営する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察をし、適切な配慮をする。 ・ 天候の変化に対応する計画をしておく。
2 宿泊する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 多人数の場合はローテーションを組んで泊まらせる。 ・ 静かに夜間巡視をする。
3 テントを撤収する。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察をし、必要な指導をする。 		

16	サイクリング		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の様子を見学し、人々の生活への関心を深める。 ・ 周辺の自然の様子を観察する。 ・ 強くたくましい心と身体を育てる。 		
時 間	1日	準備物 自転車 地図 トランシーバー 救急バッグ ヘルメット プロテ クター 弁当 タオル 帽子 水筒	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 地図を見ながら、サイクリングコースを決定する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにコースを決定させるか、選択コースの中から選ばせる。 ・ 健康観察をし、必要な配慮をする。 ・ 課題を設定させる。
2 自転車の練習をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキの使い方やチェンジの切り替え等を十分に練習させる。
3 サイクリングをする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全に気をつけさせる。 ・ 危険箇所及びポイントに必ず指導者がつく。
4 発表会をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について調べたことを発表させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察をしっかりとる。 ・ 交通安全指導を徹底する。 ・ 特に下り坂のスピードの出しすぎに注意させる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

17	アドベンチャーハイキング		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力し合い、いろいろな問題を解決しながら目的を達成する過程を通して、友だちとのふれあいを深めるとともに、自主性や判断力、連帯感を育てる。 健康な、身体をつくり、たくましい精神力を養う。 		
時 間	1日	準備物 冒険先紹介資料 地図 時刻表 交通機関料金表 計画カード 救急バッグ 弁当 タオル 帽子 水筒 お金	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 アドベンチャーハイキングの目的と冒険先のコースについて説明を聞く。 2 グループごとにコースを決め、計画を立てる。 3 グループごとに出発する。 4 分かったことや感想をまとめ、発表する。			<ul style="list-style-type: none"> コースをいくつか提示し、選択させる。 事前に学習させる。 計画をチェックし助言を与える。(経路、時間、交通機関、必要経費、係分担、記録等) 課題を持たせる。 安全指導を徹底する。 緊急時の体制を確認しておく。 指導者は、子どもたちの自主性、主体性を伸ばす指導をする。 困ったこと、おもしろかったこと、学んだこと、みんなで解決したことなどをグループごとにまとめさせる。 自分たちでやり遂げたことを評価し、生活や活動への意欲を高めるようにさせる。 楽しい発表会にさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をしっかりとる。 コースの下見をして、危険箇所の把握をよくしておく。 安全指導を徹底する。 		

18	雨にも負けず		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 野性味やたくましさを育てる。 雨の中での活動を通して、自然とのふれあいを深める。 		
時 間	1日	準備物 ボール 傘 縄 長靴 洗剤 マッチ 新聞紙	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 雨の中でのずぶぬれ・泥んこ体験について説明を聞く。 2 工夫し、雨を集める。 3 自然物だけを使い、みんなの体で風雨を防ぎながら火をたき、お湯を沸かす。 4 自分のやってみたい活動を選択し、ずぶぬれになりながら活動する。 (例) ・サッカー ・縄跳び ・鬼ごっこ ・すもう ・ハイキング など 5 着替えをする。 6 汚れた衣類を洗濯する。			<ul style="list-style-type: none"> 泥んこになってもかまわない服装をさせる。 ここではまだ濡れないように活動させ、たくさんの雨水を集めさせる。 できるだけ少ない数のマッチで火をつけられるよう工夫させる。 たきつけ用に、新聞紙を数枚だけ使ってよいことにする。 活動中や活動後に、顔や体を拭くためのお湯を作らせる。 体が温まる思いきった活動をさせる。 健康状態を常に把握し、無理にならないようにする。 すぐに入浴の用意をして、体を温める配慮をする。 施設と相談して、洗濯をさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 活動後の健康管理をしっかりとらせる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

19	雪と友だち		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 雪の中でのびのび活動し、五感を通して雪と親しみ、冬の自然への興味や関心を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 雪の中で遊ぶ約束等を話し合う。 雪の中で遊ぶ。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 雪上りレー 雪合戦 雪玉作り まとあて 雪浴び そり遊び 雪を使って作る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 雪だるま かまくら 雪像 アイスクリーム 雪の山林を歩く。 感想を話し合い、かたづける。 			<ul style="list-style-type: none"> 危険な行動をしないよう約束させる。 雪の中に石や植木がない所で活動させる。 雪の大玉作りから雪像作りへと続けさせる。 かまくらを作って、夜、ローソクで明かりをつけ、その中で過ごさせる。 雪が落ちる様子、冬芽、足跡等を観察させる。 雪の中に道具が残ることがあるので数を確認する。 健康管理に十分気をつける。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 道具で怪我をしないよう指導する。 顔に雪玉をあてないよう指導する。 	

20	自然観察ビンゴ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中から目的とする対象を探索する活動を通して、自然への興味・関心を高める。 五感を使って直接自然とふれあうことによって、自然を再発見させる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 進め方の説明を聞く。 各グループで進め方の相談をする。 一斉にグループ単位で出発する。 ゴール地点で到着を確認してもらう。 どんなことを発見しどんなことに感動したか、全員でわかちあう。 			<ul style="list-style-type: none"> グループで取り組ませる。 安全指導を徹底する。 最終到着時刻を指示する。 どんな発見、感動があったかを重視させる。 コース図をもとに考えさせる。 ビンゴが何通り完成しているかだけにとらわれず、評価する。 時間があれば、各グループごと発表させる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）、危険な生物（マムシ等）に気をつけさせる。 	

21	自然観察ビンゴ（南但馬編）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中から目的とする対象を探索する活動を通して、自然への興味・関心を高める。 五感を使って南但馬の自然とふれあうことによって、自然を再発見させる。 		
時間	半日	準備物	

活 動 内 容	留 意 事 項
---------	---------

1 進め方の説明をきき、出発する。	<ul style="list-style-type: none"> グループで取り組ませる。 最終到着時刻を指示する。
-------------------	--

秋の自然観察ビンゴ

南 但 馬 の 秋 を み つ け よ う

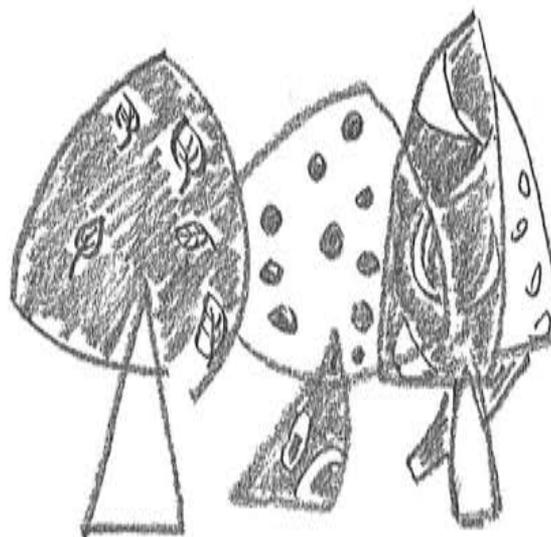
○やり方

- 全部で9個のマスのあり、それぞれに課題が書いてあります。たて、横、ななめのどれでもよいから1列課題が解決できれば、ビンゴが一つ完成です。時間内にできるだけたくさんビンゴを完成させましょう。
- 集めたものは、ビニール袋に入れて持って帰りましょう。また、カードにはりつけるものは、セロハン粘着テープではりつけましょう。
- 課題は、どの課題から取り組んでもよろしい。自然観察ビンゴマップをよく見てがんばってね。
- ※ 食べるものについては、持ち帰り先生に確認をとってからにしましょう。

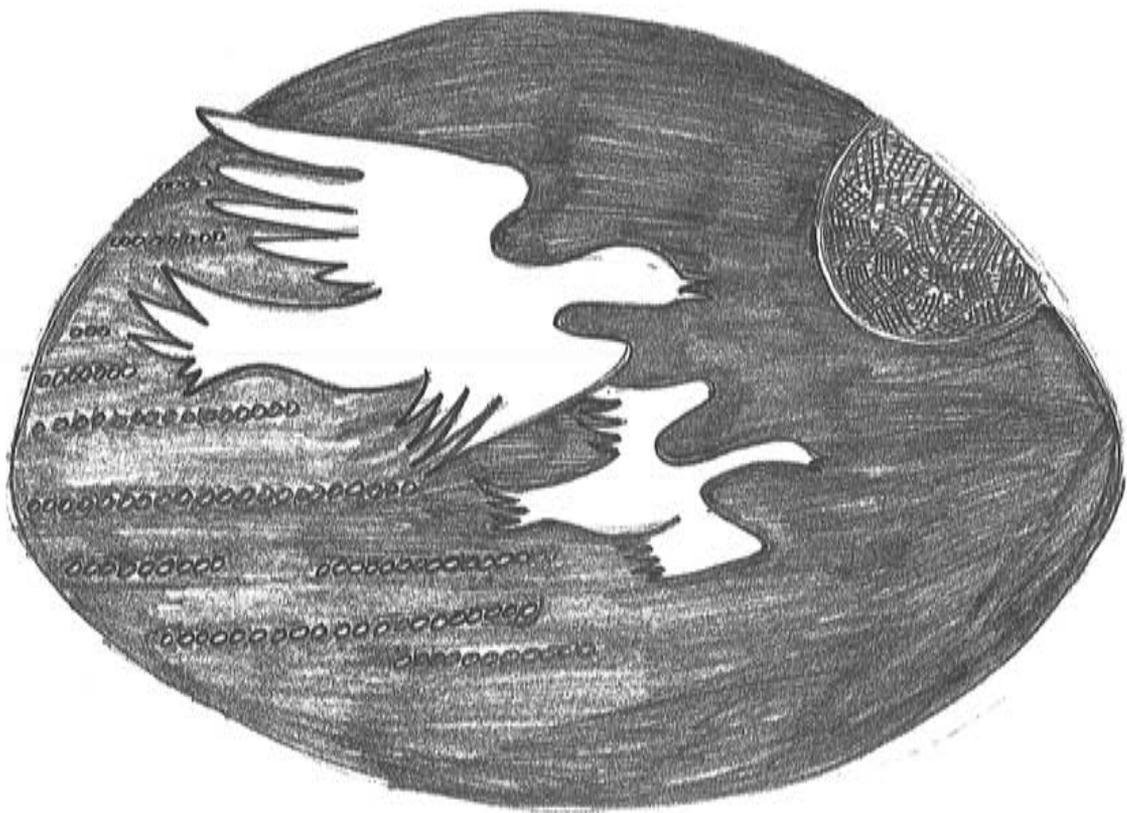
① 秋の七草のどれかを見つけたら、ここにはりつけて名前を書きましょう。	② ドングリをひろい、持って帰りましょう。	③ クリのイガをさわってみましょう。どんな感じですか。イガを持って帰りましょう。
④ 黄色の花を見つけてはりましょう。	⑤ 野鳥を2種類見つけてなまえを書きましょう。	⑥ キノコを2種類見つけて名前を調べましょう
⑦ センブリの葉をかじってみましょう。どんな味ですか	⑧ 種類のちがう葉を5枚集めましょう。	⑨ ナツハゼの実を食べてみましょう。どんな味ですか

できたビンゴは（ ）通り

安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木、危険な生物に気をつけさせる。
-----------	---



D 自然を守る



I 自然とのふれあい

D 自然を守る

1	山の仕事		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木を育てることの必要性や苦勞、楽しみなどについて話を聞き、自然を愛する心を育てる。 枝うち作業を通して、勤勞体験のすばらしさを学んだり、先輩から後輩へと受け継ぎ、山を守っていくことの大切さを学ぶ。 		
時間	1日	準備物 なた のこぎり 無線機 救急バッグ ヘルメット 長靴 脚立 軍手 タオル 水筒	
活動内容			留意事項
1	山の仕事について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 活動場所は事前に施設職員と相談する。 植林関係者の協力を得るとよい。
2	枝うちの仕方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい取り扱い方を指導する。 ハチなどに気をつけさせる。
3	グループごとに作業をする。		<ul style="list-style-type: none"> 近くで、すぐに指導できるように、指導者を配置する。 なたや枝を振り回したりしないように気をつけさせる。 払った枝は、薪にするので小さく切り、指定の場所に運ばせる。
4	枝うちの感想を話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ノートや模造紙にまとめる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 長袖、長ズボンを着用し、長靴、軍手を使用させる。 		

2	下草刈り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 下草刈りの必要性を学び、山林を育て愛護する心を育てる。 		
時間	半日	準備物 鎌 長靴 救急バッグ 軍手 タオル 帽子 水筒	
活動内容			留意事項
1	下草の刈り方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 下草刈りの必要性について話を聞かせる。 鎌の使い方をよく指導する。 鎌の持ち方、刈り方、刈る姿勢
2	グループごとに場所を決める。		<ul style="list-style-type: none"> 場所は施設職員と相談する。
3	下草刈りをする。		<ul style="list-style-type: none"> かぶれるおそれのある木や草に注意させる。 軍手をさせる。 刈ったあとの草の処理は施設職員と事前に相談する。
4	後かたづけをして、感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 鎌で足を切らないように注意させる。 マムシやハチについて事前指導する。 長袖、長ズボンを着用し、長靴、軍手を使用させる。 		

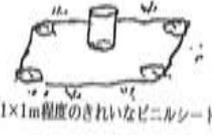
3	植 樹		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校を体験できたことへの感謝の気持ちを養う。 植樹することにより、自然を守ろうとする心を育てる。 		
時 間	1時間	準 備 物	スコップ バケツ くわ つるはし 長靴 かけや 苗木 添木用く い シュロひも 学校で育てた苗木 軍手
活 動 内 容			留 意 事 項
1 植樹することの意義を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 施設職員と相談する。 植林関係団体の協力を得るとよい。 * 苗木はどんぐりを発芽させたものを使っても良い。
2 植樹場所を整地する。			
3 植樹をする。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長靴、軍手を使用させる。 つるはし、スコップの使い方に注意させる。 		

4	アルミ缶ブローチ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウムの空缶を利用して、アクセサリーをすることにより、資源の有効利用に関心を持つ。 		
時 間	半日	準 備 物	はさみ 鉄の空缶 砂 ペンチ やすり 炭 布 金属磨き 金属用 接着剤
活 動 内 容			留 意 事 項
1 アルミ缶の内外を洗い、乾かす。			<ul style="list-style-type: none"> 一つのペンダントを作るのに空缶を1個用意させる。 下から十分に空気を送らせる。 レンガの上にアルミの溶けたものを落としても面白い形ができる。 アルミ缶は必ず切り口を上にして入れる。 アルミが溶けて表面に薄い膜ができるがそのままにしておく。 ペンチで鉄の缶をつかみ静かに流し込ませる。 金属みがきを布につける。 金属用接着剤を使用させる。 ペンダントにするなら、ドリルで穴を開ける。
2 アルミ缶をふたつに切る。			
3 炭をおこし、鉄の缶を乗せて、熱する。			
4 器に砂を入れ、作りたい形の物を押し込んで形をつくる。			
5 鉄の缶が真っ赤になったらアルミ缶を入れて溶かす。			
6 溶けたアルミを型に流し込む。			
7 水に入れて冷やす。			
8 やすりで削る。			
9 布で磨く。			
10 接着剤でブローチピンをつける。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> アルミ缶の切り口を上に向けて溶かす。 火傷をしないよう、静かに型に入れさせる。 		

I 自然とのふれあい

D 自然を守る

5	水中生物と水質検査		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 水中にもいろいろな生物が住んでいることに気づく。 水中にすむ生物の種類によって、水質を調べることができるようにする。 美しい川の大切さについて関心を深め、環境を守っていこうとする態度を育てる。 		
時 間	半日～1日	準備物 水中生物図鑑 バケツ ルーベ ベトリ皿 パット ピンセット 木の枠 解剖顕微鏡 顕微鏡 水中生物と水質の資料 長靴 水中生物採集用具 水着や短パン ぞうり 帽子 タオル	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 調査場所を決める。			<ul style="list-style-type: none"> グループごとに違った場所から採集させる。 下流に網を用意して生物が流されたりつぶれたりしないように採集させる。 バケツに入れさせる。 パットに移し変えてから、ベトリ皿に同じ種類ごとに分け、名前、数などを調べさせる。 天気がよければ現地で、雨の場合は施設に持ち帰って調べる。 水中生物と水質の資料によって、水質を調べ、まとめさせる。
2 木の枠をおき、その範囲内の生物を採集する。			
3 生物を観察する。			
4 生物と水質の関係を調べる。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集時は長靴等を使用させる。 採集場所の安全を確認する。 川床はすべりやすいので気をつけさせる。 		

6	雨水の酸性度しらべ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染について関心を持たせるとともに、雨水の異常について調べる技術を身につける。 環境問題について考えさせ、自然を愛する心を育てる。 		
時 間	2時間	準備物 酸性雨調査の道具 ビーカー ビデオソフト pHバックテスト	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 調査の方法の仕方について話を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 不純物が入らないように直接雨水をとる。 酸性雨が人間にどんな影響を与えるのか話し合わせる。 ビデオ、写真などを見ながらより現実のものと感じさせる。 酸性雨の原因や地球規模の現象であることを知らせる。
2 雨水を集め、調べる。			
<p>* 良い例</p>   <p>1×1m程度のきれいなビニルシート</p>			
3 酸性雨について話し合う。			
安全指導の ポイント			

I 自然とのふれあい

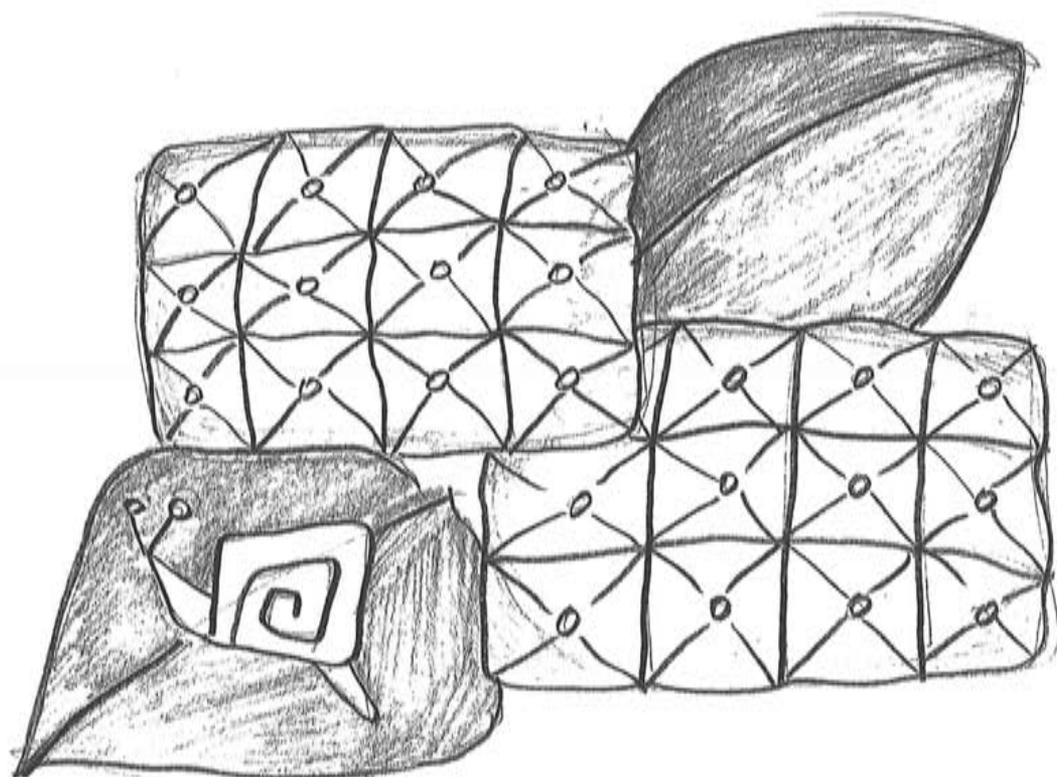
D 自然を守る

7	大気のをれを調べよう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 酸素や二酸化炭素などの気体を採集したり測定したりする技能を身につける。 身近な環境調べを通して、環境保全に対する関心を高め、実践する態度を育成する。 		
時間	1日	準備物 顕微鏡 スライドガラス 気体検知器 粘着テープ ビニール袋 マツ葉	
活動内容			留意事項
1 調べる方法や手順を話し合う。 2 いろいろな場所の大気を調べる。 (1) 降下ばい塵の測定 (2) マツ葉の気孔観察 (3) 二酸化炭素等の測定 3 植物の働きを調べる。 4 結果をまとめ、話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 部屋の内外、森の内外、国道沿いなどに測定場所を設定させる。 一定の広さの白い粘着テープか湿らせたろ紙を板に取り付け、一定時間置いた後、付着したものを観察させる。 マツ葉の採集場所の様子を記録しておく。 それぞれの場所で採集したマツ葉の気孔の汚れの割合を出させる。 今年できた葉と去年できた葉の気孔の汚れ具合とを比較してもよい。 機器の正しい使用方法を指導しておく。 自動車の排気ガスをビニール袋に採集し、二酸化炭素や一酸化炭素などを測定させる。 呼吸を吹き込んだ厚手のビニール袋で日光が当たる場所の植物をつつみ、酸素が増加する様子を測定させ、植物の光合成の働きを理解させる。 大気のをれを植物が浄化していることを理解させ、森のその他の働きやいろいろな環境問題について話し合わせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の指導をする。 		

8	ゴミなし料理		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 買い物や料理をする中で、消費生活のあり方が環境と結びついていることを知り、自分たちの生活を工夫しようとする意欲や態度を育てる。 		
時間	1日	準備物 野外炊事用具 自転車 ヘルメット プロテクター まき 軍手 ふきん お金 ナップサック	
活動内容			留意事項
1 ゴミの出ない買い物の工夫について話し合う。 2 買い物をして、料理を作る。 3 どうしても残った物について考える。 4 燃えないゴミを燃やしてみる。 * 観察項目 燃え方、炎の色、煙の色と臭い 燃えかすの色と様子、燃えつきた時間 5 生活する上でゴミを少なくする方法を話し合い、まとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 必要な量だけ買う、無駄な包装をさける等について話し合わせる。 材料のすべてを使う料理の工夫をさせる。 交通安全に気をつけさせる。 残ったものを分別し、目の前に置いて活用を考えさせる。 材料の端……料理して食べる。 入れ物……活用を考える。 燃えないゴミが本当に燃えないのか実験し、記録させる。 * 生ゴミや燃えないゴミを種類別に分け、どれも5cm四方に切り、スチール缶の中に入れ、下から焚火で熱する。 ゴミによっては処理に困ったり、有毒ガスを出すものがあることに気づかせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全について指導する。 包丁の使い方や火の取り扱いに気をつけさせる。 		

Ⅱ 人とのふれあい活動

A 人に学ぶ



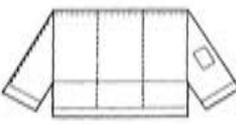
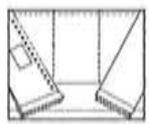
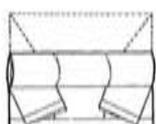
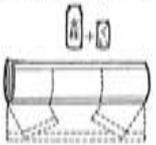
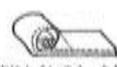
Ⅱ 人とのふれあい

A 人に学ぶ

1	自然学校発表会			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校の中で調査研究したことや創作したもの等を発表する。 日頃学校ではできない学習の意義に気づき、友だちの良さや素晴らしさを発見し、相互の個性の伸長を図る。 			
時 間	1時間～ 半日	準備物	マイク ホワイトボード 視聴覚機器 模造紙 筆記用具 油性ペン	
活 動 内 容				留 意 事 項
1	発表のテーマを決定する。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 水辺の生き物について 自然観察路の植物について 竹田城の歴史について はさまの古墳について 等 			<ul style="list-style-type: none"> 個人やグループでテーマを決定させる。
2	発表内容をまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定理由、調査方法、わかったこと、感想等ポイントをしばってまとめさせる。
3	発表する。			<ul style="list-style-type: none"> まとめ、発表等すべての児童が手分けをして作り上げさせる。
4	感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> それぞれの良さを認め合い、自由研究へと発展するように指導する。 発表したものをしばらく展示させる。
安全指導のポイント				

2	家族への手紙			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での様子を手紙などで知らせ、家族愛を培う。 手紙を書く機会を与えて、書き方についての理解を深める。 			
時 間	1～2時間	準備物	郵便番号簿 筆記用具 切手 はがき 便箋 封筒	
活 動 内 容				留 意 事 項
1	手紙、はがきの基本的な書き方について説明を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと、新しく学んだことなど、自然学校での様子がよくわかるように書かせる。 郵便番号、住所、氏名など書きまちがいや抜かしているところがないか点検させる。 手紙は、切手を各自で貼らせる。 自然学校の前半に書き、投函する方がよい。 施設のポストを利用させる。
2	各自、自然学校における活動や生活を振り返り、手紙に書き表す。			
3	書いた文やあて先等を見直す。			
4	手紙を投函する。			
安全指導のポイント				

5	テント設営		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> テント設営の基本的技術を身につける。 自分の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。 		
時 間	2時間	準備物 テント一式 寝袋 断熱シート 軍手 タオル 帽子	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 場所を決め、地面を整える。 グラウンドシートを敷き支柱の位置を決めて、親綱を張る。 (南但馬自然学校のテントは、グラウンドシートと一体型) 出入口を閉め、四隅の角綱を張る。 残りの腰綱を張る。 裾布をグラウンドシートの下に敷き込む。 フライシートを同じ要領で張る。 			<ul style="list-style-type: none"> 入り口は傾斜下、風下にさせる。 テントの中に入っている用具と数を確認させる。 ランナーがないときは、自在結びをさせる。 二組の角綱がそれぞれ対角線上にくるように位置を決めさせる。 張り終わったら、テント袋、マレット等をまとめさせる。 夜間に張り綱につまずかないよう、白布等をくくりつけさせる。 荷物は、非常時に対応できるようにまとめさせる。 晴れた日は、テントの風通しをよくして乾燥させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ペグを打ち込むとき、指を打たないように注意させる。 軍手をして作業をさせる。 		

6	テント撤収		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> テント撤収の技術を身につける。 各自の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。 		
時 間	2時間	準備物 軍手	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 撤収作業を始める数時間前からテントの出入口を開け、通風をよくする。 テント内の荷物を外へ出し、グラウンドシート、フライシートをはずし、よく汚れを取る。 ペグをぬき、水洗いをして泥を落とし乾燥させる。 テント本体の汚れを落とす。 張り綱類は、短く結わえる。 本体をたたむ。 付属品の数を確認、収納袋へ納める。 			<ul style="list-style-type: none"> ビニールコーティングされていない面は、ぬれぞうきんでふかせない。 <p>* テントのたたみかた(家型テント)の1例</p>  <p>1. とびらを閉め、ロープをゆるめて、地面に平らにたたえる。</p>  <p>2. とびらを中央へ折り込み、すべてのロープをたぐってしまひ込む。</p>  <p>3. 右側の方から中央へ折り(収納袋のサイズに合わせて三ツ折か四ツ折かきめる)。</p>  <p>4. ウォールの方を次に折る。</p>  <p>5. 支柱とくいの入った袋を中心に巻き込んでテントを巻いていく。</p>  <p>6. 収納袋(こん包袋)へ納める。</p>
安全指導の ポイント			

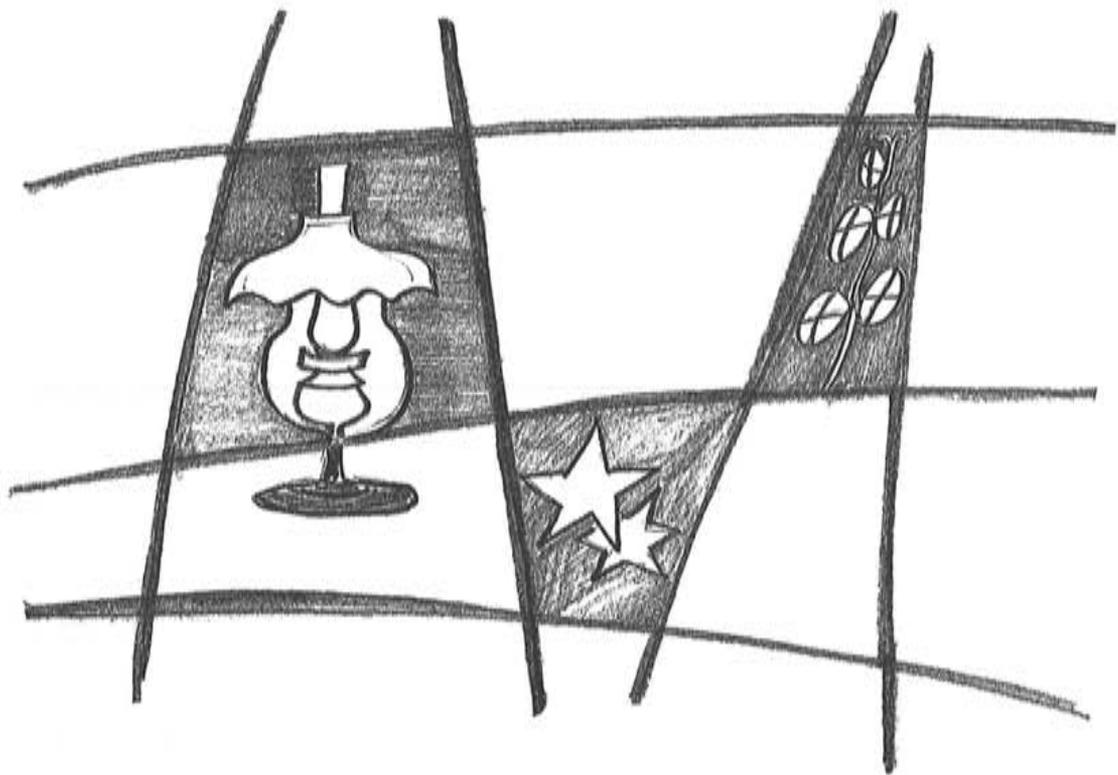
II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

7 ね ら い	自然学校新聞づくり ・ 情報の集め方や新聞としてのレイアウトの取り方などの作業を通して、新聞づくりの方法を理解する。 ・ 自然学校の新聞づくりを通して、人とのふれあいを深める。		
時 間	半日～1日 準備物	展示板 印刷機 インスタントカメラ 模造紙 画用紙 筆記用具 印刷機用原稿用紙 フィルム (ポラロイドスペクトラ) 油性ペン	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 新聞づくりの方法について話を聞く。 2 どんな新聞を作るか構想を練る。 3 記事を集め、新聞づくりをする。 4 展示し紹介し合う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しいこと、がんばっていることが表れるように工夫させる。 ・ それぞれの特技が発揮できるように役割分担を考えさせる。 ・ 取材の仕方をよく指導しておく。 ・ レイアウトを工夫させる。 ・ お互いの特徴や良さを見つけさせる。 ・ 印刷したものは、学校や家に送ったり、地域に配布してもよい。
安全指導の ポイント			



B 共に生きる



II 人とのふれあい

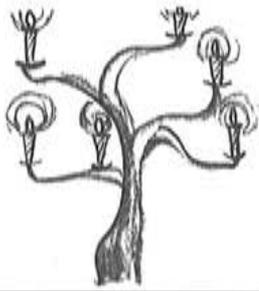
B 共に生きる

1	学級パーティー		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係を深め、思いやりの心や協力する心を養う。 手作りのおやつ作り方を学ぶ。 		
時 間	半日	準備物 野外炊飯道具 ガスコンロ 自転車 ヘルメット プロテクター まき ガスボンベ 軍手 ナップサック お金	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	おやつを何にするかを決める。		<ul style="list-style-type: none"> 金額内で材料や量等を考えさせる。 手作りのおやつにさせる。 買い物係、準備係等手分けをさせる。
2	買い物に行く。		<ul style="list-style-type: none"> お店ではきまりを守って買わせる。
3	おやつ作りをする。		<ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して作らせる。 包丁や火の取り扱い方に気をつけさせる。
4	会場を整えて会食する。		<ul style="list-style-type: none"> 座席など工夫させる。
5	みんなで遊ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ふれあいスペースや芝生広場を使って、グループごとや学級全員でゲームなどをして人間関係を深めさせる。
6	後かたづけをする。		<ul style="list-style-type: none"> 生ゴミの始末をきちっとさせる。 借りた道具は、数を確認して返させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 自転車を利用する場合は、乗り方を十分指導する。 包丁や火の取り扱いに注意させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。

2	自然学校ファイヤー		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 火を囲み、これからの自然学校に向けての決意を新たにする。(前半) 仲間達との生活を振り返り、友情と親睦をさらに深めさせ、今後の学校生活に向けて決意を新たにする。(後半) 		
時 間	1～2時間	準備物 アコーディオン キーボード ギター マイク なた バケツ トーチ棒 灯油 ファイヤー用のまき スタンプの道具	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	点火する。		<ul style="list-style-type: none"> 自然学校に向けての意欲や自然学校で学んだことをグループや個人で発表させる。 発表時間は5分程度とし、体を使って表現させる。 ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。 仰向けに寝転び、星空を観察したり動物や虫の鳴声、葉のふれあう音などを聞く。 火をだんだん小さくしていく。 火を分火する。 分火の時は、火を受け取る側からトーチ棒を差し出させる。 燃えかすの処理は、翌朝にさせる。
2	発表の集いをする。		
3	自己を見つめる。		
4	分火する。		
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ファイヤーの火を必要以上に大きくしない。 トーチ棒で火傷をしないように正しい持ち方を指導する。 		

II 人とのふれあい

B 共に生きる

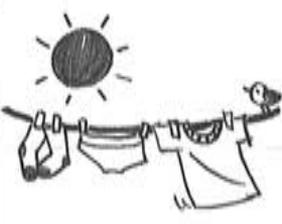
3	キャンドルサービス		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での生活を振り返るとともに、キャンドルを囲んで神秘的な光の中で、ゲームをしたり歌を歌ったりして楽しく過ごす。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 点火する。 2 発表の集いをする。 3 分火する。			<ul style="list-style-type: none"> 地域に伝わる民話等を劇化して、発表させる。 新しく発見したことを、体を使って発表させる。 各グループの発表は、5分程度にさせる。 ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。 静かな歌を歌わせる。 分火用のろうそくの配り方をしっかりと打ち合わせをする。 分火の時は、火を受け取る側からろうそくを差し出させる。 ろうそくの回収や退場の方法など決めておく。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ろうそくで火傷をしないよう正しい持ち方を指導する。 		

4	清掃活動		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなで力を合わせて清掃し、勤労の喜びや感謝する心を養う。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 清掃の方法や分担について話し合う。 2 清掃をする。 3 清掃用具の後かたづけや点検をする。			<ul style="list-style-type: none"> 清掃場所については、施設職員と相談する。 すみずみまできれいにさせる。 来たときよりも美しくを目標に、清掃に取り組ませる。 ゴミは、燃えるゴミと燃えないゴミに仕分けさせる。 掃除終了後、施設職員に連絡する。
安全指導のポイント			

II 人とのふれあい

B 共に生きる

5	スタンツ練習		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校ファイヤーを感動的でより思い出に残るものにさせるために、創意工夫をして表現する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	テーマや素材、表現方法について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 自然学校の中でのできごとを素材にさせる。
2	スタンツを作る。		<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある材料を使った扮装を考えさせる。 発表時間は、1グループ5分程度にさせる。 動作を大きく、声がよく通るように表現させる。
安全指導のポイント			

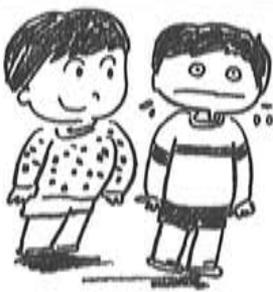
6	洗濯実習		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯の基本的な技術を身につける。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	洗濯の仕方について説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 洗濯機を使うか洗濯板を使うかは、学校で選択する。
2	簡単に洗濯できるものを準備する。 (例) ・靴下 ・ハンカチ ・体操服 ・シャツ 等		<ul style="list-style-type: none"> 洗うものは児童の気持ちを配慮し、決めさせる。
3	洗濯する。		<ul style="list-style-type: none"> 洗濯機や乾燥機の使い方を指導する。
4	干す。		
5	後かたづけをする。		
安全指導のポイント			

7	入校式・退校式		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校に対する決意を新たにしたり、自分の目標を再確認したりして、より充実した自然学校とするための心構えを持つ。 お世話になった方々に対する感謝の気持ちや自然学校の思い出を心に留める。 		
時間	30分	準備物	
活動内容			留意事項
入校式 1 開会 2 校旗掲揚 3 校長先生のお話 4 南但馬自然学校長のお話 5 児童代表の言葉 6 施設の使い方について 7 連絡 8 閉会 退校式 1 開会 2 校長先生のお話 3 南但馬自然学校長のお話 4 児童代表の言葉 5 校旗降納 6 連絡 7 閉会			<ul style="list-style-type: none"> 児童の手で司会進行できるようにさせる。 校歌（入校式の歌）を歌いながら掲揚させる。 内容については、各学校で工夫する。
安全指導のポイント			

8	はじめまして（合同実施校出会いの活動）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 出会いを工夫し、友だちとのふれあいを深める。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 代表者による学校紹介をする。 2 グループ見つけカードをもとに自分たちのパートナーのグループを捜す。 3 お互いに名刺交換をして自己紹介をする。 4 仲間づくりのためのゲームをする。			<ul style="list-style-type: none"> 学校の特徴や学年の様子、校旗や校歌の説明、自然学校への期待などを話させる。 A校とB校のグループがうまく対応できるよう考慮してカードを渡す。 事前に自分たちのグループを紹介するカードを作らせておく。そこには、会話をしないとわからないような事柄を書かせておく。 楽しいユニークな名刺をあらかじめ用意させる。 自己紹介をした後、話が発展するようにいくつかの話題を用意しておく。 ふれあいを深められるゲームをする。
安全指導のポイント			

II 人とのふれあい

B 共に生きる

9	みんな楽しんでいるかい		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出し合い振り返ることを通して、一人一人を大切に思いやるの心を育てる。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	一人で活動を振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じたことを思ったままに書かせる。 自分の行動だけでなく友達とのかかわり方についても考えさせる。
2	グループで話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 感動したこと、うれしかったこと、分かったことなどを十分に発言させる。 自分の思いを十分発言できない子に配慮する。 問題点はみんなで話し合い、解決させる方向へ導き支援する。 自分は楽しかったけど、グループの子や他の子も楽しかったかを考えさせ、思いやりやさしさを育てる。
3	明日の活動について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の動きをみんなが知り、認め、連帯感が高まるよう指導し、明日への意欲を高める。
安全指導のポイント			

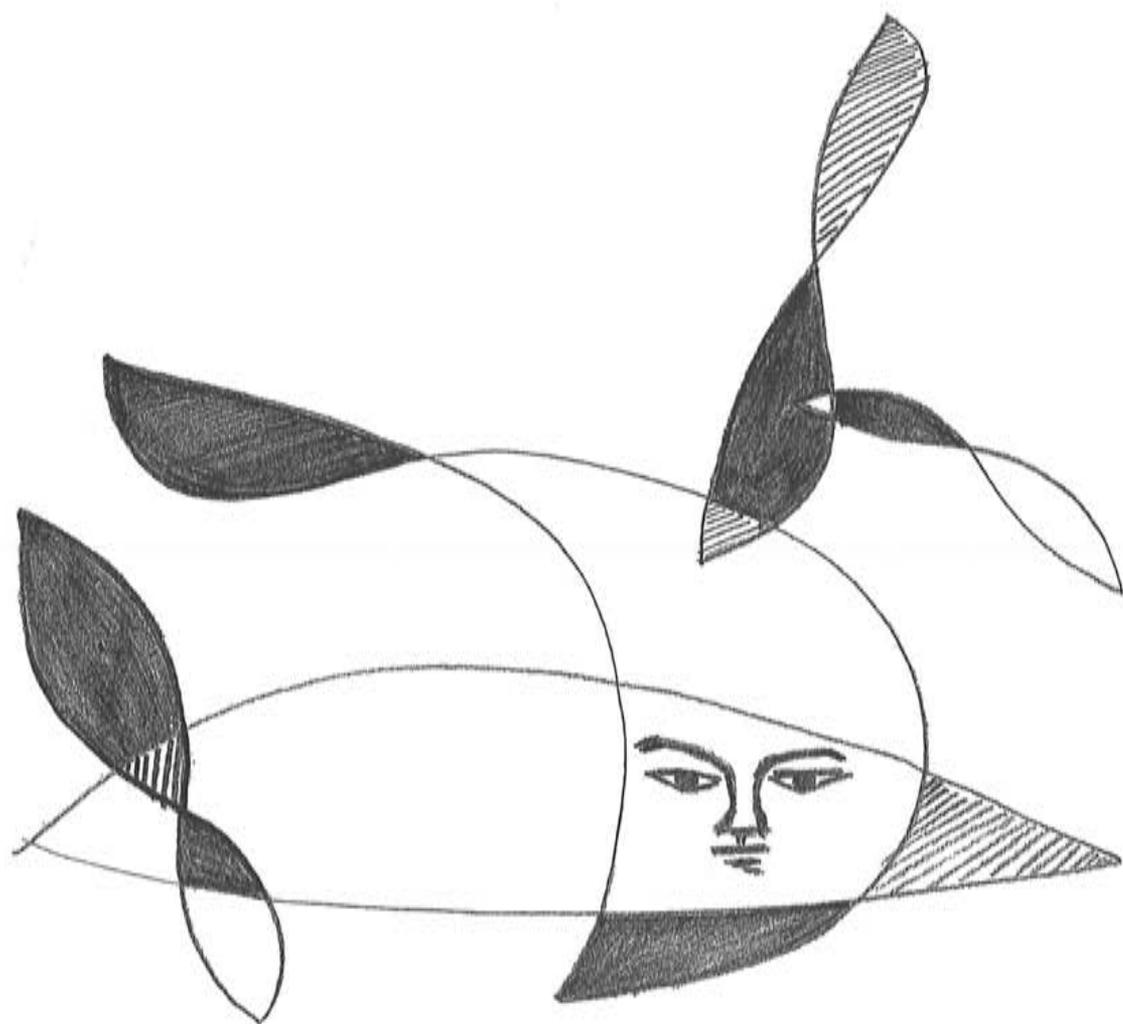
10	お年寄りへの便り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を書くことにより、思いやりの気持ちやお年寄りへの感謝の気持ちを養う。 手紙の書き方を身につける。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	便りを出す相手を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 事前に身の回りの人か地域のお年寄りかを決めておき、住所録等の準備をしておく。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	手紙の書き方を学習する。		<ul style="list-style-type: none"> 手紙の正しい書き方を指導する。
3	手紙を書く。		<ul style="list-style-type: none"> 感謝や思いやりの気持ちをもって書かせる。 自然学校の様子を中心に書かせる。
4	手紙を投函する。		<ul style="list-style-type: none"> 施設のポストを利用する。 地元のお年寄りに出す場合は、活動の趣旨を十分理解していただく。
安全指導のポイント			

14	挑戦 マラソンウォーク		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 仲間とともに苦しいことに挑戦することを通して、持久力や忍耐力を育成するとともに助け合い支え合う温かい人間関係を育てる。 		
時間	1日	準備物 ゼッケン マップケース 無線機 地図 救急バッグ チェックカード タオル 水筒 リュック 雨具 館	
活動内容			留意事項
1	説明を聞き、話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> コース図を渡し、危険箇所やトイレの場所、チェックポイントを知らせる。 チェックポイントを必ず通過するよう指導する。 緊急の場合の連絡について指導する。 踏破するためにはどんなことが大切かグループで話し合わせる。
2	グループごとに出発する。		<ul style="list-style-type: none"> チェックポイントに飲み水などを用意しておく。 チェックポイントで健康チェックをする。
3	ゴールする。		<ul style="list-style-type: none"> 健康チェックをする。 十分休養させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の指導を徹底する。 出発前の健康チェックを徹底する。 歩いている途中で体調が悪くなった場合の対応を指導する。 		



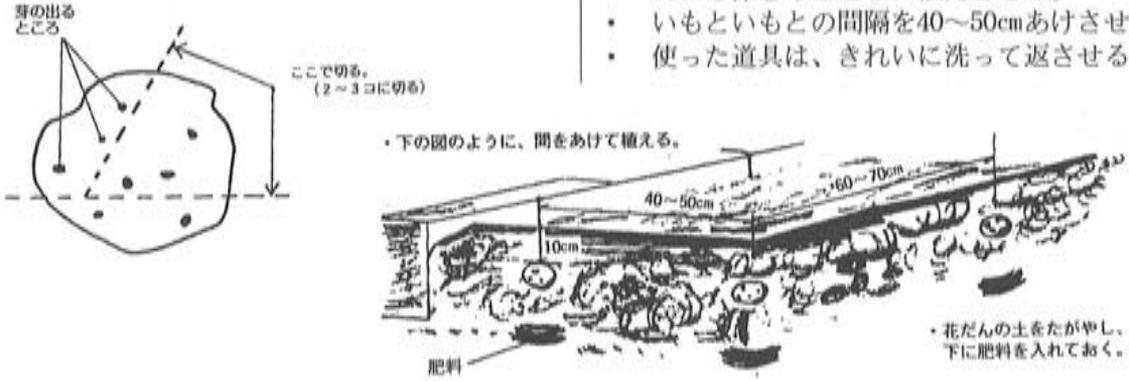
Ⅲ 地域とのふれあい活動

A 地域に学ぶ



Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

1	農業体験		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験を通して、みんなと力を合わせて働く喜びや勤労の尊さを学ぶ。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 畑を耕す。 じゃがいもの植え方の説明を聞く。 じゃがいもを植える。 			<ul style="list-style-type: none"> くわの正しい使い方、うねの作り方の指導をする。 くわを高く振り回さないようにさせる。 大きなたねいもは、2～3に切って植えさせる。 10cmの深さのところに植えさせる。 いもといもとの間隔を40～50cmあけさせる。 使った道具は、きれいに洗って返させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 鎌、くわ、包丁等の使い方に注意させる。 		

2	但馬の言葉（方言学習）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 方言と共通語を比べて、言語への興味や関心を高める。 言語の由来を考え、地域の生活への理解を深める。 		
時間	2時間～半日	準備物	
活動内容			留意事項
<p>（民家訪問の場合）</p> <ol style="list-style-type: none"> 民家を訪ねて、地域の人々と懇談する。 話をしている中で、わからない言葉をメモする。 メモしたこと以外の方言について教えてもらう。 方言を使いながら話をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 民家を訪問するためのマナーについて事前に指導する。 懇談する内容についてあらかじめ考えさせておく。（施設職員と事前に打ち合わせをする。） メモしたことを質問し、共通語に直させる。 自分の住んでいる所の言葉とも比較させる。 今、教えてもらった方言を使いながら、簡単な話をさせる。 お礼をきちんと言って帰らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

3	歴史探険をしよう			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史調査を通して、地域への興味や関心を高める。 自ら計画し実践する活動を通して、学習意欲を高め、自主性や主体性を育てる。 			
時間	1日	準備物	スライド スクリーン スライド映写機 記録用紙 カメラ 模造紙 マジック	
活動内容				留意事項
1	地域の文化遺産を知る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 地名の由来 遺蹟 古墳 お寺 神社 お地蔵さん 城跡 伝統工芸 特産物 古くから伝わる行事 など 			<ul style="list-style-type: none"> スライド、地図、絵などを用意し理解を助ける。
2	調べる内容や方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 係分担 記録方法 			<ul style="list-style-type: none"> 個人選択により課題ごとのグループを作らせてもよい。 時間の計画もさせる。
3	地域に出かけて調べる。			<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に留意させる。 資料が見せていただけるよう、事前に依頼しておく。
4	調べてきたことをまとめ発表する。			<ul style="list-style-type: none"> みんなにわかりやすく発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 			

4	民家を訪ねて			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とのふれあいを深める。 農家の生活と都会の生活を比べさせ、地域による生活文化の違いに気づく。 			
時間	半日	準備物	自転車 ヘルメット プロテクター テープレコーダー 民家の地図 救急バッグ 筆記用具 ノート カセットテープ	
活動内容				留意事項
1	民家でどのような話を聞くか相談する。			<ul style="list-style-type: none"> 何のために民家を訪問するのか課題を明確にさせる。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	民家を訪問して話を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 家を訪問するときのマナーや話の聞き方などについて指導する。 帰るとき、お礼を丁寧に言って帰らせる。
3	各グループごとに感想をまとめ発表する。			<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活と比べて違っているところなどをまとめさせる。 印象に残ったことや地域の人々とふれあった感想などをまとめさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 			

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

5	地域の昔の話		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とのふれあいを深めるとともに、昔の生活と現在の生活を比べ、自分の生活を振り返る。 		
時 間	1～2時間	準備物 マイク ホワイトボード 筆記用具 ノート	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	講師の紹介を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 児童に司会進行させる。 現在の学校と比べながら話を聞かせる。 生活の違いが出て来た理由など考えさせる。 話だけでなく、遊びを教えてもらったりする方がよい。 児童代表にさせる。
2	昔の学校の様子を聞く。		
3	昔の生活の様子を聞く。		
4	昔の遊びの様子を聞く。		
5	お礼を言う。		
安全指導のポイント			

6	但馬の民話		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や歴史への理解を深める。 民話を通して、伝承文学への興味や関心を高める。 		
時 間	1～2時間	準備物 マイク ホワイトボード 筆記用具 ノート	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	講師の紹介を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方を指導する。 学校に帰ってからの発展学習とすることもできる。
2	民話を聞く。		
3	方言などわかりにくい言葉について質問をする。		
4	感想を話し合う。		
5	但馬地方の方言を使って、民話を創作する。		
安全指導のポイント			

Ⅲ 地域とのふれあい

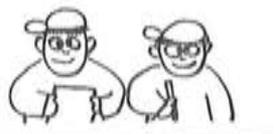
A 地域に学ぶ

7	史跡めぐりサイクリング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や歴史への理解を深める。 体力の向上を図るとともに、たくましい精神力を養う。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	コースを決める。		<ul style="list-style-type: none"> (例) 学校→青年の山→県北農業技術センター→竹田城跡→多々良木ダム周辺→学校
2	コースに従ってサイクリングをする。		<ul style="list-style-type: none"> 健康チェックをする。 交通安全に気をつけさせる。 脚力の弱い児童を先頭にしてサイクリングさせる。 文化財を見学し、その保護に対して関心を持たせる。 グループごとに出発する場合は、必ず指導者がつく。
3	感想などをまとめる。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 施設に帰った後、ゆっくり休ませる。 特に危険な下り坂でのスピードの出しすぎについて指導する。 		

8	竹田城跡早朝ハイキング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の美しさにふれる。 歴史への興味や関心を高める。 体力づくりとやりとげる心を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	施設を出発する。		<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 交通安全に注意させる。 文化財の保護について話をする。
2	竹田城跡で雲海や日の出を見る。		<ul style="list-style-type: none"> 自然の美しさに十分ふれさせる。 竹田城について話を聞かせる。 9月や10月には雲海が見られる。 ゴミはすべて持ち帰らせる。
3	朝食を食べる。		<ul style="list-style-type: none"> ゴミはすべて持ち帰らせる。
4	施設に帰る。		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察を十分にする。 交通安全に気をつけさせる。 帰った後は、十分休養させる。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

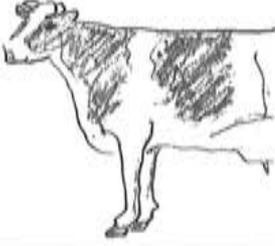
A 地域に学ぶ

9	竹田城跡探偵団		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 歴史への興味や関心を高める。 調査活動を通して探求心を養う。 		
時間	半日～1日	準備物	竹田城跡地図 竹田散策図 バインダー テープレコーダー トランシーバー 探偵課題表 救急バッグ 弁当 模造紙 画用紙 絵の具 筆記用具 水筒 カセットテープ ナップサック 油性ペン
			
		活 動 内 容	留 意 事 項
1		グループごとに探偵課題やコースを決める。 (例) ・竹田城を作った人、年代 ・城の造り、城の役割 ・竹田城と関連の深いお寺 ・竹田地域の家の造り 等	<ul style="list-style-type: none"> 課題を決めることが難しいときは、課題を指導者が示す。
2		調査する。	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護に留意させる。 地区の人に話を聞いたり、説明板を見たりしながら調べさせる。
3		調査したことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 施設に帰ってからまとめさせる。
4		発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ポイントをしばって発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 登山道の歩き方を指導する。 石垣から落ちないように十分指導する。 		

10	農業学習（県立北部農業技術センター）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 農業の研究にたずさわる人々の苦勞や喜びを知り、農業への理解を深める。 		
時間	1日	準備物	自転車 ヘルメット ハンドマイク トランシーバー 救急バッグ プロテクター 弁当 水筒 タオル 帽子 筆記用具 ノート ナップサック
		活 動 内 容	留 意 事 項
1		県立北部農業技術センターへ出発する。 ・ 片道、約6.5km	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 交通安全に注意させる。
2		県立北部農業技術センター内で見学したり体験したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 体験の内容については、施設とよく相談する。
3		質問したり、感想を発表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 質問事項をまとめさせておくとよい。 まとめは施設に帰ってからさせる。
4		施設に帰る。	<ul style="list-style-type: none"> お礼をきちんと言って帰らせる。 交通安全に注意させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意させる。 帰った後、休養を十分とらせる。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

11	牛の見学		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の人々とのふれあいを通して、地域の生活への理解を深める。 • 動物愛護の心を育てる。 		
時間	2時間～半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	牛を飼っている農家を訪問する。		<ul style="list-style-type: none"> • 自転車で移動の場合は、交通安全に注意させる。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	牛を飼う苦労や喜びなどについて話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> • 話の聞き方についてよく指導する。
3	牛の世話をする。		<ul style="list-style-type: none"> • 牛の角や足の動きに注意させる。 • 牛をびっくりさせたり、からかったりしないように注意させる。
4	質問したり、感想を発表したりする。		<ul style="list-style-type: none"> • 見学して学んだことをノートにまとめさせる。(まとめは施設に帰ってからでもよい。)
5	施設に帰る。		<ul style="list-style-type: none"> • お礼をきちんと言って帰らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> • 牛をからかったりしないよう指導する。 • 自転車を扱う場合は、交通安全指導を徹底する。 		

12	名人入門		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • 名人の苦労話を聞いたり、体験したりすることによって、自己の生き方を考える機会とする。 • 地域の人々とのふれあいを深める。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	どこにどのような名人がいるか説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> • 地図を配布し、説明をする。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	どの名人に入門するか決める。		<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちの興味や関心を大切にしながら、グループの人数を調整する。 • 名人の苦労や工夫について予想させ、質問したいことをまとめさせる。
3	名人に会いに行き、話を聞いたり、体験したりする。		<ul style="list-style-type: none"> • 行き帰りの安全確保と活動に対する助言のため、グループごとに必ず指導者を配置する。 • 帰ってからの報告会のため、メモを取るなど工夫させる。
4	報告会をする。		<ul style="list-style-type: none"> • 感動したこと、気づいたことを報告させる。 • お礼の手紙を書かせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> • 交通安全指導を徹底する。 • 体験内容により危険なことに対して十分指導する。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

13	アイディア郷土料理大会		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特産物を素材として料理を作ることを通して、地域の食文化を知る。 ・ 料理の楽しさを味わわせるとともに、地域に対する関心を高める。 		
時間	1日	準備物 自転車 ヘルメット プロテクター 野外炊飯道具 たわし 洗剤 薪 炊飯材料 現金 軍手 ふきん 審査票 リュック	
活動内容			留意事項
1	料理を作る計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の素材をひとつ指定し、それを利用した新しいアイディアの料理に挑戦させる。 ・ 野外炊事の道具だけで作れる料理を計画させる。
2	材料の買い出しに行く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料費の上限を設定する。 ・ 施設内で得られる材料があれば、それも利用させる。
3	料理を作る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的なゆとりを持って取り組ませる。 ・ 料理に名前をつけさせる。
4	試食会を開く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準は事前に明らかにしておく。
5	感想を話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦労したところやうまくいったところを互いに発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の安全な乗り方を指導する。 ・ 買物時の交通安全に気をつけさせる。 ・ 火傷をしないよう軍手を使用させる。 		

14	地域の仕事をしよう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の苦労や楽しさを体験する。 ・ 仕事体験を通して地域の仕事や生活の様子を知る。 		
時間	1日	準備物 必要な道具 のこ なた タオル 軍手	
活動内容			留意事項
1	山仕事の話聞く。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の様子 ・ 仕事の内容や必要性 ・ 道具の使い方 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 山仕事で危なかったことや気をつけていることも話してもらえるよう依頼しておく。 ・ 仕事の意義がわかるよう、その必要性についても話してもらえるよう依頼しておく。
2	山仕事の体験をする。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 枝打ち ・ 下草刈り ・ 苗植え ・ 伐採 ・ つる切り 等 ・ 薪づくり ・ 苗づくり ・ 間伐 ・ 皮むき 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が目の行き届く人数で活動させる。 ・ 安全に配慮した服装でさせる。 ・ 安全指導が徹底できるよう、指導者を配置する。 ・ 安全確保のために、休憩をきちんと取らせる。
3	感想を話し合ったり、仕事の苦労や楽しさを聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ その時だけでなく、仕事が数十年にわたることや1年間に繰り返される季節に合わせた仕事のことなども話してもらうよう依頼しておく。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の安全な使用方法を指導する。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

15	観光マップをつくろう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図作りを通して、探求心を養うとともに地域の人々とのふれあいを深める。 ・ 地域への興味や関心を高める。 		
時間	1日	準備物	地域の地図 テープレコーダー 白地図 地図記号の一覧表 カセットテープ
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1 どのような地図を作るのか、班ごとに話し合う。 2 地図の作り方について説明を聞く。 3 地域を歩き、調べる。 4 地図作りをする。 5 班ごとに発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図記号の一覧表で、記号のおさらいをさせる。 ・ わからないことや、困ったことについては、地域の人にすすんで質問させる。 ・ 学校からあらかじめ地区の方に、子どもたちが出歩く旨、連絡を入れておく。 ・ 色分けをする等、分かりやすく工夫させる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全指導を徹底する。 		

16	新聞記者になろう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の課題や取り組みを知り、地域づくりへの関心を高める。 ・ 新聞づくりの方法を身につける。 		
時間	1日	準備物	地域の地図 テープレコーダー カメラ 新聞づくりに必要な用具 カセットテープ
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちの住んでいる地域の課題についてまとめる。 2 自然学校実施地域がかかえている課題を予想させる。 3 取材活動をする。 4 取材したことをまとめ、新聞を作る。 5 掲示し、意見交換をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活に結びついた問題から意見を出させる。 ・ 自分たちならどうするかという意見をまとめさせておく。 ・ 内容を前もって市町の方に依頼しておく。 ・ 課題だけでなく、町おこしの事業についても取材させる。 ・ 質疑のなかった課題に対しても話していただく。 ・ 子どもたちの自由な発想を大切にしながら新聞にまとめさせる。 ・ 自分たちの住んでいる地域のことも含めさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全指導を徹底する。 		

B 地域に親しむ



Ⅲ 地域とのふれあい

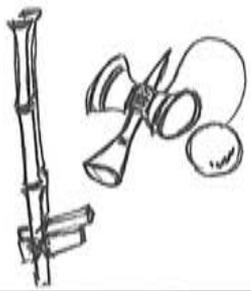
B 地域に親しむ

1	ゲートボール交流		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りと一緒に楽しくゲームすることで高齢者の人柄にふれ、思いやりの心や温かく接する態度を育てる。 		
時間	半日 準備物	ゲートボール用具 ラインカー 巻き尺 帽子 タオル	
活動内容			留意事項
1 児童代表あいさつ。 2 ゲートボールのルール説明を受ける。 3 グループを決める。 4 練習をする。 5 ゲートボール大会をする。 6 成績を発表する。 7 茶話会する。			<ul style="list-style-type: none"> 実技をしながら説明した方がわかりやすい。 児童単独チーム、お年寄り単独チーム、混合チームなどいろいろな工夫させる。 お年寄りから指導を受ける。 すばらしいプレーには拍手をおくらせる。 指導を受けたりしながら、ふれあわせる。 ゲートボールのことなどについて質問したりして楽しく過ごさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> スティックを振り回すなど、危険のないように注意させる。 		

2	ウォークラリー		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 判断力を養い、協力の大切さを学ぶ。 地域の生活や文化への関心を高め、人とのふれあいを深める。 時と場に応じて、礼儀正しく真心をもって接する態度を養う。 		
時間	半日～1日 準備物	ウォークラリー用地図 地図入れ トランシーバー 救急バッグ 帽子 タオル 水筒	
活動内容			留意事項
1 ウォークラリーの方法についての説明を聞く。 2 コースを歩く。			<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 グループでそろって行動するようにさせる。 事前の下見をして、危険な箇所がないかチェックする。 何を学ばせるかねらいをはっきりさせ、子どもたちが興味をもって取り組めるものにする。 課題解決をさせる。 分岐点には標識などの目印を設置する。 ポイントで指導をする。 交通安全に気をつけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意する。 健康観察をする。 危険箇所のチェックをし、指導をする。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

3	昔の遊び		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人に昔の遊びを教えてもらうことにより、地域の人々とふれあいを深める。 ・ 昔の遊びの楽しさを知ることにより、自分たちの遊びを見直す。 ・ 誰に対しても思いやりの心をもって接したり、行動したりする態度を養う。 		
時 間	半日	準備物 竹馬 けん玉 ビー玉 お手玉 等	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 遊び方について話を聞く。			・ 遊び方、ルールなどについて説明を聞く。
2 グループ編成をする。			・ 遊びに適したグループの人数にする。
3 遊びの準備をする。			・ 場所を考えて道具の準備をさせる。
4 遊ぶ。			・ グループごとに遊ばせる。
5 他の遊びをする。			・ 時間を決めてローテーションさせる。
安全指導の ポイント	・ 竹馬に乗る場合、ふざけないようにさせる。		

4	地元の学校との交流		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団への所属感、連帯感を深め、望ましい人間関係を養う。 ・ 地元の小学校や保育所の児童、園児との交流を通して、友情を深める。 		
時 間	2時間～ 半日	準備物 ドッジボール バレーボール 長縄など 交流に必要なもの	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 対面式をする。			・ あらかじめ児童代表による打ち合わせの機会をもつとよい。
2 交流活動について説明する。			・ 学校紹介等をさせる。
3 交流する。			・ 遊びの説明をしたり、グループ分けをしたりする。
4 お別れの式をする。			・ 学校ごとのグループや混合グループなどいろいろ工夫させる。
1 交流する。			・ 楽しくふれあいをさせる。
4 お別れの式をする。			・ 感想などを発表させる。
安全指導の ポイント	・ 学校や保育所を訪問する場合は、交通安全指導を徹底する。		

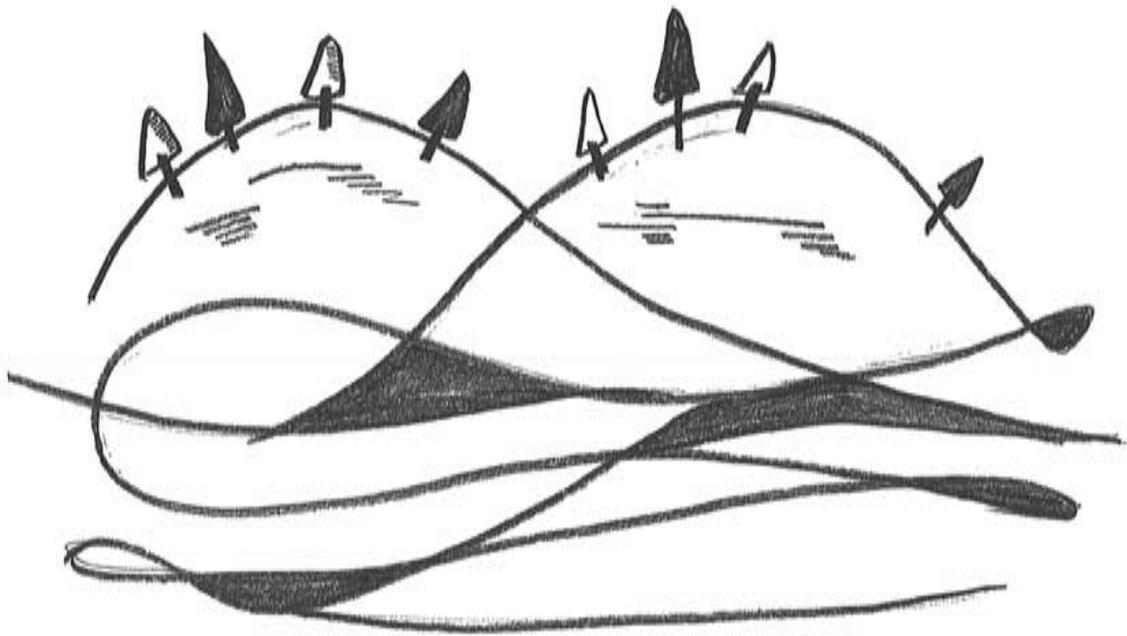
Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

5	買い物（食事材料の買い出し）		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの力で買い物をすることにより、金銭感覚や自主的、実践的な態度を養う。 自分の役割を責任をもって果たす態度を養う。 地域の人々とのふれあいを深める。 		
時 間	3時間	準備物 自転車 ヘルメット プロテクター トランシーパー 救急バッグ お金 買い物材料表 ナップサック	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 買い物の仕方について説明を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 店の場所、品物等の下調べを事前にする。 事前に商店に連絡をしておく。
2 買い物の相談をする。			
3 買い物をする。			
4 買い物の報告をする。			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 		

6	いろいろカルタ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの心のつながりを深める。 地域の生活や文化について興味や関心を高める。 		
時 間	1時間	準備物 朝来町カルタ 兵庫県カルタ（草木、野鳥） 昆虫カルタ	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 カルタ大会のルールの説明を聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 読心係、得点係など係分担を考えさせる。 個人戦やグループ対抗戦などをさせる。 自分たちの地域のカルタづくりに発展させる。
2 カルタ大会をする。			
安全指導の ポイント			

C 地域に奉仕する



Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

1	缶トリー遠足		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力して缶拾いをしながら、奉仕の喜びや尊さを体験する。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	活動の意義や方法についての説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 道路以外にも目を向けさせるが、私有地には無断で入らないようにさせる。 缶の計量は行ってもよいが、競争意識をあおらないように注意させる。 交通安全に注意させる。 草地にあるものは、かなばさみで拾わせる。 軍手を着用させる。 アルミ缶とスチール缶、ビン類を仕分けさせる。
2	各グループごとに、缶拾いをする。		
3	缶の計量をする。		
4	集めた缶の多さを見ながら、感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全について指導を徹底する。 必ず軍手をつけさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 草むらに手を入れないように注意させる。

2	草刈り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなと力を合わせて施設内や施設周辺の草刈りを行い、奉仕の喜びや尊さを体験する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	草刈りの場所や方法について説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> グループごとに場所を設定する。 鎌の使い方の指導をする。 草刈りの区分や役割について話し合わせる。 みんなと協力して、草刈りをさせる。 刈った草の処理の仕方を確認する。 道具の点検をさせる。
2	グループに分かれてやり方について相談をする。		
3	草刈りをする。		
4	後かたづけをする。		
5	感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 鎌の使い方を指導する。 軍手、長靴を使用させる。 ハチやマムシなどに気をつけさせる。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

3	福祉体験活動（恵生園、真生園、平生園）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても思いやりの心を持ち、共に生きる社会づくりをめざした福祉の心を育てる。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 施設の意義や働いている人たちの話を聞く。 施設の人たちと話をする。 車椅子などの体験をする。 授産体験をする。 （例） <ul style="list-style-type: none"> はがきづくり ・あみもの 竹細工 ・たまかご しょうゆ入れ切り 等 奉仕活動をする。 清掃等 職員に質問をしたり、感想を話し合う。 			<p>あらかじめ園の関係者と十分打ち合わせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉について日頃から耕しをしておくことが大切である。 事前に話の内容などを考えさせておくとよい。 施設内の行動は静かにさせ、遊び半分にならないようにさせる。 グループに分かれて体験させる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 施設内であればないようにさせる。 	

4	登山道づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなで力をあわせて登山道づくりをすることにより、自然学校をより思い出深いものにする。 自然や環境に対して興味関心を高める。 後輩に残していく思いやりの心を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 登山道づくりの意義を聞く。 現場まで行く。 グループに分かれて道を作る。 下山する。 感想を話し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> 事前に職員と相談して、作業場所や作業内容、作業量などを決定する。 道具を持ち運ぶ場合は注意をさせる。 自然の状況を変えることは最小限度にさせる。 道具の使い方に注意させる。 道具を忘れないようにする。 道具の持ち運びに気をつけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を指導する。 長袖、長ズボン、軍手を着用させ、長靴を使用させる。 	

1 自然学校の円滑な実施のために

自然学校は各学校が主体的に計画し実施するものであるが、昭和63年度の実施以来、県教育委員会では、自然学校をより充実したものとするためさまざまな施策を講じてきた。

平成10年度においては、下記のことがらについて、重点的にその徹底を図ってきた。

(1) 自然学校専門指導員等の配置及びその活動

① 自然学校専門指導員の配置

- ア 教育事務所配置 → 実施校の事前指導・現地指導・事後指導、プログラム指導、プログラム開発及び研究調査、指導員・救急員等の確保等
- イ 県立拠点施設配置 → 実施校の現地指導、受入れ準備、プログラム相談・開発、下見相談、調査・統計等

嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター

- ② 自然学校救急員の配置 → 実施校の健康安全指導・事前指導、
子どもの病気・けが等の応急処置及び医療機関利用の判断
子どもの健康状況調査、施設内の安全指導等

嬉野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター
丹有・西播磨・但馬教育事務所、南但馬自然学校

③ 自然学校専門指導員の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校専門指導員を実施校の要請に応じて派遣する。

- ア 指導内容 → 事前指導、現地指導、事後指導
- イ 派遣場所及び範囲 → 自然学校専門指導員が所属する教育事務所管内の県立及び市町組合立等施設及び所属する教育事務所管内の実施校
- ウ 派遣申請 → 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町教育委員会を通じて教育事務所長に「自然学校専門指導員派遣申請書」を提出する。

④ 自然学校救急員の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校救急員を実施校の要請に応じて派遣する。

ア 派遣施設

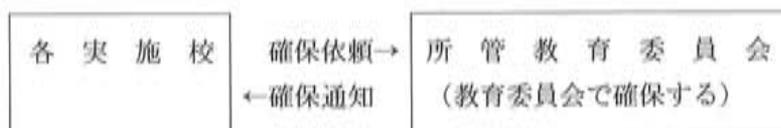
配 置	派 遣 先
丹有教育事務所	管内の公立施設、奥猪名健康の郷
西播磨教育事務所	管内の公立施設
但馬教育事務所	管内の公立施設（豊岡市、城崎郡、出石郡、浜坂町、温泉町）
南但馬自然学校	但馬教育事務所管内の公立施設（朝来郡、養父郡、村岡町、美方町）

- イ 派遣申請 → 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町教育委員会を通じて、教育事務所長に「自然学校救急員（非常勤）派遣申請書」を提出する。

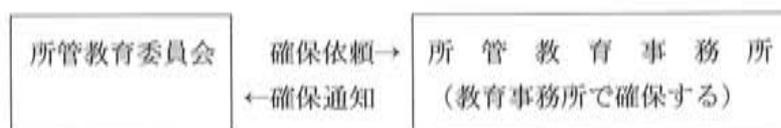
(2) 指導員等の確保方法

実施校が、実施計画に基づき、必要な人材の確保を所管の教育委員会に依頼すれば、教育委員会は責任を持って教育事務所、野外活動施設と連携し、当該自然学校の円滑な実施が図られるようにする。

① 実施校が所管の教育委員会に確保を依頼する。



② 所管の教育委員会で確保が困難な場合は、管内の教育事務所に確保を依頼する。



③ 野外活動施設等は、当該活動施設で確保できる人材（技術指導員、指導補助員、救急員）を学校、教育委員会、管内教育事務所に明示し、十分連携できるようにする。

(3) 事業費の補助について

① 市町が県の補助を受けて実施する自然学校に要する経費に対し、自然学校推進事業補助金交付要綱の規定により補助金を交付する。

② 自然学校推進事業の実施にかかる補助申請及び経費の執行に当たっては、事業の趣旨を踏まえ主体的に計画された各実施校のプログラム等が円滑に実施できるよう配慮する。

〈平成10年度自然学校実施にかかる補助対象事業費限度額〉 単位（千円）

クラス規模	1	2	3	4	5	6	7 (1e1増すごとに加算)	補助額は 事業費の 2 / 3
事業費	580	920	1,285	1,505	1,735	1,995	150	

自然学校推進事業補助金交付要綱

(通 則)

第1条 自然学校推進事業補助金（以下「補助金」という。）の交付については、この要綱の定めるところによる。

(交付の目的)

第2条 この要綱は、市町（市町の組合含む。以下同じ。）が、心身ともに調和のとれた健全な児童の育成を図るため、豊かな自然環境の中での集団宿泊生活を通じて自然とのふれ合いや人とのふれ合いを体験する学校教育活動を推進する自然学校推進事業（以下「補助事業」という。）を実施するために必要な経費の一部を補助し、もって学校教育の充実に資することを目的とする。

(交付の対象及び補助金の額等)

第3条 県は、市町に対して、補助事業に要する経費について、予算の範囲内で別表に定める補助対象経費及び学級規模の事業費限度額により、その3分の2以内の額を補助するものとする。

(申請手続)

第4条 補助金の交付を受けようとする市町は、交付申請書（様式第1号）に収支予算書（様式第2号）を添えて県教育長に対しその定める時期までに提出しなければならない。

(交付決定)

第5条 県教育長は、前条の申請書の提出があったときは、審査の上、補助金を交付すべきものと認めるときは、交付の決定を行い、交付決定通知書（様式第3号）により通知するものとする。

(申請の取下げ)

第6条 市町は、前条の通知を受領した場合において交付決定の内容又はこれに付した条件について不服があるときは、交付決定の通知を受領した日から10日以内に補助金の交付の申請を取り下げることができる。

2 前項の申請の取下げがあったときは、当該申請に係る交付決定はなかったものとみなす。

(補助事業の遂行)

第7条 補助金の交付決定を受けた市町（以下「補助事業者」という。）は、補助事業を遂行するために契約を締結し、又は支払いを行う場合には、法令の定めに従い、公正かつ最小の費用で最大の効果をあげ得よう経費の効果的使用に務めなければならない。

(計画変更の承認)

第8条 補助事業者は、補助事業の内容を変更しようとする場合には、事業計画変更承認申請書（様式第4号）を提出し、その承認を受けなければならない。

ただし、補助金の額に増減をきたすことなく、かつ、実施校数又は児童数の20%を超える変更以外の変更については、この限りでない。

2 県教育長は、前項の承認をする場合においては、必要に応じて交付決定の内容を変更し、又は条件を付することができる。

(事業の中止又は廃止)

第9条 補助事業者は、補助事業を中止又は廃止しようとするときは、事業中止（廃止）等を記載した承認申請書（様式第5号）を県教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

(交付決定額の変更)

第10条 補助事業者は、第5条の規定により通知された金額（以下「交付決定額」という。）の変更を受けようとするときは、県教育長が指定する期日までに補助金変更交付申請書（様式第6号）を提出しなければならない。

2 県教育長は、前項の申請があったときは、第5条の規定に準じ決定を行い、補助金交付決定変更通知書（様式第7号）により通知するものとする。

(事業遅延の届出)

第11条 補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了する見込みがないとき、又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかにその旨を記載した報告書を県教育長に提出し、その指示を受けなければならない。

(状況報告)

第12条 補助事業者は、補助事業の遂行及び支出状況について、県教育長が指定する日までに、状況報告書（様式第8号）を県教育長に提出しなければならない。

(実績報告)

第13条 補助事業者は、補助事業が完了したとき（廃止の承認を受けたときを含む。）は、その日から起算して30日を経過した日又は補助金の交付決定のあった年度の3月31日のいずれか早い日までに実績報告書（様式第9号）に収支決算書（様式第10号）を添えて県教育長に提出しなければならない。

(補助金額の確定等)

第14条 県教育長は、前条の報告を受けた場合においては、報告書等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容（第8条に基づく承認をした場合は、その承認された内容）及びこれに付した条件に適合するものであるかを調査し適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に補助金額確定通知書（様式第11号）により通知するものとする。

2 県教育長は、確定した補助金の額が、交付決定（第10条第2項の規定により変更された場合にあっては、同項の規定により通知された金額をいう。）と同額であるときは、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付等)

第15条 補助金は、前条第1項の額の確定後、補助事業者から提出される補助金請求書（様式第12号）により交付する。

2 県教育長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず概算払いをすることがある。

(交付決定の取り消し)

第16条 県教育長は、次に掲げる場合には、第5条の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 第9条の補助事業の中止又は廃止の申請があったとき。
- (2) 補助事業者が、この要綱の規定に違反したとき。
- (3) 補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用したとき。
- (4) 補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適切な行為をしたとき。

- (5) 交付の決定後生じた事情の変更等により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなったとき。

(補助金の返還)

第17条 県教育長は、前条の取消しをした場合において、当該取消しに係る部分に関する補助金が既に交付されているときは、期限を定めてその返還を命ずることができる。

- 2 県教育長は、第14条第1項の確定を行った場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、期限を定めてその超える部分の補助金の返還を命ずることができる。

(加算金及び遅延利息)

第18条 補助事業者は、第16条第1号から第3号までに定める事由により、前条第1項の規定による補助金の返還を命じられたときは、その命令に係る補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該補助金の額につき年10.95%の割合で計算した加算金を県に納付しなければならない。

- 2 補助事業者は、補助金の返還を命じられ、これを期限までに納付しなかったときは、納期期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、当該未納付額につき年10.95%の割合で計算した遅延利息を県に納付しなければならない。

(補助金の経理)

第19条 補助事業者は、補助事業について収支簿を備え、他の経理と区分して補助事業の収入額及び支出額を記載し、補助金の用途を明らかにしておかなければならない。

(補助金調書)

第20条 補助事業者は、当該補助金事業に係る歳入・歳出の予算書及び決算書における計上科目別計上金額を明らかにする調書を作成しておかなければならない。

(帳簿の備付け)

第21条 補助事業者は、当該補助事業に係る収入及び支出について証拠書類を整理し、当該補助事業が完了した年度の翌年度から5年間保存しなければならない。

(書類の経由)

第22条 この要綱の規定により県教育長に提出する書類の提出部数は2部とし、補助事業者（神戸市を除く。）は所管の教育事務所を経由して、兵庫県教育委員会事務局義務教育課へ提出するものとする。

(補 則)

第23条 この要綱に定めのない事項については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）の規定によるものとする。

別表

補助対象とする経費の範囲は、次のとおりとする。

1 技術指導謝金	現地で専門家、技術者による講義、技術等の指導を委嘱する場合の講師等に対する謝金とする。
2 指導補助員謝金	教員を助けて児童の引率や指導を行う指導補助員を委嘱する場合の指導補助員に対する謝金とする。 指導補助員については、養護教諭の代替としての看護婦等を補助員（救急員）として委嘱する場合も補助対象とする。
3 交通費	児童が学校から自然学校の場となる施設等への移動及び帰校に要する交通費（バス借上料を含む）とする。 また、宿泊地から他の場所へ見学等で移動する場合の交通費についても対象とする。
4 施設使用料	自然学校に利用する施設・設備等の使用料とする。なお、食事代、見学科（観賞料）及び引率教員に係る施設使用料は含まれない。
5 消耗品費	自然学校の実施に必要な消耗品の購入に要する経費とする。 なお、教材・教具等で明らかに個人の所有に帰するものは含まない。
6 要保護・準要保護児童にかかる食事代等に要する経費	要保護・準要保護児童にかかる食事代、見学科、教材費などの負担に要する経費とする。

2 自然学校に活用されている主な宿泊施設

区分	施設名	所在地	宿泊棟収容人数	連絡	
国立	淡路青年の家	〒656-0543 三原郡南淡町阿万塩屋757-39	400	0799-55-0460	
県立	南但馬自然学校	〒669-5134 朝来郡山東町迫間字原189	270	0796-76-4730	
	総合体育館	〒663-8142 西宮市鳴尾浜1丁目16-8	約400	0798-43-1143	
	奥猪名健康の郷	〒666-0201 川辺郡猪名川町杉生字奥山1-22	180	0727-69-0485	
	丹波林間学校	〒669-2145 多紀郡今田町木津字前山191-2	100	今田町教育委員会 0795-97-3088	
	嬉野台生涯教育センター	〒673-1415 加東郡社町下久米1227-18	480	0795-44-0711	
	母と子の島	〒672-0100 飾磨郡家島町西島	217	07932-7-1508	
	西はりま天文台公園	〒679-5313 佐用郡佐用町西河内407-2	128	0790-82-0598	
	三室高原青少年野外活動センター	〒671-3232 宍粟郡千種町河内	120	0790-76-2249 千種町教育委員会 0790-76-2210	
	西播磨文化会館	〒679-4311 揖保郡新宮町宮内458-7	80	0791-75-3663	
	兎和野高原野外教育センター	〒667-1336 美方郡村岡町宿字兎和野791-1	184	0796-94-0211	
	但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土	69	0796-92-2641	
	但馬長寿の郷	〒667-0021 養父郡八鹿町八鹿1675	100	0796-62-8456	
	淡路文化会館	〒656-1521 津名郡一宮町多賀600	60	0799-85-1391	
	市町組合立等	神戸市立自然の家	〒657-0101 神戸市灘区六甲山町中一里山1-1	358	078-891-0001
		宝塚市立少年自然の家	〒669-1211 宝塚市大原野字松尾1	320	0797-91-0314
伊丹市立野外活動センター		〒669-1412 三田市木器字南下山1266-10	280	0795-69-1165	
三田市立野外活動センター		〒669-1401 三田市小楠949	160	0795-69-0388	
組合立丹波少年自然の家		〒669-3803 氷上郡青垣町西芦田イゲ32-2	444	0795-87-1633	
明石市立少年自然の家		〒674-0064 明石市大久保町江井島567	230	078-947-6181	
加古川市立少年自然の家・野外活動センター		〒675-0058 加古川市東神吉町天下原715-5	200	0794-32-5177	
西脇市立青年の家		〒677-0039 西脇市上比延町字伊勢山1434-8	200	0795-22-3703	
加美町立青年の家		〒679-1201 多可郡加美町豊部1840-53	100	0795-35-1572	
高砂市立青年の家		〒676-0031 高砂市高砂町向島町1710	106	0794-43-2155	
姫路市立藤ノ木山野外活動センター		〒679-2113 姫路市山田町南山田1354-4	320	0792-63-2997	
姫路市立引原野外活動センター		〒671-4204 宍粟郡波賀町引原307-3	326	0790-73-0453	
姫路市立梯野外活動センター		〒671-2513 宍粟郡山崎町梯313-13	420	0790-62-3121	
波賀町サイクリングターミナル (波賀高砂の家)		〒671-4213 宍粟郡波賀町原625	120	0790-75-2355	
財団法人峰山高原簡易保険総合レクセンター		〒679-3125 神崎郡大河内町上小田881-146	336	0790-34-1515	
尼崎市立美方高原自然の家		〒667-1532 美方郡美方町新屋(中サバ)	260	0796-97-3601	
あけのべ自然学校		〒667-0435 養父郡大屋町和田1184(明延)	225	0796-68-0258	
西宮市立山東少年自然の家		〒669-5125 朝来郡山東町粟鹿字細田2179	260	0796-76-4100	
休暇村竹野海岸		〒669-6201 城崎郡竹野町竹野1047	157	0796-47-1511	
但馬海岸豊岡簡易保険保養センター		〒669-6123 豊岡市小島字荷柄1188-8	90	0796-28-3375	

3 自然学校で活用されている主な県立施設

施設名	所在地	主な活動	連絡
防災科学館	〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山15-13	・防災学習(地震体験)	078-741-6533
海洋体育館	〒659-0032 芦屋市浜風町30-2	・カヌー、ヨット、ボート体験	0797-32-2255
人と自然の博物館	〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目	・屋内展示の自然めぐり ・環境学習等	0795-59-2001
丹波年輪の里	〒669-3312 氷上郡柏原町田路102-3	・クラフト創作を主とした木の文化にふれる活動	0795-73-0725
フラワーセンター	〒679-0187 加西市豊倉町飯森1282-1	・四季の草花を楽しむ活動 ・野外広場での活動	0790-47-1182
播磨中央公園	〒679-0212 加東郡滝野町下滝野1275-8	・バラ園フラワーガーデン ・マウンティンバイク等	0795-48-5289
三木山森林公園	〒678-0433 三木市福井字三木山2465-1	・森林浴	0794-83-6100
東はりま日時計の丘公園	〒679-0312 多可郡黒田庄町門柳871-14	・燻製体験 ・木工クラフト ・ホタルの観察	0795-28-4851
歴史博物館	〒670-0012 姫路市本町68	・兵庫県の歴史学習 ・姫路城に関する学習	0792-88-9011
昆虫館	〒678-5227 佐用郡南光町船越617	・生きた昆虫の生態観察 ・昆虫の標本見学	0790-77-0103
赤穂海浜公園	〒678-0215 赤穂市御崎1857-5	・塩づくり体験 ・アスレチック	07914-5-0800
播磨科学公園都市オプトピア (PR館)	〒678-1201 赤穂郡上郡町金出土1499-3	・播磨科学公園都市の見学	07915-8-1155
水産試験場内水面漁業センター	〒679-3442 朝来郡朝来町田路1164	・淡水魚の生態観察 ・魚釣り体験	0796-78-1701
北部農業技術センター	〒669-5254 朝来郡和田山町安井123	・農産物の加工体験 ・牛の見学	0796-74-1230
森林・林業技術センター 緑化センター	〒669-5114 朝来郡山東町野間903-1	・樹木を中心とした体験学習	0796-76-2257
円山川公苑	〒668-0000 豊岡市小島荷柄1163	・カヌー、カヤック、カッター ・スケート体験 ・プール	0796-28-3085
但馬ドーム	〒669-5379 城崎郡日高町名色88-50	・ニュースポーツ等	0796-45-1900
淡路島公園	〒656-2401 津名郡淡路町岩屋大林2674-3	・園内散策 ・アスレチック	0799-72-5366
淡路ファームパーク	〒656-0402 三原郡三原町八木養宜上1396	・動植物とのふれあい体験	0799-42-2440
淡路ふれあい公園	〒656-0122 三原郡緑町広田広田1473-12	・野外での遊び	0799-45-1735
但州丸(香住高等学校)	〒669-6563 城崎郡香住町矢田40-1	・実習船但州丸の見学及び乗船	0796-36-1181

平成10年・11年度兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会委員名簿

(順不同)

分野	氏名	所属・職名
学識経験者	山田 誠	神戸市外国語大学教授（委員長）
	新穂 千賀子	県立姫路工業大学助教授（副委員長）
	人見 修一	兵庫教育文化研究所事務局長
野外活動施設関係者	中井 宏	県立兎和野高原野外教育センター自然学校専門指導員（施設駐在指導担当）
	佐伯 和樹	県立嬉野台生涯教育センター 自然学校専門指導員（施設駐在指導担当）
自然学校専門指導員	石飛 弥生	阪神教育事務所 自然学校専門指導員（自然学校派遣指導担当）
	色波 亨	東播磨教育事務所 自然学校専門指導員（自然学校派遣指導担当）
	中川 光之	但馬教育事務所 自然学校専門指導員（自然学校派遣指導担当）
関係行政機関関係者	笠原 清次	県教育委員会義務教育課指導主事（自然学校推進担当）
自然学校実施校教員	川原 雅樹	今田町立今田小学校教諭
	駒田 明子	福崎町立田原小学校教諭
	原田 武	一宮町立江井小学校教諭
南但馬自然学校指導主事	北本 重安	県立南但馬自然学校主任指導主事
	門脇 明好	県立南但馬自然学校主任指導主事
	小谷 一良	県立南但馬自然学校指導主事
	福本 千歳	県立南但馬自然学校指導主事
	段畑 哲也	県立南但馬自然学校指導主事

平成10年度
自然・人・地域に学ぶ
平成11年3月発行

発行 兵庫県立南但馬自然学校
☎669-5134
兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
☎0796-76-4731
印刷 岩見印刷株式会社

